

第1章 出水市の現況

1 自然的条件

1-1 位置

鹿児島県の北西部、東経 130 度 14 分～130 度 30 分、北緯 31 度 58 分～32 度 10 分に位置し、陸の三方を阿久根市、薩摩川内市、さつま町、伊佐市及び熊本県水俣市に接し、北西は八代海（不知火海）に面しています。

面積は、330.06 平方キロメートル（出水地区 228.31 (km²)、高尾野地区 71.15 (km²)、野田地区 30.60 (km²)）、東西への広がりは約 27 キロメートル、南北の広がりは約 23 キロメートルを有しています。

【図 位置図】

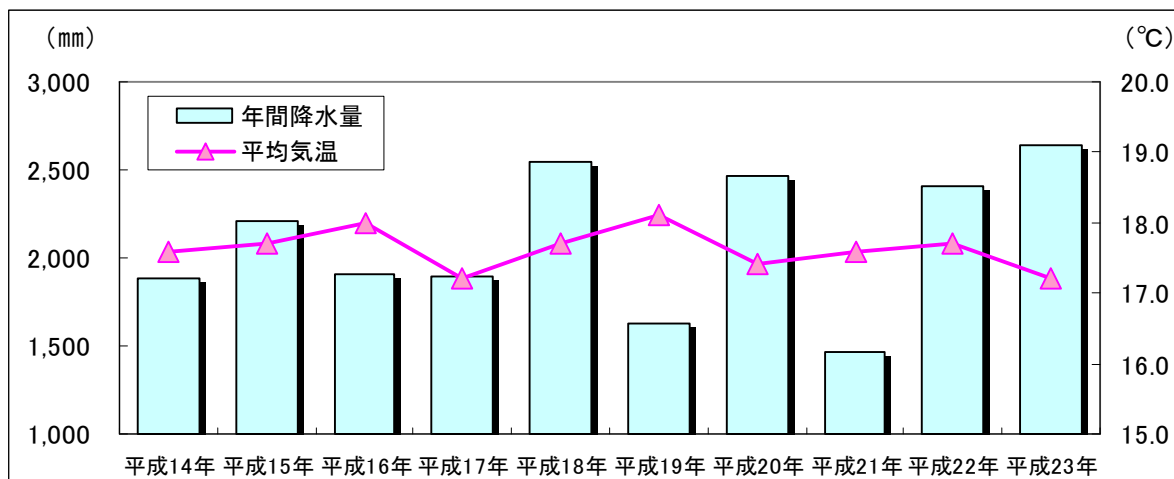


1-2 気象

本市は、比較的温暖な気候を有しており、過去 10 年間の平均気温の推移をみると、17.0℃～18.0℃で推移しています。

また、年間降水量は、海からの風が南部の山腹に当たって気温を低下させるため、比較的多く、過去 10 年間をみると 2,000 mm 前後で推移しています。

【図 過去 10 年間の平均気温と降水量総数】



出典：平均気温：気象庁（阿久根），降水量：気象庁（出水）

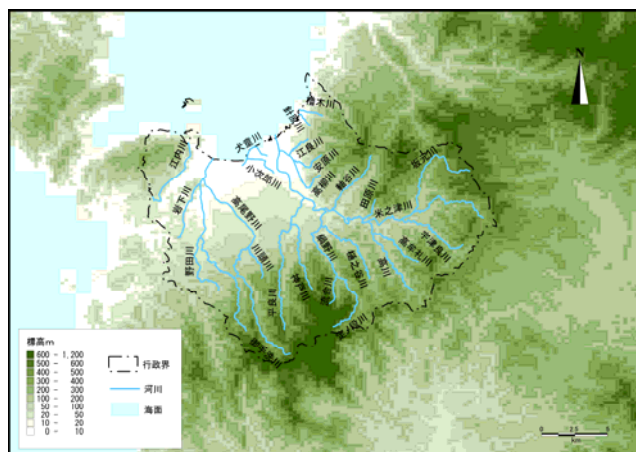
1-3 地 形

地勢は、北東部の矢筈山系、東部の朝日岳山系、南部の紫尾山系によって三方を山地部によって囲まれており、これらの出水山地が土地利用の多くを占めています。

これらの山系から流れ出る河川の代表は米之津川、高尾野川及び野田川でその支流とあわせ扇状地と沖積面を形成しながら、近世の干拓地とともに出水平野をつくりだしています。

また、これらの扇状地や干拓地は肥沃な土壌により、県内有数の水田地帯となっています。

【図 地形・水系】



出典：国土数値情報 標高・傾斜度細分メッシュデータ

1-4 動 物

本市は、海、山ともに豊かな自然環境を有しており、そこにはキツネ、タヌキ及びニホンシカをはじめ、多種多様な動物が生息しています。

なかでも、荘地区、下水流地区には世界に分布しているツル 15 種類のうち、ナベヅルやマナヅルなど計 7 種類のツルが確認されるなど、世界有数のツルの渡来地となっています。

また、ツルは、例年 1 万羽以上が飛来し、特にナベヅルは世界の約 9 割が飛来しているとされ、世界的にも貴重な越冬場所となっています。

主な越冬場所である市域北西部の農地は「鹿児島県のツル及びその渡来地」として国の特別天然記念物に指定され、ツル渡来指定地を含む干拓地一帯は国指定鳥獣保護区にも指定されています。

1-5 既往水害

本市では、過去から度々水害による被害が発生しており、特に 6 月～7 月の梅雨前線による大雨は、局地的な豪雨が集中的に降り、大きな災害をもたらしてきました。

近年の災害についてみると、平成 9 年 7 月には活発な梅雨前線の影響により、7 月 7 日から 9 日の 3 日間の積算雨量は 397 ミリ、時間最大雨量は 62 ミリを観測しました。この大雨の影響により、針原地区では土石流が発生し、21 名が亡くなるという極めて大きな災害を被りました。

さらに、平成 18 年 7 月にも梅雨末期の集中豪雨によって、米之津川や江内川など、市内の多くの河川が氾濫し、その流域では家屋の床上・床下浸水、道路・河川護岸等の崩壊が発生するなど、市内全域にわたり甚大な災害を引き起こしました。

2 社会的条件

2-1 歴史・文化

(1) 歴史

出水の地では、今から約1万5千年前ごろより、人間の生活が始まったことが確認されており、その後、縄文時代の狩猟、採集による生活痕跡や、弥生時代における農耕生活の痕跡などが確認されるなど古くから人々がこの地で暮らしていたことがわかっています。

中世には、島津家始祖の治めるところとなりました。江戸時代、薩摩藩は、領内の出水に「外城」と呼ばれる行政区画を設けており、統治の中心地が「麓」と呼ばれました。

明治4年7月には廃藩置県が実施され、鹿児島県に属することとなりました。

明治22年(1889年)の市制・町村制の施行により、全国一律に町村合併が行われると、出水市、高尾野町及び野田町の地域では5村が誕生しました。

このうち、旧出水市は、出水町と米ノ津町が昭和29年4月に合併(同年10月に大川内村が編入合併)して発足しました。

旧高尾野町は、昭和7年1月の町制施行により、高尾野村から高尾野町になりました。その後、出水市の一部を編入し、昭和34年4月に江内村と合併しました。

旧野田町は、村制を経て昭和50年4月の町制施行により、野田村から野田町になりました。

平成18年3月13日、これらの1市2町が合併して、新「出水市」が誕生しました。

【表 出水市の沿革】

	1889.4.1	1891.2	1917.4.1	1923.7.1	1924.4.1	1932.1.1	1949.4.1	1953.5.3	1954.4.1	1954.10.9	1955.4.10	1959.4.1	1975.4.1	2006.3.13	
	明治22年	明治24年	大正6年	大正12年	大正13年	昭和7年	昭和24年	昭和28年	昭和29年		昭和30年	昭和34年	昭和50年	平成18年	
市町村の変遷 1889.4.1 市制町村制の施行により出水郡は8村となる。	下出水村				三笠村 1924.4.1 改称		江内村 1949.4.1 分立		三笠町 1953.5.3 町制施行		1955.4.10 阿久根市へ編入				
	高尾野村					高尾野町 1932.1.1 町制施行					1959.4.1 合併				
	大川内村 1891.2 分立										1954.10.9 出水市へ編入				
	上出水村		出水町 1917.4.1 町制施行			中出水村				米ノ津町 1923.7.1 町制施行		出水市 1954.4.1 合併／市制施行			
	野田村											野田町 1975.4.1 町制施行			
															出水市 2006.3.13 合併

出典：庁内資料

(2) 文化財

本市には、指定文化財が75件あり、国指定が2件、県指定が6件、市指定が67件となっています。

主な文化財としては、「鹿児島県のツル及びその渡来地」が国の特別天然記念物に指定されています。

また、出水麓伝統的建造物群保存地区は、市のほぼ中央部に位置し、面積は約44(ha)で、市の指定文化財である出水仮屋門・武家門・石垣・生垣や竹添邸及び税所邸など4軒の建築物が保存されており、平成7年には国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、当時の面影を残しながら、落ち着いた街なみ景観を形成しています。

その他、市の天然記念物となっている樹齢1,300年、樹高12m、根まわり17.5mの「出水の大楠」や、1600年前後に設けられた薩摩の三大関所である「野間之関跡」など、多くの文化財が指定されています。

また、遺跡も多くあり、昭和40年には上場遺跡が発見され、「縄文前期土器」、「台形石器」及び「ナイフ形石器」などが発掘されています。なかでも、旧石器時代の住居跡とされる竪穴が2基発見され、日本初の発見として日本中の注目を集めました。

【表 指定主体ごと文化財件数】

指定主体	記念物 (件)	伝統的 建造物群 (件)	有形 文化財 (件)	無形 文化財 (件)	有形 民俗文化財 (件)	無形 民俗文化財 (件)	合計 (件)
国	1	1					2
県			2			4	6
市	24		17	1	24	1	67
合計	25	1	19	1	24	5	75

出典：平成21年度都市計画基礎調査



【鹿児島県のツル及びその渡来地】



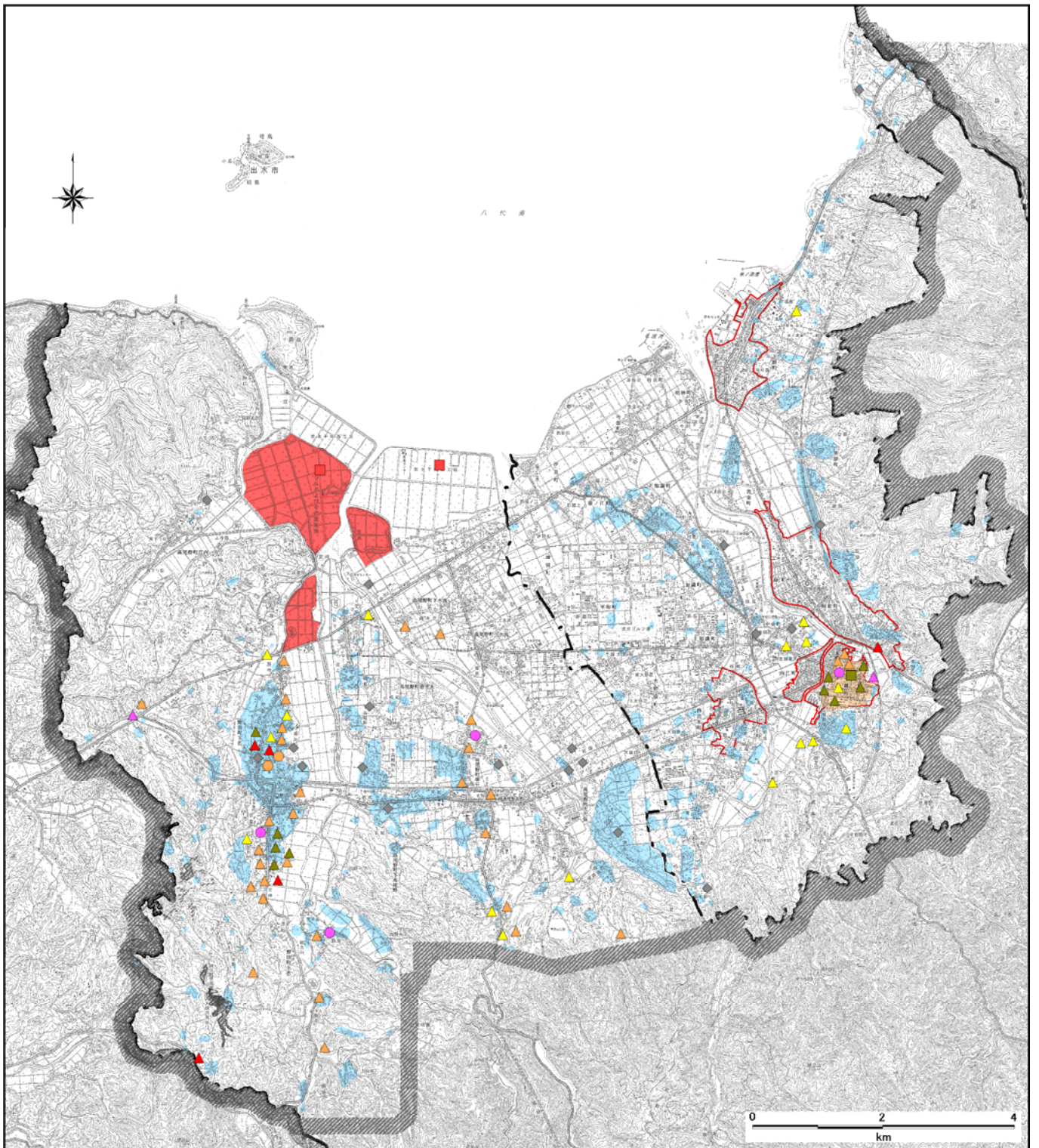
【出水麓伝統的建造物群保存地区】



【出水の大楠】



【野間之関跡】



【図 文化財位置図】

- | | |
|-----|-----------|
| 国指定 | ■ 建造物 |
| | ■ 特別天然記念物 |
| 県指定 | ● 有形民俗文化財 |
| | ● 無形民俗文化財 |
| 市指定 | ▲ 建造物 |
| | ▲ 有形民俗文化財 |
| | ▲ 無形民俗文化財 |
| | ▲ 史跡 |
| | ▲ 天然記念物 |

- | | |
|-----|--------|
| 無指定 | ◆ 古墳遺跡 |
|-----|--------|

- | | |
|---|----------------|
| ■ | ツル渡来指定地 |
| ■ | 出水麓伝統的建造物群保存地区 |
| ■ | 埋蔵文化財包蔵地 |

- | | |
|-----|--------|
| ■ | 対象区域 |
| --- | 市町村界 |
| --- | 都市計画区域 |
| --- | 用途地域 |

出典：平成 21 年度都市計画基礎調査

(3) 行 事

本市で行われている祭り、イベント等の行事のうち、代表的スポーツイベントである「出水ツルマラソン」や「たかおの鶴駅伝大会」などは、多くの市民ランナーに親しまれています。

春の彼岸に開催される「中の市（ちゅうのいち）」は、江戸時代から続く、鹿児島県三大市の一つで、各家庭で友人や親せきを招き、そばを振る舞う風習があることから別名「そば市」とも呼ばれています。

11月には、大産業祭で特産市（展示即売会）、農林水産まつり、飲食フェスタ及び郷土芸能・太鼓演奏などが催されます。

また、江戸時代に旧薩摩藩の国境の拠点として、出水麓の整備などに尽力した名地頭・山田昌巖翁の遺徳をしのいで実施される「出水麓まつり」では、「児請」（ちごもうし）、「武者行列」、「種子島流火縄銃試射」及び「郷土芸能」などが行われます。



【出水ツルマラソン大会】



【中の市】



【出水麓まつり】

【表 主な行事一覧】

月	行 事	日 程	月	行 事	日 程
3月	加紫久利神社 春季例大祭	4日	9月	紫尾神社秋まつり(兵六踊り)	23日
	ツルを送るタベ	第3土曜日	10月	上場高原のコスモス見ごろ	上旬
	高尾野「中の市」(そば市)	春分の日 と翌日		ツルの第一陣飛来	
4月	いずみ桜まつり	4月上旬		植木市	10月～5月
	東光山夜桜	上旬	出水ツルマラソン大会	第3日曜日	
6月	高尾野川アユ漁解禁	1日	11月	ケタ打瀬漁	11月～3月
	米之津川アユ漁解禁	第1日曜日		ツル観察センターオープン	1日
7月	海洋公園プール開き	中旬		出水麓まつり	3日
	上場高原コスモス園 コスモスの苗植え	中旬		西日本オールドカーフェスティバル	3日
	夏祭りいずみ「鶴翔祭」	下旬		出水市大産業祭	下旬
8月	高尾野夏祭り	上旬		12月	たかおの鶴駅伝大会
	野田郷夏祭り	中旬	歳の市「野田郷むらまつり」		第1日曜日
	24時間高尾野ひまわり 駅伝大会	下旬			

出典：市勢要覧

2-2 人口・世帯数

(1) 人口・世帯数

① 総人口・世帯数の推移

本市の総人口は、平成 22 年現在、55,621 人であり、平成 7 年と比較して 3,034 人減少しています。

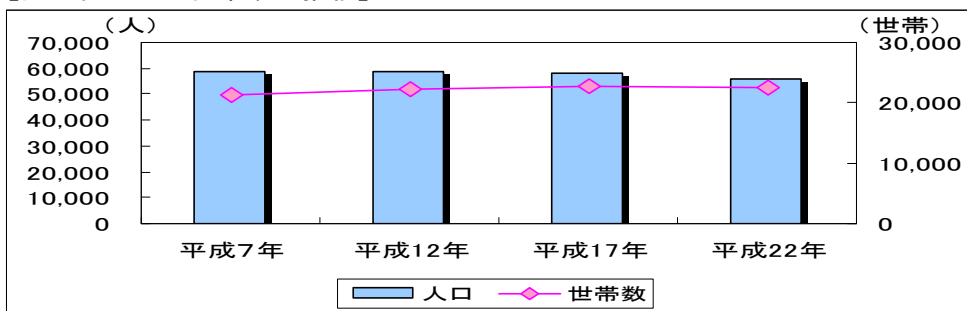
一方、世帯数は平成 22 年現在、22,555 世帯で平成 7 年に比較して 1,359 世帯の増加を示しており、核家族化が進行しています。

【表 総人口と世帯数の推移】

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口(人)	58,655	58,460	57,907	55,621
世帯数(世帯)	21,196	22,222	22,839	22,555
世帯人員(人)	2.8	2.6	2.5	2.5

出典：国勢調査

【図 総人口と世帯数の推移】



出典：国勢調査

② 旧市町別の人口、人口密度推移

平成 22 年現在の人口を旧市町別にみると、旧出水市が最も多く 37,651 人、旧高尾野町が 13,634 人、旧野田町が 4,336 人となっています。

また、人口密度は、旧高尾野町が 1.9 (人/ha) と最も高いことがわかります。

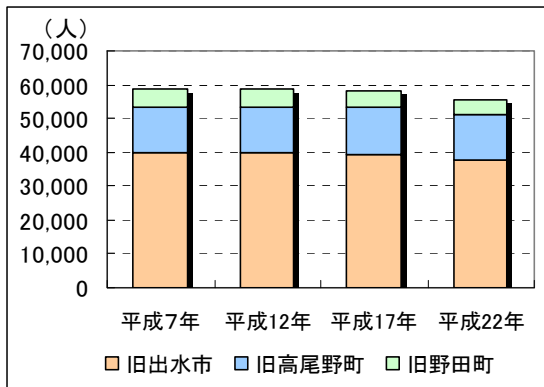
平成 7 年から平成 22 年にかけて旧市町別に人口の推移をみると旧出水市、旧野田町では人口が減少しており、旧高尾野町では平成 7 年から平成 17 年にかけて人口が増加傾向であったものの、平成 22 年には減少しています。

【表 旧市町別の人口、人口密度推移】

	平成7年		平成12年		平成17年		平成22年	
	人口(人)	人口密度(人/ha)	人口(人)	人口密度(人/ha)	人口(人)	人口密度(人/ha)	人口(人)	人口密度(人/ha)
旧出水市	40,107	1.8	39,708	1.7	39,155	1.7	37,651	1.6
旧高尾野町	13,466	1.9	13,805	1.9	14,000	2.0	13,634	1.9
旧野田町	5,082	1.7	4,947	1.6	4,752	1.6	4,336	1.4
出水市	58,655	1.8	58,460	1.8	57,907	1.8	55,621	1.7

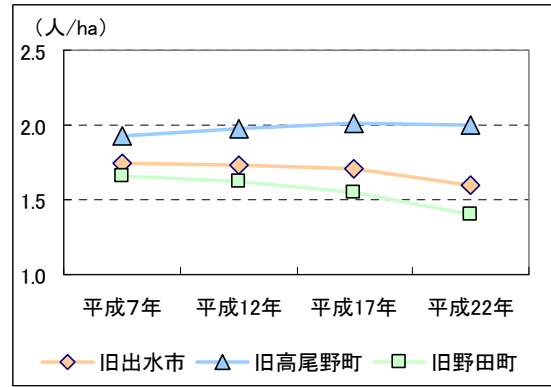
出典：国勢調査

【図 旧市町別の人口の推移】



出典：国勢調査

【図 旧市町別の人口密度の推移】



出典：国勢調査

③県内人口増減比較、人口密度比較

県内の平成 17～22 年の人口増減の状況を見ると、本市以外では、鹿児島市で 0.2%、霧島市で 0.1%の伸びを示しているものの、その他の市町村ではほとんどが減少傾向となっています。

【表 県内人口増減及び密度の比較】

	平成7年		平成12年		7～12年の人口増減率 (%)	平成17年		12～17年の人口増減率 (%)	平成22年		17～22年の人口増減率 (%)
	人口 (人)	人口密度 (人/ha)	人口 (人)	人口密度 (人/ha)		人口 (人)	人口密度 (人/ha)		人口 (人)	人口密度 (人/ha)	
鹿児島県	1,794,224	2.0	1,786,194	1.9	-0.4	1,753,179	1.9	-1.8	1,706,242	1.9	-2.7
鹿児島市	594,430	10.9	601,693	11.0	1.2	604,367	11.0	0.4	605,846	11.1	0.2
鹿屋市	105,059	2.3	106,462	2.4	1.3	106,208	2.4	-0.2	105,070	2.3	-1.1
枕崎市	27,640	3.7	26,317	3.5	-4.8	25,150	3.4	-4.4	23,638	3.2	-6.0
阿久根市	27,506	2.0	26,270	2.0	-4.5	25,072	1.9	-4.6	23,154	1.7	-7.6
出水市	58,655	1.8	58,460	1.8	-0.3	57,907	1.8	-0.9	55,621	1.7	-3.9
旧出水市	40,107	1.8	39,708	1.7	-1.0	39,155	1.7	-1.4	37,651	1.6	-3.8
旧高尾野町	13,466	1.9	13,805	1.9	2.5	14,000	2.0	1.4	13,634	1.9	-2.6
旧野田町	5,082	1.7	4,947	1.6	-2.7	4,752	1.6	-3.9	4,336	1.4	-8.8
指宿市	50,529	3.4	48,750	3.3	-3.5	46,822	3.1	-4.0	44,396	3.0	-5.2
西之表市	19,822	1.0	18,866	0.9	-4.8	18,198	0.9	-3.5	16,951	0.8	-6.9
垂水市	20,933	1.3	20,107	1.2	-3.9	18,928	1.2	-5.9	17,248	1.1	-8.9
薩摩川内市	106,737	1.6	105,464	1.5	-1.2	102,370	1.5	-2.9	99,589	1.5	-2.7
日置市	52,791	2.1	53,391	2.1	1.1	52,411	2.1	-1.8	50,822	2.0	-3.0
曾於市	46,328	1.2	44,910	1.2	-3.1	42,287	1.1	-5.8	39,221	1.0	-7.3
霧島市	122,279	2.0	127,912	2.1	4.6	127,309	2.1	-0.5	127,487	2.1	0.1
いちき串木野市	35,534	3.2	34,266	3.1	-3.6	32,993	2.9	-3.7	31,144	2.8	-5.6
南さつま市	45,845	1.6	43,979	1.6	-4.1	41,677	1.5	-5.2	38,704	1.4	-7.1
志布志市	36,694	1.3	35,966	1.2	-2.0	34,770	1.2	-3.3	33,034	1.1	-5.0
奄美市	53,410	1.7	51,898	1.7	-2.8	49,617	1.6	-4.4	46,121	1.5	-7.0
南九州市	45,792	1.3	44,137	1.2	-3.6	42,191	1.2	-4.4	39,065	1.1	-7.4
伊佐市	35,007	0.9	33,508	0.9	-4.3	31,499	0.8	-6.0	29,304	0.7	-7.0
始良市	71,762	3.1	73,640	3.2	2.6	74,840	3.2	1.6	74,809	3.2	0.0
さつま町	28,141	0.9	27,331	0.9	-2.9	25,688	0.8	-6.0	24,109	0.8	-6.1

出典：国勢調査

④旧市町別の年齢別人口の推移

平成22年における市全体の年齢別人口は、0～14歳が7,977人(14.3%)、15～64歳が32,426人(58.3%)、65歳以上が15,176人(27.3%)と、65歳以上の人口割合が21%を超えた超高齢社会となっていることがわかります。

構成比の推移については、平成7年時点で0～14歳が18.4%、65歳以上が20.3%と大きな差異はみられませんでした。平成22年では0～14歳が4.1ポイント減少、65歳以上が7ポイントの増加となり、格差が10ポイント以上に広がっています。

また、年齢別人口では、20歳代の人口割合が鹿児島県平均と比べて少なくなっています。

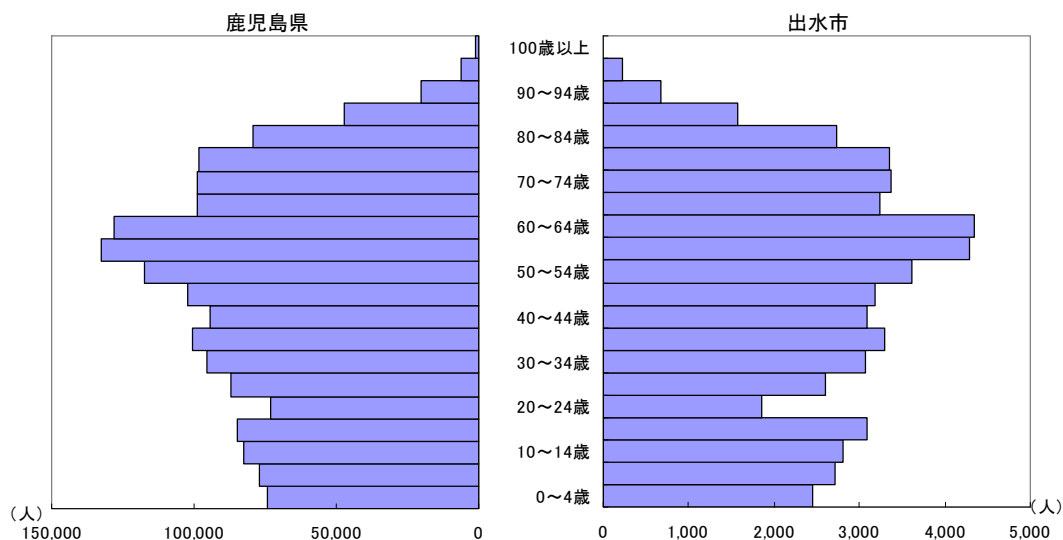
旧市町別にみると、どの市町も高齢化が進んでおり、特に旧野田町ではその傾向が著しくなっています。

【表 旧市町別の人口年齢別人口の推移】

		旧出水市		旧高尾野町		旧野田町		出水市	
		人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)
平成7年	0～14歳	7,280	18.2	2,566	19.1	927	18.2	10,773	18.4
	15～64歳	24,858	62.0	8,073	60.0	3,019	59.4	35,949	61.3
	65歳以上	7,969	19.9	2,827	21.0	1,137	22.4	11,933	20.3
	不詳	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	合計	40,107	100.0	13,466	100.0	5,082	100.0	58,655	100.0
平成12年	0～14歳	6,450	16.2	2,388	17.3	799	16.1	9,636	16.5
	15～64歳	24,222	61.0	8,141	59.0	2,826	57.1	35,189	60.2
	65歳以上	9,035	22.8	3,276	23.7	1,323	26.7	13,634	23.3
	不詳	1	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0
	合計	39,708	100.0	13,805	100.0	4,947	100.0	58,460	100.0
平成17年	0～14歳	5,989	15.3	2,260	16.1	676	14.2	8,925	15.4
	15～64歳	23,379	59.7	8,140	58.1	2,666	56.1	34,185	59.0
	65歳以上	9,787	25.0	3,600	25.7	1,410	29.7	14,797	25.6
	不詳	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	合計	39,155	100.0	14,000	100.0	4,752	100.0	57,907	100.0
平成22年	0～14歳	5,326	14.1	2,081	15.3	570	13.1	7,977	14.3
	15～64歳	22,178	58.9	7,839	57.5	2,409	55.6	32,426	58.3
	65歳以上	10,110	26.9	3,709	27.2	1,357	31.3	15,176	27.3
	不詳	37	0.1	5	0.0	0	0.0	42	0.1
	合計	37,651	100.0	13,634	100.0	4,336	100.0	55,621	100.0

出典：国勢調査

【図 5歳階級年齢別人口】



出典：平成22年国勢調査

(2) 就業・通学人口

①出水市居住者の就業者数

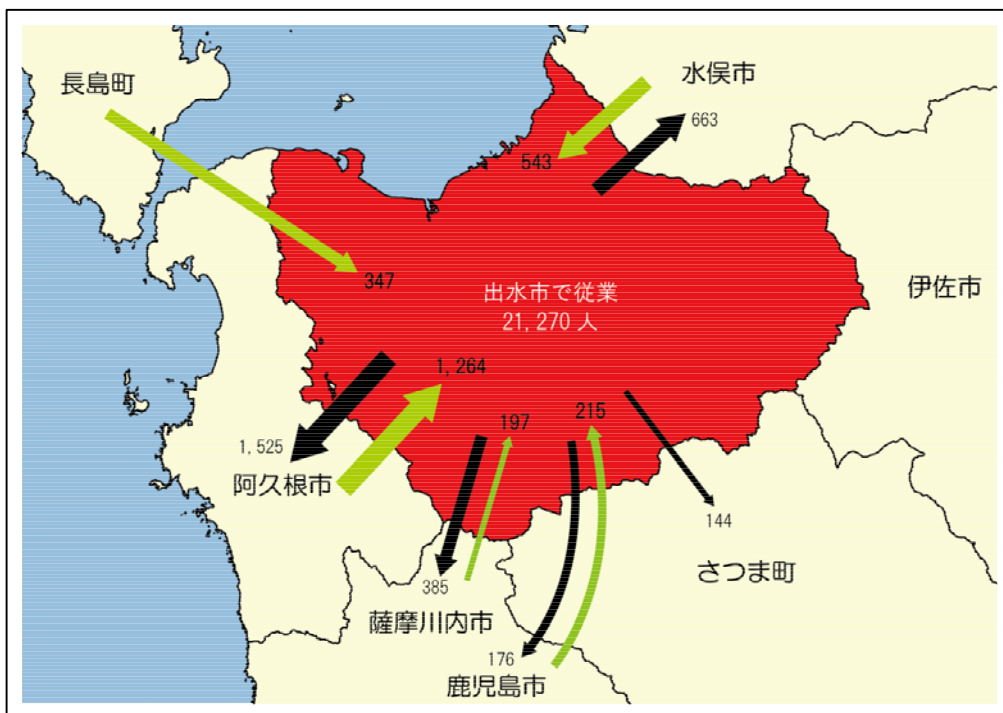
平成22年の本市に常住する就業者数は24,935人であり、他市町村で従業する者は3,481人と、多くが出水市内で就業しています。

主な流出先についてみると、阿久根市が1,525人と最も多く、続いて水俣市が663人、薩摩川内市が385人、鹿児島市が176人、さつま町が144人と、隣接する市町以外にも鹿児島市が上位5位に入っていることがわかります。

②出水市の従業者数

平成22年の本市に従業する者は24,568人、そのうち出水市外に常住する者は2,994人であり、就業者の居住地について状況を見ると、阿久根市が1,264人と最も多く、続いて水俣市が543人、長島町が347人、鹿児島市が215人、薩摩川内市が197人と、隣接する市町以外からも従業者が集まっています。

【図 出水市の就業者流出流入図】



※白文字の数値は、自市町村で従業する人数

出典：平成22年国勢調査

出水市に常住する就業者数	24,935人
出水市での従業者数	24,568人

○出水市（旧市町）居住者の就業地の推移

【表 出水市（旧市町）居住者の就業地（流出先）の推移】

旧出水市		平成7年	旧出水市		平成12年	旧出水市		平成17年	平成22年			
旧出水市に常住する就業者		—	旧出水市に常住する就業者		19,090	旧出水市に常住する就業者		18,503	出水市			
自市町村で従業		—	自市町村で従業		16,241	自市町村で従業		15,282			総数	
他市区町村で従業		2,697	他市区町村で従業		2,849	他市区町村で従業		3,221				
流出先	第1位 旧高尾野町	1,011	流出先	第1位 旧高尾野町	958	流出先	第1位 旧高尾野町	967	出水市に常住する就業者	24,935		
	第2位 阿久根市	413		第2位 水俣市	520		第2位 阿久根市	645				
	第3位 旧野田町	295		第3位 阿久根市	510		第3位 水俣市	535				
	第4位 川内市	155		第4位 旧野田町	296		第4位 旧野田町	345				
	第5位 大口市	60		第5位 川内市	164		第5位 薩摩川内市	199				
旧高尾野町		平成7年	旧高尾野町		平成12年	旧高尾野町		平成17年	自市町村で従業			
旧高尾野町に常住する就業者		—	旧高尾野町に常住する就業者		7,210	旧高尾野町に常住する就業者		7,055	21,270			
自市町村で従業		—	自市町村で従業		4,529	自市町村で従業		4,203	他市区町村で従業			
他市区町村で従業		2,398	他市区町村で従業		2,681	他市区町村で従業		2,852				
流出先	第1位 旧出水市	1,620	流出先	第1位 旧出水市	1,737	流出先	第1位 旧出水市	1,825	第1位 阿久根市	1,525		
	第2位 阿久根市	292		第2位 阿久根市	378		第2位 阿久根市	408			第2位 水俣市	663
	第3位 旧野田町	264		第3位 旧野田町	305		第3位 旧野田町	312				
	第4位 川内市	54		第4位 川内市	68		第4位 薩摩川内市	86				
	第5位 鹿児島市	14		第5位 水俣市	45		第5位 水俣市	66				
旧野田町		平成7年	旧野田町		平成12年	旧野田町		平成17年	流出先	第3位 薩摩川内市	385	
旧野田町に常住する就業者		—	旧野田町に常住する就業者		2,415	旧野田町に常住する就業者		2,265				
自市町村で従業		—	自市町村で従業		1,511	自市町村で従業		1,277				
他市区町村で従業		833	他市区町村で従業		904	他市区町村で従業		988				
流出先	第1位 旧出水市	372	流出先	第1位 旧出水市	413	流出先	第1位 旧出水市	422				第4位 鹿児島市
	第2位 旧高尾野町	202		第2位 阿久根市	196		第2位 阿久根市	250				
	第3位 阿久根市	180		第3位 旧高尾野町	185		第3位 旧高尾野町	204				
	第4位 川内市	27		第4位 川内市	33		第4位 薩摩川内市	40				
	第5位 鹿児島市	7		第5位 水俣市	13		第5位 水俣市	15	第5位 さつま町	144		

※平成7年のデータについては、他県の市町村への流出の数値が不明な為、県内の順位となっている。

出典：国勢調査

【表 出水市（旧市町）就業者の居住地（流入先）の推移】

旧出水市		平成7年	旧出水市		平成12年	旧出水市		平成17年	平成22年			
旧出水市で従業する者		—	旧出水市で従業する者		20,634	旧出水市で従業する者		19,907	出水市			
自市町村に常住		—	自市町村に常住		16,241	自市町村に常住		15,282			総数	
他市区町村に常住		3,675	他市区町村に常住		4,393	他市区町村に常住		4,625				
流入先	第1位 旧高尾野町	1,620	流入先	第1位 旧高尾野町	1,737	流入先	第1位 旧高尾野町	1,825	出水市で従業する者	24,568		
	第2位 阿久根市	635		第2位 阿久根市	795		第2位 阿久根市	801				
	第3位 旧野田町	372		第3位 水俣市	565		第3位 水俣市	564				
	第4位 東町	75		第4位 旧野田町	413		第4位 旧野田町	422				
	第5位 長島町	60		第5位 川内市	121		第5位 鹿児島市	200				
旧高尾野町		平成7年	旧高尾野町		平成12年	旧高尾野町		平成17年	自市町村に常住			
旧高尾野町に就業する就業者		—	旧高尾野町に就業する就業者		6,134	旧高尾野町に就業する就業者		5,938	21,270			
自市町村に常住		—	自市町村に常住		4,529	自市町村に常住		4,203	他市区町村に常住			
他市区町村に常住		1,555	他市区町村に常住		1,605	他市区町村に常住		1,735				
流入先	第1位 旧出水市	1,011	流入先	第1位 旧出水市	958	流入先	第1位 旧出水市	967	第1位 阿久根市	1,264		
	第2位 阿久根市	208		第2位 阿久根市	270		第2位 阿久根市	344			第2位 水俣市	543
	第3位 旧野田町	202		第3位 旧野田町	185		第3位 旧野田町	204				
	第4位 東町	32		第4位 水俣市	65		第4位 水俣市	58				
	第5位 長島町	21		第5位 東町	40		第5位 東町	49				
旧野田町		平成7年	旧野田町		平成12年	旧野田町		平成17年	流入先	第3位 長島町	347	
旧野田町に就業する就業者		—	旧野田町に就業する就業者		2,545	旧野田町に就業する就業者		2,324				
自市町村に常住		—	自市町村に常住		1,511	自市町村に常住		1,277				
他市区町村に常住		968	他市区町村に常住		1,034	他市区町村に常住		1,047				
流入先	第1位 阿久根市	308	流入先	第1位 旧高尾野町	305	流入先	第1位 旧出水市	345				第4位 鹿児島市
	第2位 旧出水市	295		第2位 旧出水市	296		第2位 旧高尾野町	312				
	第3位 旧高尾野町	264		第3位 阿久根市	293		第3位 阿久根市	246				
	第4位 東町	31		第4位 東町	47		第4位 長島町	39				
	第5位 川内市	24		第5位 長島町	36		第5位 東町	33	第5位 薩摩川内市	197		

※平成7年のデータについては、他県の市町村への流出の数値が不明な為、県内の順位となっている。

出典：国勢調査

③出水市居住者の通学者数

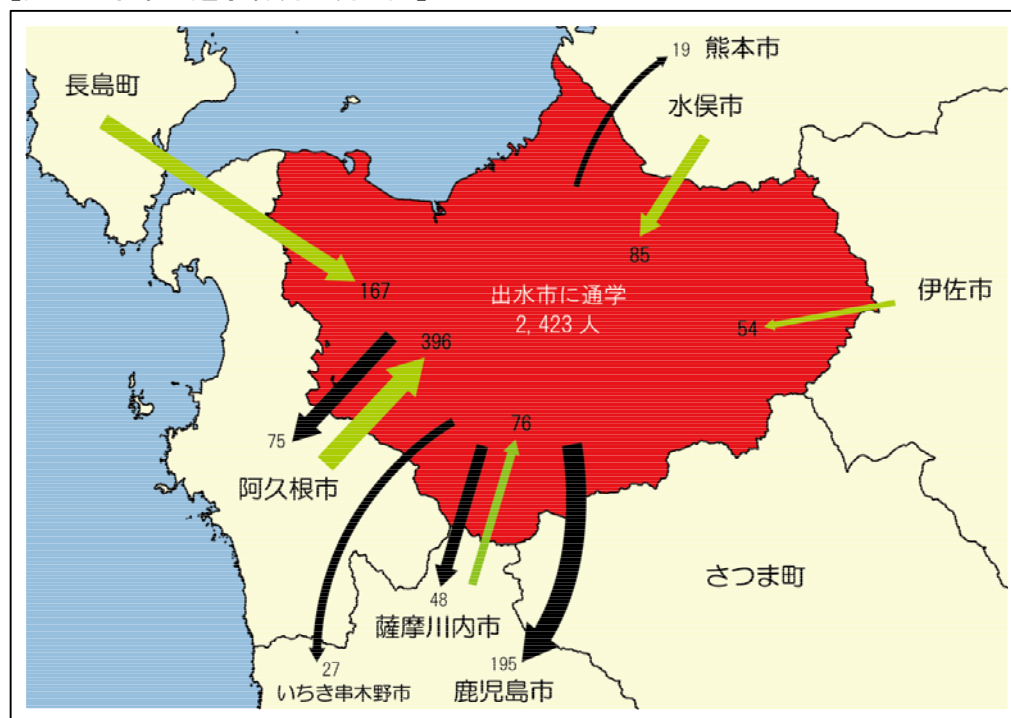
平成 22 年の本市に常住する通学者数は 2,889 人であり、他市町村へ通学する者は 455 人と、多くが出水市内に通学しています。

主な流出先についてみると、鹿児島市が 195 人と最も多く、続いて阿久根市が 75 人、薩摩川内市が 48 人、いちき串木野市が 27 人、県外の熊本市も上位 5 位に入っており、19 人が通学しています。

④出水市への通学者数

平成 22 年の本市の通学者数は 3,338 人、そのうち出水市外から通学する者は 879 人であり、通学者の居住地について状況を見ると、阿久根市が 396 人と最も多く、続いて長島町が 167 人、水俣市が 85 人、薩摩川内市が 76 人、伊佐市が 54 人となっています。

【図 出水市の通学者流出流入図】



※白文字の数値は、自市町村で通学する人数

出典：平成 22 年国勢調査

出水市常住通学者数	2,889 人
出水市での通学者数	3,338 人

○出水市（旧市町）居住者の通学地の推移

【表 出水市（旧市町）居住者の通学地（流出先）の推移】

旧出水市		平成7年	旧出水市		平成12年	旧出水市		平成17年	平成22年		
旧出水市に常住する通学者		—	旧出水市に常住する通学者		2,177	旧出水市に常住する通学者		1,897	出水市		総数
自市町村で通学		—	自市町村で通学		1,835	自市町村で通学		1,579			
他市区町村で通学		344	他市区町村で通学		342	他市区町村で通学		318	出水市に常住する通学者		2,889
流出先	第1位 阿久根市	136	流出先	第1位 旧野田町	132	流出先	第1位 鹿児島市	81	自市町村で通学		2,423
	第2位 旧野田町	133		第2位 阿久根市	94		第2位 旧野田町	74	他市区町村で通学		455
	第3位 川内市	35		第3位 川内市	36		第3位 阿久根市	53	流出先	第1位 鹿児島市	195
	第4位 大口市	5		第4位 鹿児島市	26		第4位 薩摩川内市	50		第2位 阿久根市	75
	第5位 旧高尾野町	1		第5位 大口市・八女市	12		第5位 串木野市	11		第3位 薩摩川内市	48
旧高尾野町		平成7年	旧高尾野町		平成12年	旧高尾野町		平成17年	第4位 いちき串木野市	27	
旧高尾野町に常住する通学者		—	旧高尾野町に常住する通学者		659	旧高尾野町に常住する通学者		632	第5位 熊本市	19	
自市町村で通学		—	自市町村で通学		101	自市町村で通学		115			
他市区町村で通学		508	他市区町村で通学		558	他市区町村で通学		517			
流出先	第1位 旧出水市	359	流出先	第1位 旧出水市	416	流出先	第1位 旧出水市	367			
	第2位 阿久根市	78		第2位 阿久根市	63		第2位 阿久根市	59			
	第3位 旧野田町	37		第3位 旧野田町	53		第3位 旧野田町	48			
	第4位 川内市	14		第4位 川内市	12		第4位 鹿児島市	20			
	第5位 鹿児島市	12		第5位 鹿児島市	5		第5位 薩摩川内市	7			
旧野田町		平成7年	旧野田町		平成12年	旧野田町		平成17年			
旧野田町に常住する通学者		—	旧野田町に常住する通学者		372	旧野田町に常住する通学者		324			
自市町村で通学		—	自市町村で通学		208	自市町村で通学		175			
他市区町村で通学		147	他市区町村で通学		164	他市区町村で通学		149			
流出先	第1位 旧出水市	107	流出先	第1位 旧出水市	129	流出先	第1位 旧出水市	86			
	第2位 阿久根市	30		第2位 阿久根市	24		第2位 阿久根市	44			
	第3位 川内市	5		第3位 川内市	4		第3位 鹿児島市	10			
	第4位 鹿児島市	3		第4位 鹿児島市	3		第4位 薩摩川内市	6			
	第5位 —	—		第5位 —	—		第5位 —	—			

※平成7年のデータについては、他県の市町村への流出の数値が不明な為、県内の順位となっている。

出典：国勢調査

【表 出水市（旧市町）通学者の居住地（流入先）の推移】

旧出水市		平成7年	旧出水市		平成12年	旧出水市		平成17年	平成22年		
旧出水市で通学する者		—	旧出水市で通学する者		3,122	旧出水市で通学する者		2,848	出水市		総数
自市町村に常住		—	自市町村に常住		1,835	自市町村に常住		1,579			
他市区町村に常住		1,238	他市区町村に常住		1,287	他市区町村に常住		1,269	出水市で通学する者		3,338
流入先	第1位 阿久根市	455	流入先	第1位 阿久根市	420	流入先	第1位 阿久根市	431	自市町村に常住		2,423
	第2位 旧高尾野町	359		第2位 旧高尾野町	416		第2位 旧高尾野町	367	他市区町村に常住		879
	第3位 旧野田町	107		第3位 旧野田町	129		第3位 水俣市	101	流入先	第1位 阿久根市	396
	第4位 東町	54		第4位 水俣市	82		第4位 旧野田町	86		第2位 長島町	167
	第5位 長島町	38		第5位 東町	59		第5位 東町	73		第3位 水俣市	85
旧高尾野町		平成7年	旧高尾野町		平成12年	旧高尾野町		平成17年	第4位 薩摩川内市	76	
旧高尾野町で通学する者		—	旧高尾野町で通学する者		104	旧高尾野町で通学する者		116	第5位 伊佐市	54	
自市町村に常住		—	自市町村に常住		101	自市町村に常住		115			
他市区町村に常住		2	他市区町村に常住		3	他市区町村に常住		1			
流入先	第1位 旧出水市	1	流入先	第1位 阿久根市	2	流入先	第1位 —	—			
	第2位 —	—		第2位 川内市	1		第2位 —	—			
	第3位 —	—		第3位 —	—		第3位 —	—			
	第4位 —	—		第4位 —	—		第4位 —	—			
	第5位 —	—		第5位 —	—		第5位 —	—			
旧野田町		平成7年	旧野田町		平成12年	旧野田町		平成17年			
旧野田町で通学する者		—	旧野田町で通学する者		592	旧野田町で通学する者		459			
自市町村に常住		—	自市町村に常住		208	自市町村に常住		175			
他市区町村に常住		356	他市区町村に常住		384	他市区町村に常住		284			
流入先	第1位 旧出水市	133	流入先	第1位 旧出水市	132	流入先	第1位 旧出水市	74			
	第2位 阿久根市	91		第2位 阿久根市	86		第2位 阿久根市	62			
	第3位 川内市	68		第3位 川内市	73		第3位 薩摩川内市	49			
	第4位 旧高尾野町	37		第4位 旧高尾野町	53		第4位 旧高尾野町	48			
	第5位 東町	8		第5位 長島町	16		第5位 長島町	27			

※平成7年のデータについては、他県の市町村への流出の数値が不明な為、県内の順位となっている。

出典：国勢調査

2-3 産 業

(1) 産業別就業人口の推移

平成22年における市全体の産業別就業人口は、第3次産業が60.0%、第2次産業が25.4%、第1次産業が14.6%となっています。

第1次及び第2次産業人口割合は、平成7年以降減少傾向にあるものの、鹿児島県内の他市と比較して高く、農業が盛んです。

また、第3次産業人口割合は、平成7年から平成22年にかけて増加傾向となっています。

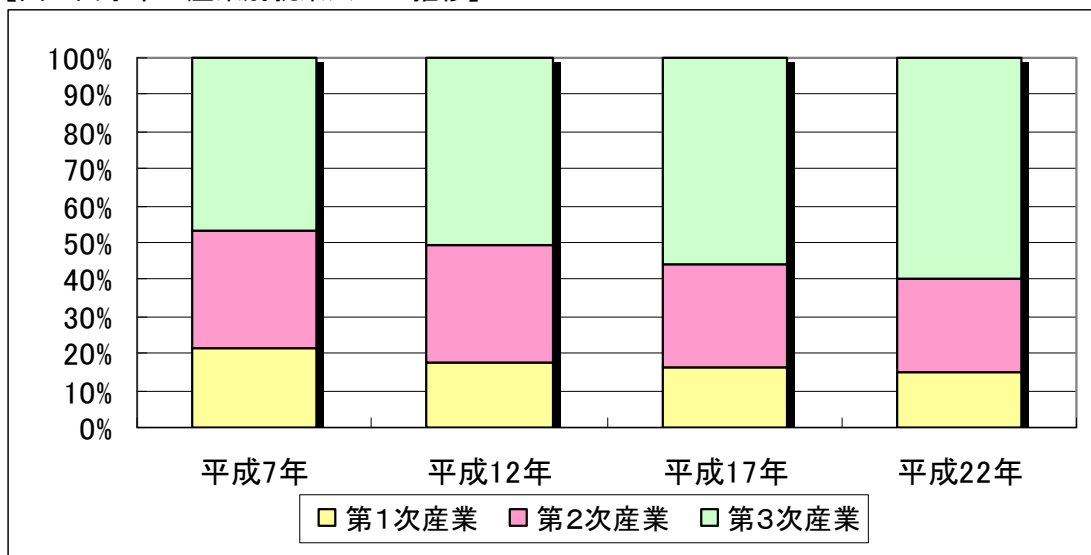
【表 産業別就業人口の推移】

		平成7年				平成12年				平成17年				平成22年			
		合計	第1次産業	第2次産業	第3次産業	合計	第1次産業	第2次産業	第3次産業	合計	第1次産業	第2次産業	第3次産業	合計	第1次産業	第2次産業	第3次産業
出水市	就業者数(人)	29,176	6,170	9,316	13,680	28,705	5,018	9,231	14,456	27,808	4,596	7,724	15,488	24,693	3,611	6,265	14,817
	構成比(%)	100.0	21.1	32.0	46.9	100.0	17.5	32.1	50.4	100.0	16.6	27.8	55.6	100.0	14.6	25.4	60.0
旧出水市	就業者数(人)	19,674	3,277	6,317	10,074	19,086	2,398	6,204	10,484	18,492	2,302	5,207	10,983	16,406	1,766	4,168	10,472
	構成比(%)	100.0	16.7	32.1	51.2	100.0	12.6	32.5	54.9	100.0	12.4	28.2	59.4	100.0	10.8	25.4	63.8
旧高尾野町	就業者数(人)	6,968	2,206	2,164	2,594	7,204	2,002	2,290	2,912	7,051	1,739	1,929	3,383	6,365	1,439	1,599	3,327
	構成比(%)	100.0	31.7	31.1	37.2	100.0	27.8	31.8	40.4	100.0	24.7	27.4	47.9	100.0	22.6	25.1	52.3
旧野田町	就業者数(人)	2,534	687	835	1,012	2,415	618	737	1,060	2,265	555	588	1,122	1,922	406	498	1,018
	構成比(%)	100.0	27.1	33.0	39.9	100.0	25.6	30.5	43.9	100.0	24.5	26.0	49.5	100.0	21.1	25.9	53.0

※分類不能の産業を除く。

出典：国勢調査

【図 出水市の産業別就業人口の推移】



出典：国勢調査

【表 産業別就業人口－県内他市、隣接町との比較】

	合 計	第1次産業 (人)	構成比 (%)	第2次産業 (人)	構成比 (%)	第3次産業 (人)	構成比 (%)
鹿児島県	776,993	77,967	10.0	146,393	18.8	522,291	67.2
鹿児島市	279,730	3,700	1.3	39,284	14.0	214,720	76.8
鹿屋市	47,485	5,967	12.6	8,373	17.6	31,201	65.7
枕崎市	10,891	1,413	13.0	2,677	24.6	6,799	62.4
阿久根市	10,449	1,635	15.6	2,794	26.7	5,874	56.2
出水市	24,935	3,611	14.5	6,265	25.1	14,817	59.4
旧出水市	16,606	1,766	10.6	4,168	25.1	10,472	63.1
旧高尾野町	6,397	1,439	22.5	1,599	25.0	3,327	52.0
旧野田町	1,932	406	21.0	498	25.8	1,018	52.7
指宿市	21,257	4,751	22.4	3,111	14.6	13,284	62.5
西之表市	8,648	2,437	28.2	1,046	12.1	5,112	59.1
垂水市	7,685	1,500	19.5	1,719	22.4	4,449	57.9
薩摩川内市	44,886	3,260	7.3	12,664	28.2	27,847	62.0
日置市	22,253	1,643	7.4	5,555	25.0	14,834	66.7
曾於市	18,767	4,799	25.6	4,042	21.5	9,773	52.1
霧島市	56,460	3,480	6.2	15,183	26.9	35,274	62.5
いちき串木野市	13,793	863	6.3	4,018	29.1	8,782	63.7
南さつま市	15,900	1,939	12.2	3,310	20.8	10,522	66.2
志布志市	15,763	3,731	23.7	3,111	19.7	8,441	53.5
奄美市	19,855	827	4.2	2,866	14.4	16,062	80.9
南九州市	18,116	4,551	25.1	3,827	21.1	9,689	53.5
伊佐市	13,388	2,536	18.9	3,156	23.6	7,503	56.0
姪良市	32,207	1,232	3.8	6,206	19.3	24,390	75.7
さつま町	11,683	2,253	19.3	3,237	27.7	6,061	51.9

出典：平成 22 年国勢調査

(2) 商業の動向

平成19年における本市の商品販売額は約923億円であり、近年は横ばい傾向です。旧市町別にみると、旧高尾野町及び旧野田町で販売額が減少しており、特に、旧野田町の減少が著しくなっています。

人口1人当たりの商品販売額は、県平均より低く、全体的には購買力が流出していますが、周辺市町からみると商業拠点と位置付けることができます。

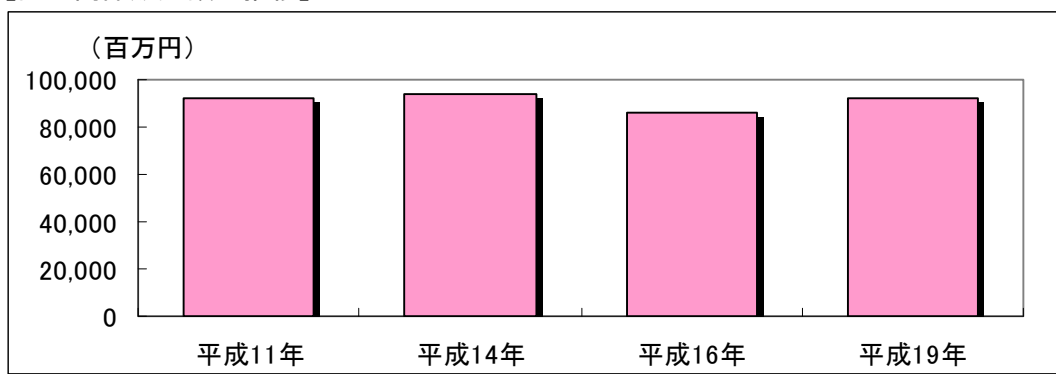
【表 商品販売額の推移】

市町村名	平成11年		平成14年		平成16年		平成19年	
	販売額 (百万円)	販売額 (百万円)	増加率 (%)	販売額 (百万円)	増加率 (%)	販売額 (百万円)	増加率 (%)	
出水市	92,528	93,692	101.3	85,977	92.9	92,267	99.7	
旧出水市	67,381	68,978	102.4	69,522	103.2	—	—	
旧高尾野町	12,997	12,881	99.1	11,721	90.2	—	—	
旧野田町	12,150	11,833	97.4	4,734	39.0	—	—	

※増加率は、平成11年を「100」としている。

出典：商業統計

【図 商品販売額の推移】



出典：商業統計

【表 商業一県内他市、隣接町との比較】

	事業所数 (所)	従業者数 (人)	販売額 (百万円)	人口1人当り 販売額 (万円)
鹿児島県	23,858	140,281	4,026,665	230
鹿児島市	8,009	60,992	2,536,515	420
鹿屋市	1,444	8,913	214,831	264
枕崎市	456	2,047	32,750	130
阿久根市	355	1,840	31,904	127
出水市	771	4,190	92,267	159
大口市	326	1,695	26,966	91
指宿市	779	3,296	53,691	295
西之表市	286	1,228	18,432	97
垂水市	273	1,294	25,585	25
薩摩川内市	1,353	7,508	159,907	305
日置市	621	3,265	52,280	124
曽於市	490	2,365	45,843	36
霧島市	1,279	8,763	185,325	562
いちき串木野市	447	2,229	32,117	77
南さつま市	603	2,871	48,154	138
志布志市	450	2,123	46,960	95
奄美市	888	3,924	72,291	171
さつま町	368	1,794	23,891	93

出典：平成19年商業統計

(3) 工業の動向

平成 22 年における本市の製造品出荷額は約 675 億円であり、人口 1 人当たりで県内他市と比較すると、県平均を上回っています。

しかし、平成 21 年のパイオニアやNEC液晶テクノロジーの工場閉鎖に伴い、製造品出荷額が大きく減少しています。

【表 製造品出荷額の推移】

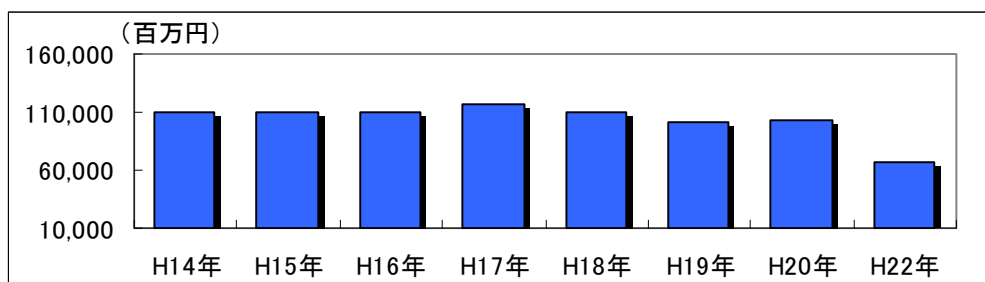
市町村名	平成14年			平成15年			平成16年			平成17年		
	出荷額 (百万円)	出荷額 (百万円)	増加率 (%)	出荷額 (百万円)	増加率 (%)	出荷額 (百万円)	増加率 (%)	出荷額 (百万円)	増加率 (%)	出荷額 (百万円)	増加率 (%)	
出水市	109,312	110,273	100.9	109,728	100.4	116,779	106.8					
旧出水市	91,445	93,212	101.9	91,046	99.6	97,341	106					
旧高尾野町	9,056	8,638	95.4	9,188	101.5	10,301	114					
旧野田町	8,811	8,423	95.6	9,494	107.8	9,137	104					

市町村名	平成18年		平成19年		平成20年		平成22年	
	出荷額 (百万円)	増加率 (%)	出荷額 (百万円)	増加率 (%)	出荷額 (百万円)	増加率 (%)	出荷額 (百万円)	増加率 (%)
出水市	110,007	100.6	100,828	92.2	103,585	94.8	67,461	61.7

※増加率は、平成 14 年を「100」としている。

出典：工業統計

【図 製造品出荷額の推移】



出典：工業統計

【表 工業—県内他市、隣接町との比較】

	事業所数 (所)	従業者数 (人)	製造品出荷額 (百万円)	人口1人当り 出荷額 (万円)
鹿児島県	2,337	72,080	1,814,531	106
鹿児島市	541	12,830	341,026	56
鹿屋市	126	3,460	77,696	74
枕崎市	88	1,477	49,954	211
阿久根市	67	1,827	34,566	149
出水市	101	3,688	67,461	121
指宿市	65	1,170	23,748	53
西之表市	26	347	3,886	23
垂水市	30	969	23,512	136
薩摩川内市	145	8,498	200,292	201
日置市	100	3,068	64,452	127
曾於市	71	2,212	75,785	193
霧島市	153	12,266	312,646	245
いちき串木野市	62	2,471	58,353	187
南さつま市	60	1,707	33,385	86
志布志市	86	1,941	154,836	469
奄美市	44	430	3,915	8
南九州市	136	2,851	37,626	96
伊佐市	42	1,277	40,277	137
姪良市	66	2,070	34,984	47
さつま町	55	2,443	64,713	268

出典：平成 22 年工業統計

(4) 農業・漁業の動向

農家総数は平成22年で2,103戸であり、平成7年以降、減少傾向にあります。

平成22年の経営耕地面積は田が1,794(ha)、畑が664(ha)、樹園地が751(ha)であり、田が最も多くなっています。

漁業は、平成20年現在就業人口が176人、漁業経営体数が101経営体、動力漁船隻数が95隻となっており、過去10年間の推移をみると就業人口、漁業経営体数ともに、大きく減少しています。

【表 農家数の推移】

年次	農家総数 (戸)	専業農家 (戸)	兼業農家(戸)		
			計	第1種 兼業農家	第2種 兼業農家
平成7年	4,751	1,440	3,311	754	2,557
旧出水市	2,631	787	1,844	381	1,463
旧高尾野町	1,584	492	1,092	269	823
旧野田町	536	161	375	104	271
平成12年	2,892	990	1,902	460	1,442
旧出水市	1,405	467	938	180	758
旧高尾野町	1,136	386	750	204	546
旧野田町	351	137	214	76	138
平成17年	2,547	1,139	1,408	374	1,034
旧出水市	1,242	566	676	168	508
旧高尾野町	981	414	567	165	402
旧野田町	324	159	165	41	124
平成22年	2,103	1,081	1,022	222	800
出水市					

出典：農林業センサス

【表 経営耕地面積の推移】

年次	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
田 (ha)	2,267	2,068	1,844	1,794
畑 (ha)	775	715	874	664
樹園地 (ha)	1,041	878	564	751
計 (ha)	4,083	3,661	3,282	3,209

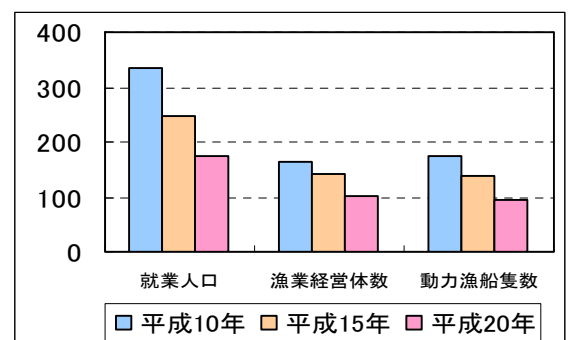
出典：農林業センサス

【表 漁業人口・経営体数・漁船隻数の推移】

年次	平成10年	平成15年	平成20年
就業人口 (人)	333	248	176
漁業経営体数 (経営体)	162	143	101
動力漁船隻数 (隻数)	174	138	95

出典：漁業センサス

【図 漁業人口・経営体数・漁船隻数の推移】



出典：漁業センサス

(5) 観 光

①観光資源

本市には、例年10月中旬から3月下旬にかけて1万羽を超えるツルが飛来し、「ツルの渡来地」として全国的に有名で、ツル観察センターには多く観光客が訪れるほか、世界的にも珍しいツルの博物館のクレインパークいずみもあります。

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている「出水麓伝統的建造物群保存地区」には、薩摩藩の国境の要衝として形成された武家屋敷群が、整然とした形で保存されています。

また、建久5年(1194年)島津家初代忠久が創建し、臨済宗の祖、栄西禅師が開山した日本最古の禅寺「鎮国山 感応禅寺」など、多くの歴史的観光資源があるほか、自然に恵まれている本市は、四季折々の花を楽しめ、数々の温泉地も有しています。

②観光支援

観光地をめぐる観光周遊バス、タクシーや観光ガイドが観光客の移動等を支援しています。

■ツル観光周遊バス

ツル観光周遊バスは、出水駅を起点にツル観察センターや出水麓武家屋敷群など市内の観光名所を周遊し、1日6便、年間平均550回程度運行されています。

なお、平均乗車人員は、1日平均10名程度となっています。

【表 ツル観光周遊バスの運行実績状況】

年度	バス運行回数 (回)	利用者数 (人)	一日平均 (人)
平成10年度	455	1,060	11.8
平成11年度	455	1,346	15.0
平成12年度	450	1,144	12.6
平成13年度	450	980	10.9
平成14年度	450	973	10.8
平成15年度	455	1,075	11.8
平成16年度	540	1,603	17.8
平成17年度	674	1,424	15.8
平成18年度	630	925	10.3
平成19年度	630	1,053	11.7
平成20年度	540	923	10.3
平成21年度	540	978	10.9
平成22年度	126	143	6.8
平成23年度	546	905	9.9

出典：庁内資料

※平成22年度：鳥インフルエンザの影響のため、運行回数が少なくなっています。

■観光周遊タクシー

観光周遊タクシーの利用は、平成17年度は340回でしたが、平成23年度には135回と、減少傾向になっています。

【表 観光周遊タクシー利用実績】

月	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
11月	52	48	44	41	42	28	29
12月	76	59	47	38	42	29	30
1月	63	66	61	72	56	29	23
2月	82	59	64	53	42	50	15
3月	46	43	31	36	26	37	10
4月	14	12	4	9	6	7	1
5月	0	2	3	6	0	3	2
6月	2	4	1	4	3	2	5
7月	0	3	0	10	0	2	7
8月	3	2	5	7	3	3	8
9月	1	1	0	2	1	6	3
10月	1	1	0	2	1	1	2
合計	340	300	260	280	222	197	135

※資料年度である11月～10月を年度として示す。(2社実績)

出典：庁内資料

■観光ボランティアガイド

観光ボランティアガイドの利用は、平成20年度は2,520人でしたが、平成23年度には1,029人と、減少傾向になっています。

【表 観光ボランティアガイドの利用状況】

月	人数(人)	団体数(団体)	月	人数(人)	団体数(団体)	月	人数(人)	団体数(団体)	月	人数(人)	団体数(団体)
平成20年 4月	203	6	平成21年 4月	81	3	平成22年 4月	106	4	平成23年 4月	6	4
5月	472	8	5月	52	3	5月	45	3	5月	32	11
6月	519	14	6月	43	3	6月	82	4	6月	15	1
7月	403	13	7月	201	6	7月	82	1	7月	54	2
8月	35	2	8月	65	2	8月	0	0	8月	14	1
9月	118	6	9月	27	1	9月	254	3	9月	2	1
10月	201	3	10月	172	6	10月	80	2	10月	84	3
11月	114	6	11月	226	7	11月	94	4	11月	254	8
12月	206	5	12月	147	5	12月	224	5	12月	128	9
平成21年 1月	113	4	平成22年 1月	309	5	平成23年 1月	2	1	平成24年 1月	65	3
2月	39	4	2月	108	7	2月	61	1	2月	331	8
3月	97	5	3月	209	6	3月	29	1	3月	44	3
合計	2,520	76	合計	1,640	54	合計	1,059	29	合計	1,029	54

出典：庁内資料

③観光客数

観光客数は、例年 70～80 万人程度で推移していますが、平成 23 年は鳥インフルエンザの影響で約 58 万人となっています。その内訳をみると、ツル観光が減少していますが、イベント観光客は横ばい傾向にあります。

【表 観光客数の推移】

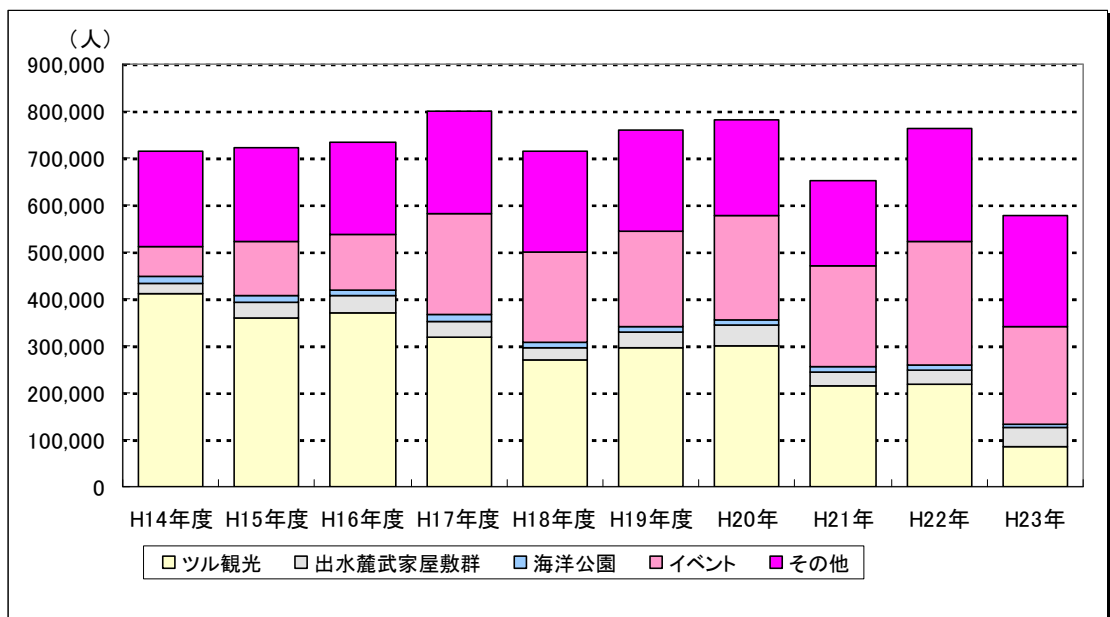
	ツル観光 (人)	出水麓武家 屋敷群(人)	海洋公園 (人)	イベント (人)	その他 (人)	観光客総数 (人)
平成14年度	410,000	25,000	15,000	62,000	204,000	716,000
平成15年度	360,000	33,000	13,000	115,000	201,000	722,000
平成16年度	370,000	37,000	13,000	117,000	197,000	734,000
平成17年度	320,000	33,000	15,000	215,000	217,000	800,000
平成18年度	270,000	26,000	11,000	192,000	214,000	713,000
平成19年度	298,000	30,000	11,000	207,000	215,000	761,000
平成20年	299,000	44,000	11,000	223,000	206,000	783,000
平成21年	215,000	30,000	12,000	212,000	184,000	653,000
平成22年	219,000	29,000	13,000	263,000	239,000	763,000
平成23年	85,000	41,000	8,000	208,000	236,000	578,000

※1) その他は、神社、ゴルフ場、植木市及び上場高原の合計。

出典：庁内資料

※2) 平成20年より、県の集計方法に合わせ暦年としている。

【図 観光客数の推移】



出典：庁内資料

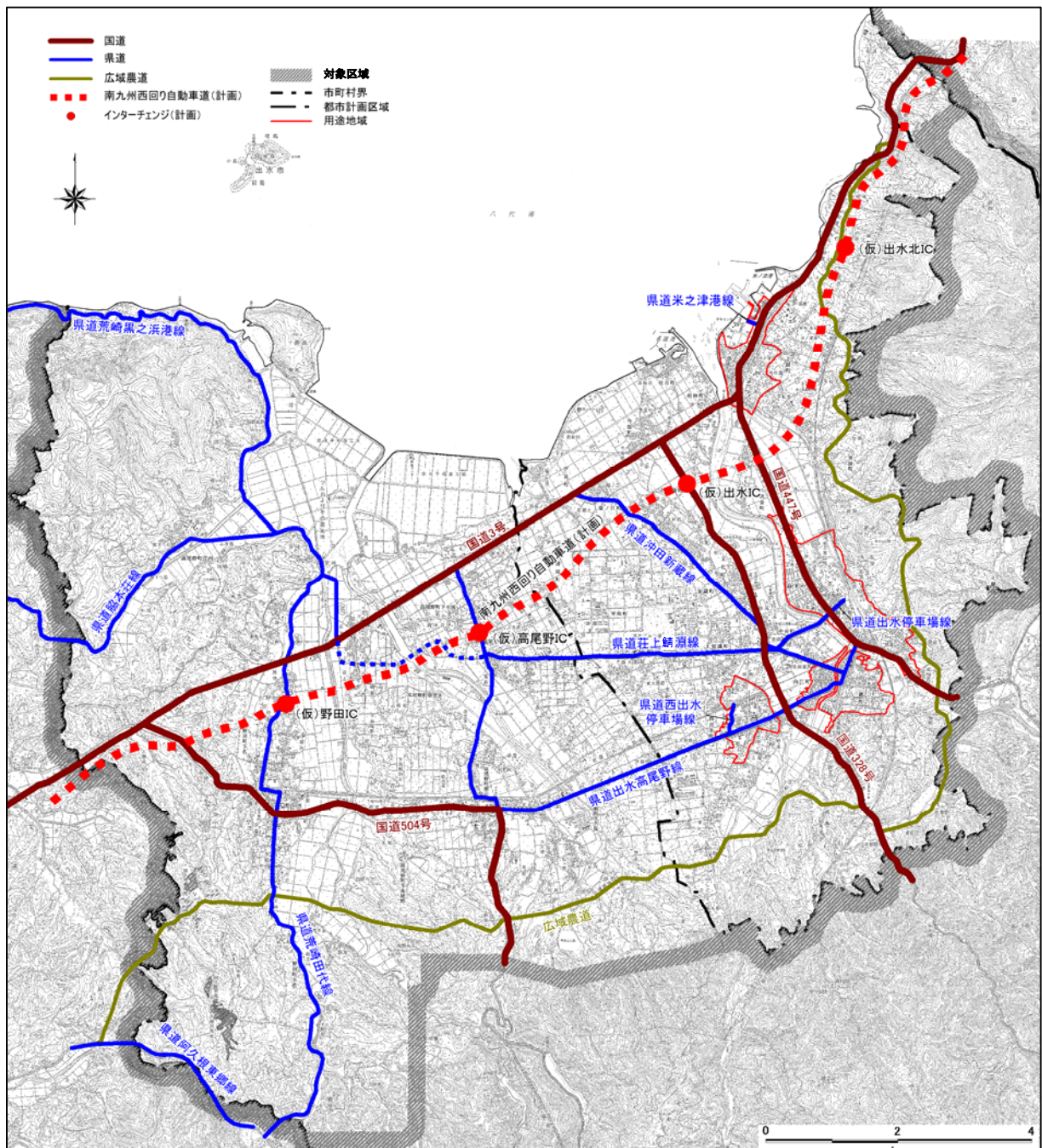
2-4 交通

(1) 幹線道路網

広域的な都市間連携を受け持つ主要幹線道路として、東西方向の国道3号及び南北軸の国道328号、国道447号があります。これらの道路とともに、国道504号、県道出水高尾野線、県道荘上鯖淵線及び広域農道などが地域の骨格を形成する道路として機能しています。

また、現在、高規格幹線道路として南九州西回り自動車道や北薩横断道路の整備が進められており、当該道路が完成すると地域間の移動時間の短縮、九州南西部の地域経済の活性化等に大きく寄与することが期待されています。なお、南九州西回り自動車道には出水北IC、出水IC、高尾野IC、野田ICの4つのインターチェンジ（全て仮称）が計画されています。

【図 幹線道路網】



出典：庁内資料

(3) 公共交通体系

①公共交通体系

鉄道は、平成 23 年 3 月に九州新幹線鹿児島ルートが福岡（博多駅）まで全線開業し、JR 九州出水駅には上下合わせて約 50（本/日）が運行されています。

また、肥薩おれんじ鉄道は、上下合わせて約 40（本/日）、1 時間あたり 1 本程度が運行されています。

バスは、鹿児島空港と本市（出水駅バスセンター）を結ぶ「空港シャトルバス」が 1 日 12 往復運行されており、その他に路線バスが 2 路線あります。

市が運行する「出水ふれあいバス」は 10 路線で運行され、地域住民の日常の足となっています。

【表 公共交通体系の状況】

公共交通機関	運行状況		備考
JR九州 出水駅(九州新幹線)	上り 23本	下り 22本	
肥薩おれんじ鉄道			
米ノ津駅	上り 18本	下り 19本	土曜、日祝日運転の快速列車は通過
出水駅	上り 21本	下り 19本	
西出水駅	上り 18本	下り 17本	土曜、日祝日運転の快速列車は通過
高尾野駅	上り 20本	下り 19本	
野田郷駅	上り 20本	下り 19本	
路線バス	—	—	2通りのルートで運行
空港シャトルバス	往復 12便		
出水ふれあいバス			
市内横断便運行ルート	野田→出水 2便	出水→野田 3便	
出水循環便運行ルート	右回り 3便	左回り 2便	
大川内便運行ルート	上り 5便	下り 5便	
針原・切通便運行ルート	往復 4便		
荘・蕨島便運行ルート	右回り 3便	左回り 2便	
折尾野・太田原便運行ルート	右回り 1便	左回り 1便	
西辺田・江内便運行ルート	上り 5便	下り 5便	
大久保・内野々便運行ルート	往復 3便		
千間山・唐笠木便運行ルート	往復 3便		
野田循環便運行ルート	往復 4便		

※平成 22 年 10 月現在

出典：庁内資料

②乗車人員

■九州新幹線

九州新幹線の1日当たり乗車人員は、平成16年の736人から増加傾向にあり、全線開業した平成23年には1,200人と大幅に増加しています。

【表 九州新幹線の乗車人数】

(単位：人)

年度	一日当たり			年間		
	乗車人数計	内定期	内定期外	乗車人数計	内定期	内定期外
16	736	183	553	268,768	66,863	201,905
17	887	332	555	323,641	121,109	202,532
18	953	401	552	347,725	146,193	201,532
19	985	448	537	359,471	163,388	196,083
20	999	475	524	364,720	173,475	191,245
21	1,021	540	481	372,567	196,897	175,670
22	1,041	559	483	380,028	203,882	176,146
23	1,200	608	593	439,316	222,388	216,928

出典：庁内資料

■肥薩おれんじ鉄道

肥薩おれんじ鉄道は、平成17年度乗車人員が市内全駅合計で415,415人でしたが、平成23年度には330,519人に減少しています。

【表 肥薩おれんじ鉄道の乗降客人数】

(単位：人)

駅名	平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	乗車人員	降車人員	乗車人員	降車人員	乗車人員	降車人員	乗車人員	降車人員	乗車人員	降車人員	乗車人員	降車人員	乗車人員	降車人員
米ノ津	42,000	42,805	38,104	38,949	40,048	41,195	35,537	36,726	35,747	37,008	32,628	33,768	30,401	32,535
出水	47,296	46,394	46,699	45,518	49,402	47,087	49,472	46,068	47,183	43,408	47,986	44,101	50,819	44,453
西出水	205,667	204,695	191,928	190,193	191,139	189,869	184,164	182,874	159,191	158,769	146,027	144,869	139,101	138,724
高尾野	18,038	19,257	18,596	20,833	19,556	21,034	20,510	20,877	22,028	22,516	22,542	24,565	25,007	26,551
野田郷	102,414	104,965	98,905	101,051	90,187	92,811	87,788	91,064	85,083	88,073	87,930	90,525	85,191	87,552
合計	415,415	418,116	394,232	396,544	390,332	391,996	377,471	377,609	349,232	349,774	337,113	337,828	330,519	329,815

出典：庁内資料

■空港バス・路線バス

空港バスや路線バスも、1日平均乗車人員が減少傾向にあります。特に、空港バスの乗車人員が、平成21年度に急激に減少した背景としては、平成21年2月にパイオニア鹿児島工場、12月にNEC液晶テクノロジー鹿児島工場がそれぞれ閉鎖し、それまでの工場関係者の利用が無くなったことが大きな要因と考えられます。

【表 空港・路線バスの乗車人数】

(単位：人)

年度	空港バス(阿久根⇄空港)		路線バス(阿久根⇄水俣)	
	乗車人数	一日平均	乗車人数	一月平均
18	64,627	177.1	—	—
19	64,071	175.5	—	—
20	61,432	168.3	11,325	943.8
21	53,102	145.5	10,472	872.7
22	50,190	137.5	11,228	935.7
23	54,460	149.2	10,358	863.2

出典：庁内資料

■出水ふれあいバス

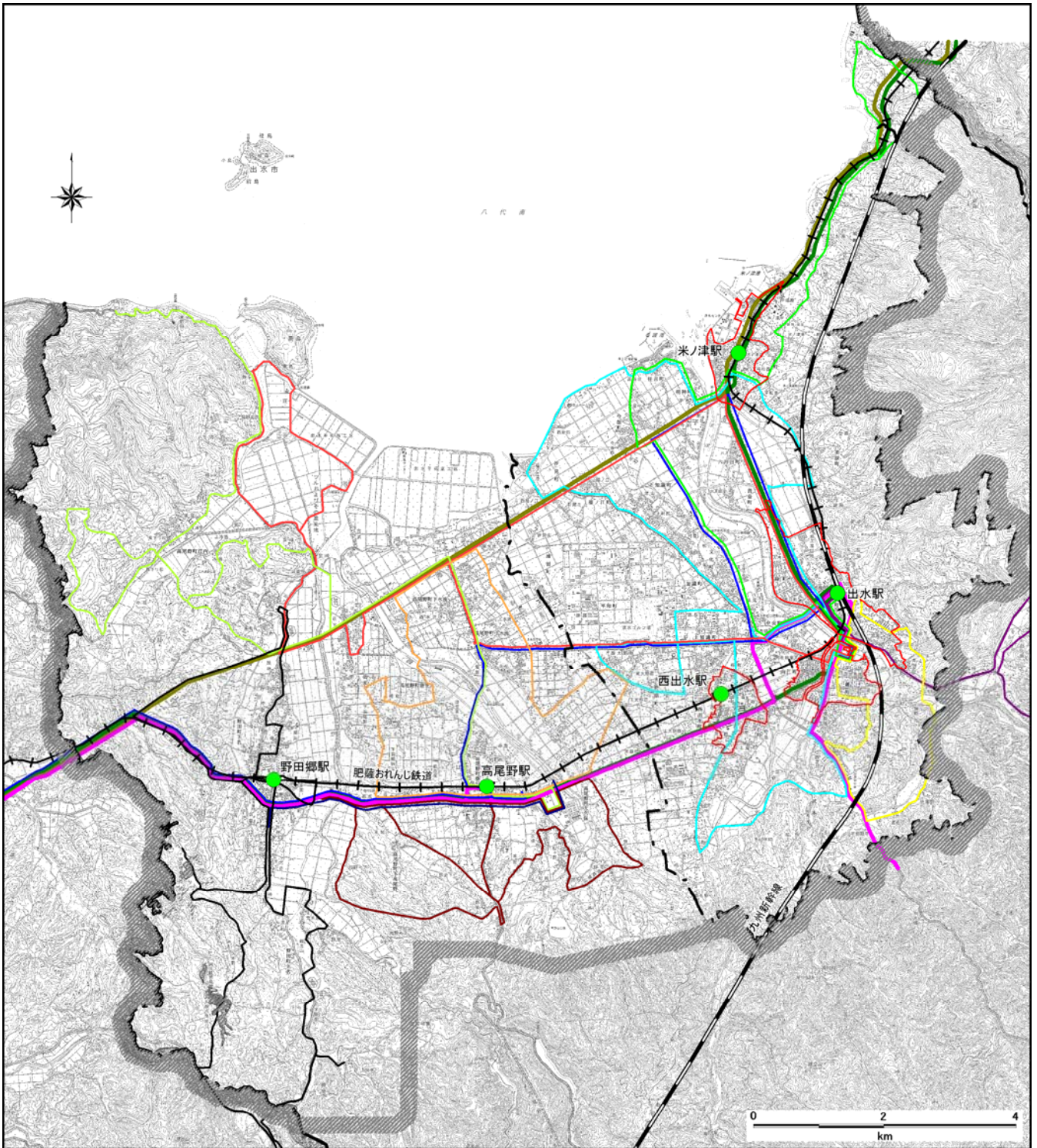
出水ふれあいバスの乗車人員は、10ルートのうち1ルートを除き減少しており、平成18年度の69,643人から、平成23年度には51,443人に減少しています。

【表 出水ふれあいバスの乗車人数】

(単位：人)

ルート名等	平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		備考
	乗車人員	1便当たり乗車人員	乗車人員	1便当たり乗車人員	乗車人員	1便当たり乗車人員	乗車人員	1便当たり乗車人員	乗車人員	1便当たり乗車人員	乗車人員	1便当たり乗車人員	
出水循環ルート	13,129	9.7	11,640	8.7	10,220	7.6	10,209	7.7	10,243	7.6	8,985	6.6	
大川内ルート	16,555	10.8	16,044	10.7	17,136	11.5	14,487	9.7	14,244	9.2	13,755	8.9	
針原・切通ルート	7,306	6.7	6,749	6.3	6,708	6.3	5,929	5.6	5,173	4.8	5,128	4.7	
荘・蕨島ルート	9,988	6.5	9,845	6.9	9,417	7.0	8,168	6.1	8,451	6.2	7,389	5.4	
折尾野・太田原ルート	2,780	5.1	2,626	5.1	3,121	6.5	3,302	6.9	3,210	6.6	3,072	6.3	
西辺田・江内ルート	15,651	2.9	11,130	3.4	10,420	3.6	9,818	3.4	8,650	3.0	7,249	2.5	
大久保・内野タルート			1,260	1.6	1,066	1.5	1,048	1.4	736	1.0	639	0.9	
千間山・唐笠木ルート			795	1.0	810	1.1	762	1.1	477	0.7	477	0.7	
野田・高尾野温泉ルート			28	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
野田循環ルート	4,234	2.8	3,171	2.6	3,036	3.1	3,514	3.6	3,059	3.1	2,691	2.8	
市内横断ルート	-	-	669	1.1	1,790	1.5	1,960	1.6	2,475	2.0	2,058	1.7	平成19年10月から運行
計	69,643	5.3	63,957	5.1	63,724	5.3	59,197	4.9	56,718	4.6	51,443	4.1	

出典：庁内資料



【図 公共交通網】

ふれあいバス

- 市内横断
- 出水循環
- 針原・切通
- 西辺田・江内ルート
- 折尾野・太田原ルート
- 千間山・唐笠木ルート
- 荘・藤島
- 大久保・内野々ルート
- 大川内
- 野田・高尾野温泉ルート
- 野田循環ルート

南国交通

- 空港バス
- 定期便1
- 定期便2

鉄道

- 九州新幹線
- 肥薩おれんじ鉄道
- 駅

- ▨ 対象区域
- - - 市町村界
- - - 都市計画区域
- 用途地域

出典：庁内資料

(4) 港 湾

米之津港は、鹿児島県管理の地方港湾で、輸出入及び移出入の貨物を取り扱っています。

港湾取扱貨物量は、平成 13 年度は約 30 万トンであり、ピークとなる平成 15 年度の約 35 万 7 千トンまで増加傾向となっていました。その後は減少に転じ、平成 23 年度には約 14 万 8 千トンと平成 13 年度の約半数まで減少しました。

また、その内訳は移入が約 13 万トン、輸入が 1 万 6 千トンであり、移入と輸入で取り扱い貨物量のほとんどを占めています。

【表 港湾取扱貨物量の推移】

年度	港湾名	全体	輸出	輸入	移出	移入
13	鹿児島県全体(トン)	47,063,903	11,422	480,224	22,945,987	23,626,270
	米之津(トン)	299,775	0	147,343	50,283	102,149
	構成比(%)	0.6	0.0	30.7	0.2	0.4
14	鹿児島県全体(トン)	44,957,408	3,055	699,688	21,802,008	22,452,657
	米之津(トン)	311,564	2,204	189,912	51,208	68,240
	構成比(%)	0.7	72.1	27.1	0.2	0.3
15	鹿児島県全体(トン)	44,379,847	4,397	643,233	21,379,614	22,352,603
	米之津(トン)	356,809	3,050	267,426	38,254	48,079
	構成比(%)	0.8	69.4	41.6	0.2	0.2
16	鹿児島県全体(トン)	43,828,762	3,407	112,055	21,608,456	22,104,844
	米之津(トン)	219,924	3,260	87,977	37,773	90,914
	構成比(%)	0.5	95.7	78.5	0.2	0.4
17	鹿児島県全体(トン)	42,478,185	7,777	175,946	21,024,353	21,270,109
	米之津(トン)	240,483	6,877	153,393	41,029	39,184
	構成比(%)	0.6	88.4	87.2	0.2	0.2
18	鹿児島県全体(トン)	43,305,078	3,921	90,035	21,065,009	22,146,113
	米之津(トン)	194,896	3,921	79,713	25,019	86,243
	構成比(%)	0.5	100.0	88.5	0.1	0.4
19	鹿児島県全体(トン)	41,871,295	2,000	93,207	20,593,475	21,182,613
	米之津(トン)	148,905	2,000	78,065	5,722	63,118
	構成比(%)	0.4	100.0	83.8	0.0	0.3
20	鹿児島県全体(トン)	40,649,954	1,350	54,003	20,111,385	20,483,216
	米之津(トン)	142,410	1,350	27,499	0	113,561
	構成比(%)	0.4	100.0	50.9	0.0	0.6
21	鹿児島県全体(トン)	40,475,320	0	52,799	20,228,218	20,194,303
	米之津(トン)	149,940	0	26,130	0	123,810
	構成比(%)	0.4	0.0	49.5	0.0	0.6
22	鹿児島県全体(トン)	108,790,601	270,564	32,481,630	49,739,498	26,298,909
	米之津(トン)	151,188	1,600	27,234	0	122,354
	構成比(%)	0.1	0.6	0.1	0.0	0.5
23	鹿児島県全体(トン)	0				
	米之津(トン)	148,353	1,600	16,000	-	130,753
	構成比(%)					

※ 1) 米之津港は、平成 21 年までは乙種港湾であったが、平成 22 年から甲種港湾に変更（国土交通省指定）されたため、平成 22 年の県全体の取扱貨物量は、甲種港湾の全体取扱貨物量となっている。

※ 2) 平成 23 年の県全体取扱貨物量は、平成 25 年 5 月頃公表予定。

出典：港湾統計

2-5土地利用

(1) 土地利用状況

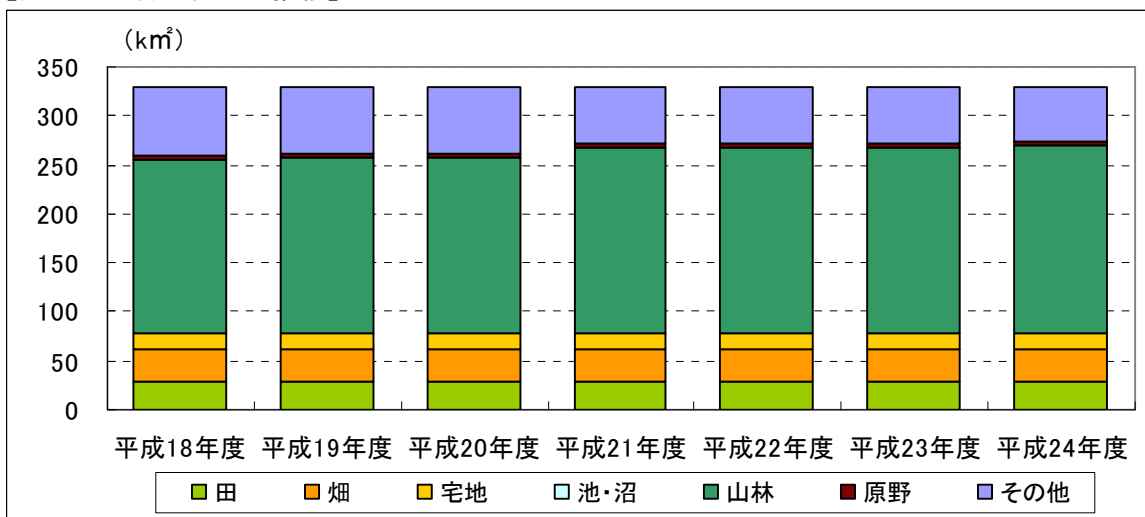
土地利用状況は、平成24年度で田、畑を合わせて18.5%、宅地が5.1%、山林が58.0%となっています。平成18年度以降で見ると、田畑面積が微減し、宅地面積が微増しています。

【表 土地利用状況の推移】

年度	面積	合計	田	畑	宅地	池・沼	山林	原野	その他
18	面積(k㎡)	330.06	29.45	32.61	16.08	0.31	177.62	4.07	69.92
	(構成比)	(100.0%)	(8.9%)	(9.9%)	(4.9%)	(0.1%)	(53.8%)	(1.2%)	(21.2%)
19	面積(k㎡)	330.06	29.42	32.55	16.12	0.31	178.27	4.07	69.32
	(構成比)	(100.0%)	(8.9%)	(9.9%)	(4.9%)	(0.1%)	(54.0%)	(1.2%)	(21.0%)
20	面積(k㎡)	330.06	29.39	32.46	16.28	0.31	178.23	4.07	69.32
	(構成比)	(100.0%)	(8.9%)	(9.8%)	(4.9%)	(0.1%)	(54.0%)	(1.2%)	(21.0%)
21	面積(k㎡)	330.06	29.24	32.12	16.64	0.31	189.71	4.04	58.00
	(構成比)	(100.0%)	(8.9%)	(9.7%)	(5.0%)	(0.1%)	(57.5%)	(1.2%)	(17.6%)
22	面積(k㎡)	330.06	29.10	32.04	16.78	0.31	190.08	4.04	57.71
	(構成比)	(100.0%)	(8.8%)	(9.7%)	(5.1%)	(0.1%)	(57.6%)	(1.2%)	(17.5%)
23	面積(k㎡)	330.06	29.06	31.99	16.85	0.30	190.08	4.04	57.74
	(構成比)	(100.0%)	(8.8%)	(9.7%)	(5.1%)	(0.1%)	(57.6%)	(1.2%)	(17.5%)
24	面積(k㎡)	330.06	28.97	31.90	16.97	0.30	191.36	3.94	56.62
	(構成比)	(100.0%)	(8.8%)	(9.7%)	(5.1%)	(0.1%)	(58.0%)	(1.2%)	(17.1%)

出典：庁内資料

【図 土地利用状況の推移】



出典：庁内資料

(2) 法規制指定状況

土地利用法規制状況は、農業振興地域が最も面積が広く 9,878 (ha) となっています。

都市計画区域は出水地域に指定されており、都市計画区域内では用途地域を除く、区域の大部分が農業振興地域に指定されています。

また、農用地区域は 2,948 (ha) が指定され、都市計画区域内外を含む平坦地の多くが農用地区域となっており、北西部に位置する農用地の一部はツル渡来地に指定されています。

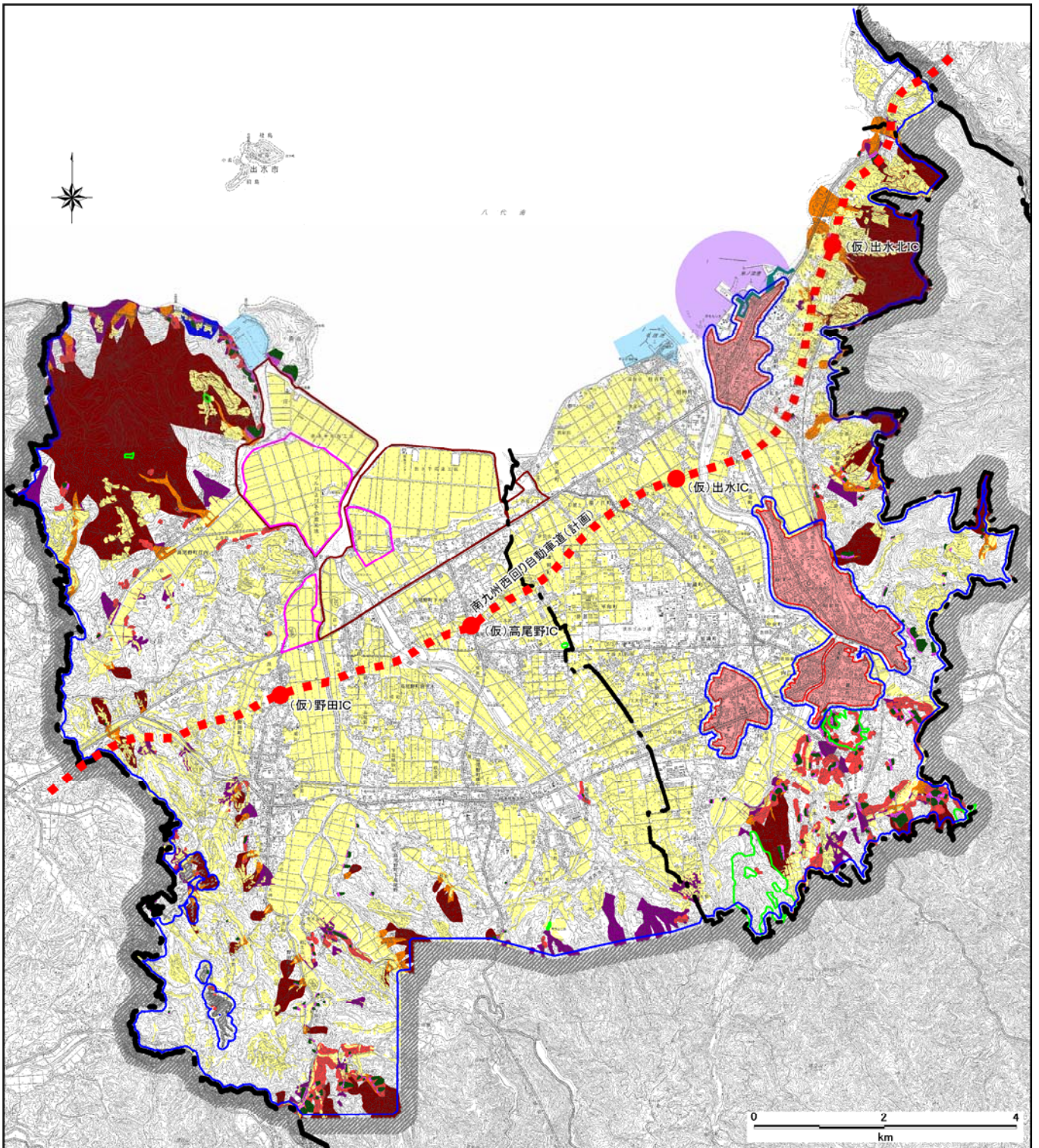
保安林は、都市計画区域外縁部などに指定されており、その面積は 83.09 (ha：都市計画区域内) となっています。

このほか対象区域の外縁部や準用河川周辺などには、急傾斜地崩壊危険区域や土石流警戒区域などが指定されています。























【表 主要土地利用法規制指定状況】

地域・地区名	名称	指定年月日	面積 (ha)	備考
都市計画区域	出 水	昭和43年8月5日	4,190	
用途地域	〃	平成7年11月15日	439	
農業振興地域	〃	平成19年2月	9,878	面積は、平成21年度都市計画基礎調査時に集計した対象区域内の面積
農用地区域	〃	平成19年2月	2,948	面積は、平成21年度都市計画基礎調査時に集計した対象区域内の面積
米之津港臨港地区	米 之 津 港	昭和40年2月17日	3.3	
漁港区域	名 護 漁 港	昭和28年3月5日	-	漁港区域変更平成2年12月10日 (農林水産省告示第1564号)
鳥獣保護区特別保護区	出 水	-	-	
保健機能森林	〃	-	-	
保安林	武本トキビ迫	昭和49年6月10日	0.08	都市計画区域内
〃	〃 松 迫	〃	0.17	〃
〃	〃 小原山	〃	0.66	〃
〃	〃 赤 崩	昭和51年1月26日	0.08	〃
〃	〃 城ノ坂	〃	0.12	〃
〃	〃 小原山	〃	0.25	〃
〃	〃 鍋 野	昭和51年5月4日	0.07	〃
〃	〃 小原山	昭和51年10月20日	4.11	〃
〃	〃 〃	〃	0.18	〃
〃	〃 飯 田	昭和56年7月15日	0.30	〃
〃	〃 麓	昭和57年1月12日	0.42	〃
〃	〃 東犬ノ山	昭和58年6月18日	0.15	〃
〃	〃 小原山	昭和59年5月22日	76.5	〃

出典：平成21年度都市計画基礎調査



【図 法規制指定状況】

- | | | |
|--|--|--|
|  用途地域 |  海岸保全区域 |  急傾斜地崩壊危険区域(崩壊区域) |
|  農業振興地域 |  国設鳥獣保護区 |  急傾斜地崩壊危険区域(危険区域) |
|  農用地区域 |  ツル渡来指定地 |  地すべり危険箇所 |
|  港湾区域 |  保安林 |  土石流危険箇所(危険区域) |
|  漁港区域 |  急傾斜地警戒区域 |  土石流危険箇所(溪流区域) |
| |  土石流警戒区域 |  南九州西回り自動車道(計画) |
| | |  インターチェンジ(計画) |
| | |  対象区域 |
| | |  市界 |
| | |  都市計画区域 |
| | |  用途地域 |

出典：平成 21 年度都市計画基礎調査

(3) 市街化動向

①地区別面積当たり建物新築件数

平成 16～20 年の建物新築状況は、都市計画区域内で 908 件のうち用途地域内が 205 件、用途無指定地域が 703 件となっており、用途無指定地域の新築件数が多くなっています。

また、建築物の用途別の件数は、住宅が 740 件（81.5%）と最も多くなっています。

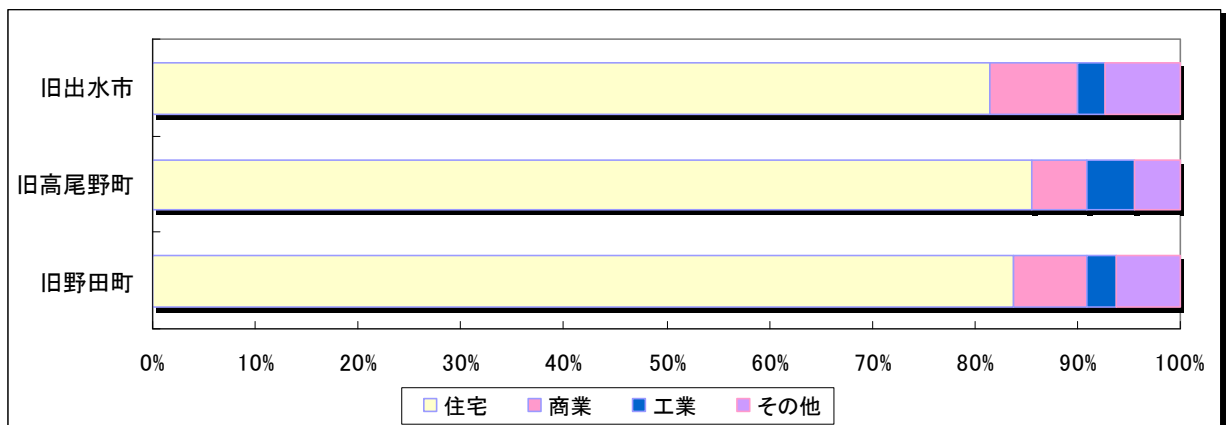
地区別に新築状況をみると、肥薩おれんじ鉄道出水駅、米ノ津駅、高尾野駅周辺などで比較的多くなっています。

【表 平成 16 年～20 年の新築状況】

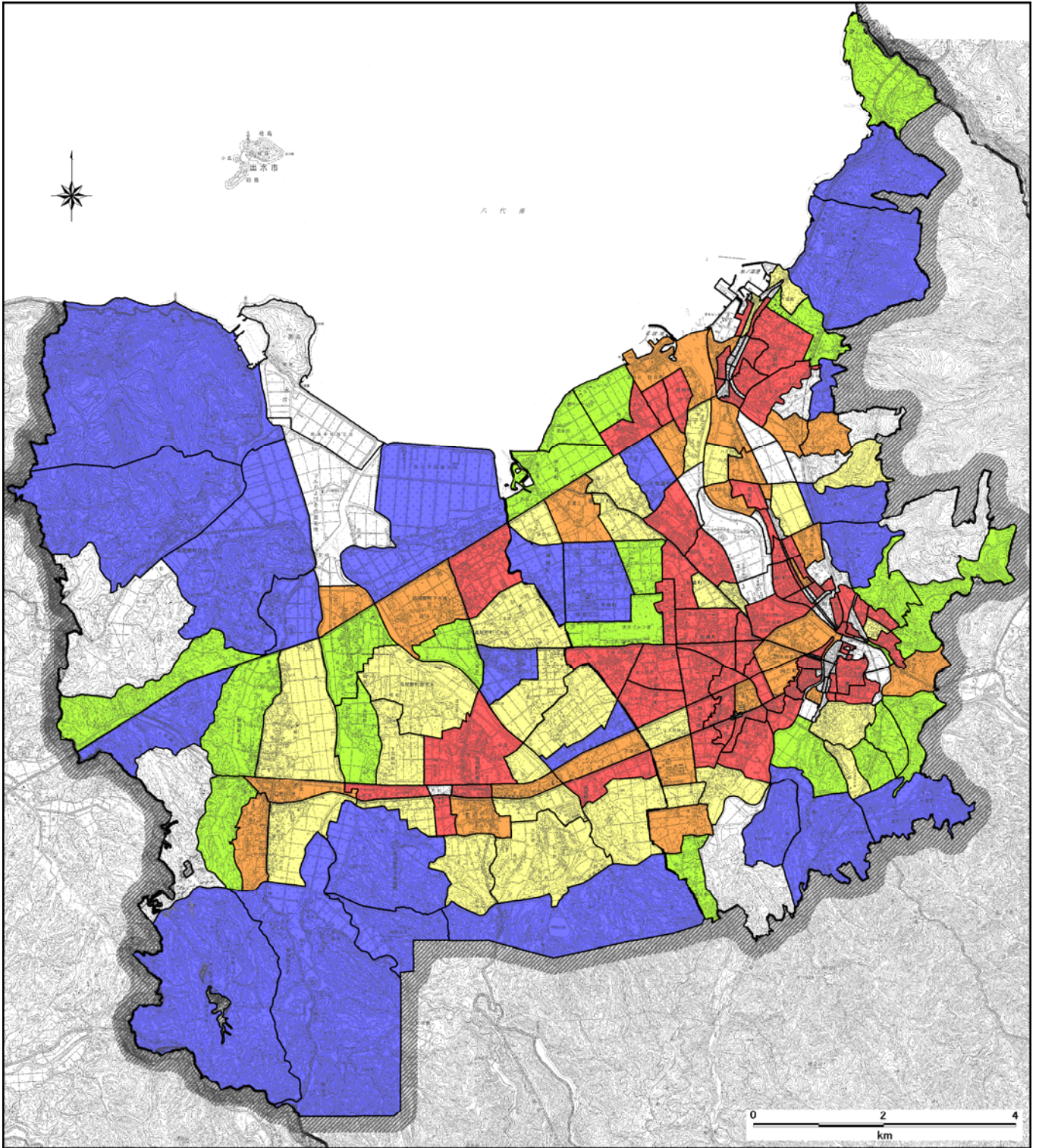
	合計 (件)	住宅 (件)	商業 (件)	工業 (件)	その他 (件)	敷地面積 合計 (㎡)	建築面積 合計 (㎡)	平均 建ぺい率 (%)	延床面積 合計 (㎡)	平均 容積率 (%)
用途地域 (構成比)	205 (100.0%)	153 (74.6%)	29 (14.1%)	5 (2.4%)	18 (8.8%)	352,181	21,552	6.1	27,260	7.7
用途無指定地域 (構成比)	703 (100.0%)	587 (83.5%)	49 (7.0%)	19 (2.7%)	48 (6.8%)	713,431	79,463	11.1	95,223	13.3
都市計画区域 (構成比)	909 (100.0%)	741 (81.5%)	78 (8.6%)	24 (2.6%)	66 (7.3%)	1,065,613	101,015	9.5	122,483	11.5
都市計画区域外小計 (構成比)	27 (100.0%)	22 (81.5%)	1 (3.7%)	1 (3.7%)	3 (11.1%)	69,929	3,555	5.1	4,255	6.1
旧出水調査区域合計 (構成比)	936 (100.0%)	763 (81.5%)	79 (8.5%)	25 (2.7%)	69 (7.4%)	1,135,542	104,570	9.2	126,739	11.2
旧高尾野調査区域合計 (構成比)	418 (100.0%)	358 (85.6%)	22 (5.3%)	19 (4.5%)	19 (4.5%)	536,864	47,269	8.8	54,306	10.1
旧野田調査区域合計 (構成比)	111 (100.0%)	93 (83.8%)	8 (7.2%)	3 (2.7%)	7 (6.3%)	232,078	13,926	6.0	15,245	6.6
調査区域合計 (構成比)	1,467 (100.0%)	1,215 (82.9%)	109 (7.4%)	47 (3.2%)	95 (6.5%)	1,904,484	165,764	8.7	196,290	10.3

出典：平成 21 年度都市計画基礎調査

【図 平成 16 年～20 年の新築状況】



出典：平成 21 年度都市計画基礎調査



【図 地区別新築状況】

1 ha 当りの建築新築件数

- 0.3件/ha以上
- 0.2~0.3件/ha
- 0.1~0.2件/ha
- 0.05~0.1件/ha
- 0.01~0.05件/ha
- 0~0.01件/ha

- 対象区域
- 市町村界
- 都市計画区域
- 用途地域

※平成16年~20年を集計

出典：平成 21 年度都市計画基礎調査

2-6 公共公益施設分布状況

行政施設は、市役所、支所及び出張所が対象区域内に効率的に配置されています。

学校教育施設は、高等学校が5校あり、そのうち県立出水高等学校など高等学校3校が、西出水地区に立地しています。

運動場、体育館等の運動施設は、旧市町ごとに整備され、充実しています。

社会教育、社会体育及び福祉施設は、国道328号、国道504号並びに県道出水高尾野線の周辺に多く分布しています。

【表 公共公益施設状況】

分類	図面 対照 番号	名称	分類	図面 対照 番号	名称
行政	1-1	出水市役所	学校教育	3-8	蕨島小学校
	1-2	高尾野支所		3-9	高尾野小学校
	1-3	野田支所		3-10	下水流小学校
	1-4	米ノ津出張所		3-11	江内小学校
	1-5	江内出張所		3-12	野田小学校
観光・ 交流	2-1	ツル博物館クレインパークいずみ		3-13	出水中学校
	2-2	ツル観察センター		3-14-1	米ノ津中学校
	2-3	出水駅観光特産品館「飛来里」		3-14-2	米ノ津中学校桂島分校(休校)
	2-4	出水市民交流センター		3-15	荘中学校
	2-5	出水市海洋公園プール		3-16	高尾野中学校
	2-6	高野山公園		3-17	江内中学校
学校教育	3-1	出水小学校		3-18	野田中学校
	3-2	西出水小学校		3-19	出水商業高校
	3-3	東出水小学校		3-20	出水高校
	3-4	米ノ津小学校		3-21	出水工業高校
	3-5-1	米ノ津東小学校		3-22	野田女子高等学校
	3-5-2	米ノ津東小学校桂島分校(休校)		3-23	出水養護学校
	3-6	切通小学校		3-24	出水中央高校
	3-7	荘小学校		3-25	出水市学校給食センター

出典：庁内資料



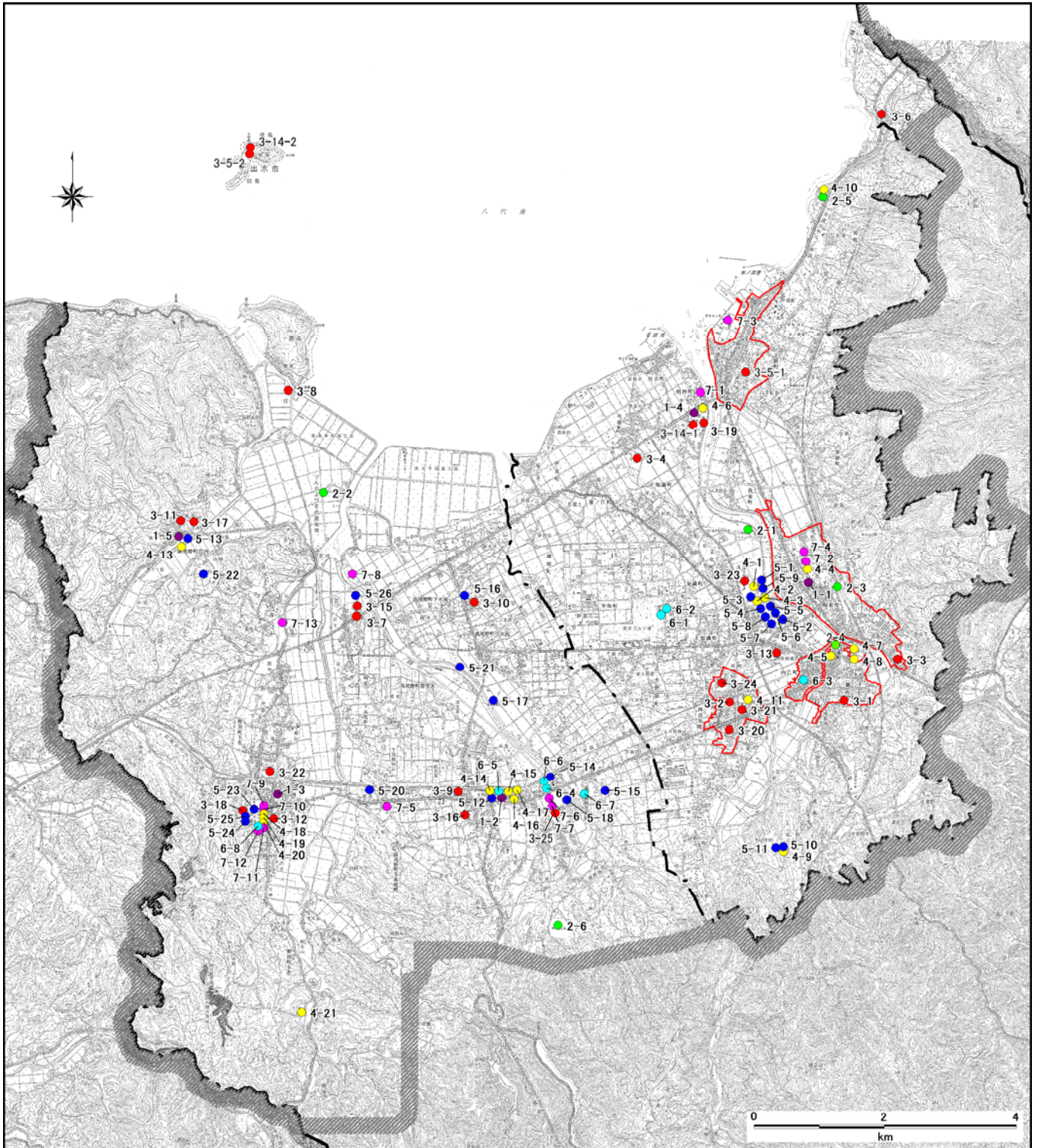
出水市学校給食センター



出水市高齢者ふれあいセンター

分類	図面 対照 番号	名称	分類	図面 対照 番号	名称
社会教育	4-1	出水市中央公民館	社会体育	5-14	高尾野きらめきドーム
	4-2	出水市文化会館		5-15	高尾野武道館
	4-3	出水市音楽ホール		5-16	下水流農業者トレーニングセンター
	4-4	出水市働く婦人の家		5-17	高尾野運動場
	4-5	出水公会堂		5-18	高尾野工業団地運動場
	4-6	米ノ津公会堂		5-19	高尾野多目的運動場
	4-7	出水市立中央図書館		5-20	高尾野西部地区農村公園
	4-8	出水市出水歴史民俗資料館		5-21	高尾野川ジョギングロード
	4-9	出水市青年の家		5-22	江内運動広場
	4-10	米ノ津農村環境改善センター		5-23	野田体育館
	4-11	西出水公民館		5-24	野田武道館
	4-12	高尾野公民館		5-25	野田弓道場
	4-13	江内カントリーコア		5-26	荘運動場
	4-14	出水市立高尾野図書館	福祉	6-1	出水市出水老人福祉センター
	4-15	出水市高尾野郷土館・古城画伯コレクション館		6-2	出水市高齢者ふれあいセンター
	4-16	高尾野工芸館		6-3	児童ディサービスひだまり
	4-17	高尾野農村環境改善センター		6-4	出水市特別養護老人ホーム紅葉園
	4-18	野田農村環境改善センター		6-5	出水市高尾野老人福祉センター
	4-19	出水市立野田図書館		6-6	出水市福祉作業所「めーぶるハウス」
	4-20	出水市野田資料館		6-7	出水市たかおの交流館
	4-21	岩淵公民館		6-8	出水市野田老人福祉センター
社会体育	5-1	出水市総合体育館		医療・保健・衛生	7-1
	5-2	出水市野球場	7-2		出水市出水保健センター
	5-3	出水市陸上競技場	7-3		出水浄化センター
	5-4	出水市庭球場	7-4		出水消防署
	5-5	出水市多目的広場	7-5		石坂分署
	5-6	出水市総合武道館	7-6		高尾野診療所
	5-7	出水市弓道場	7-7		出水市高尾野農業者健康管理センター
	5-8	出水市出水屋内ゲートボール場	7-8		高尾野浄化センター
	5-9	出水市市民プール	7-9		野田診療所
	5-10	出水市小原山庭球場	7-10		野田訪問看護ステーション
	5-11	出水市小原山体育館	7-11		出水市野田保健センター
	5-12	高尾野体育館	7-12		出水市野田健康増進センター
	5-13	江内体育館	7-13		野田中央地区浄化センター

出典：庁内資料



【図】 公共公益施設分布状況

- 行政
 - 観光・交流
 - 学校教育
 - 社会教育
 - 社会体育
 - 福祉
 - 医療・保健・衛生
- ▨ 対象区域
 - 市町村界
 - - 都市計画区域
 - 用途地域

出典：庁内資料

3 都市の整備状況

3-1 都市計画区域、用途地域

都市計画区域は旧出水市に指定されており、区域面積 4,190 (ha) のうち用途地域の面積は、439 (ha) となっています。用途地域は、出水駅、米ノ津駅、西出水駅周辺及び本町商店街周辺などに指定されており、その面積割合は、都市計画区域の 10.4%、行政区域 (33,006(ha)) の約 1.3% となっています。

人口は、行政区域と同様に、都市計画区域でも減少傾向となっています。用途地域内の人口は、平成 22 年現在 10,608 人で、都市計画区域の 31.0%、行政人口 55,621 人の 19.1% を占めています。

また、人口密度は、用途地域内で 24.2 (人/ha)、用途無指定地域で 6.3 (人/ha)、都市計画区域外で 0.7 (人/ha) となっています。用途地域内の人口密度は、平成 7 年では 27.1 (人/ha) でしたが、平成 22 年には 24.2 (人/ha) と減少しています。

【表 都市計画区域】

区域名	区域内市町村	法指定年月日 最終指定年月日	範囲	面積(ha)
出水	出水市	S9.5.28 S43.8.5	行政区域の一部	4,190.0

出典：庁内資料

【表 地域地区】

都市計画 区域名	市町村名	当初指定年月日 最終指定年月日	範囲	面積(ha)	備考	
出水	出水市	S56.12.10 H15.1.17	行政区域 の一部	439.0	建築基準法改正に伴う建ぺい率及び高さの限度の変更	
区分	第一種低層 住居専用地域	第二種低層 住居専用地域	第一種中高層 住居専用地域	第一種 住居地域	第二種 住居地域	準住居 地域
面積(ha)	50	8	44	148	80	13
容積率(%)	60	80	150	200	200	200
建ぺい率(%)	50	50	60	60	60	60
高さ制限(m)	10	10	—	—	—	—
区分	近隣商業 地域	商業地域	準工業 地域	工業地域	合計	
面積(ha)	18	26	9	43	439	
容積率(%)	400	200	200	200	—	
建ぺい率(%)	80	60	60	60	—	
高さ制限(m)	—	—	—	—	—	

出典：庁内資料

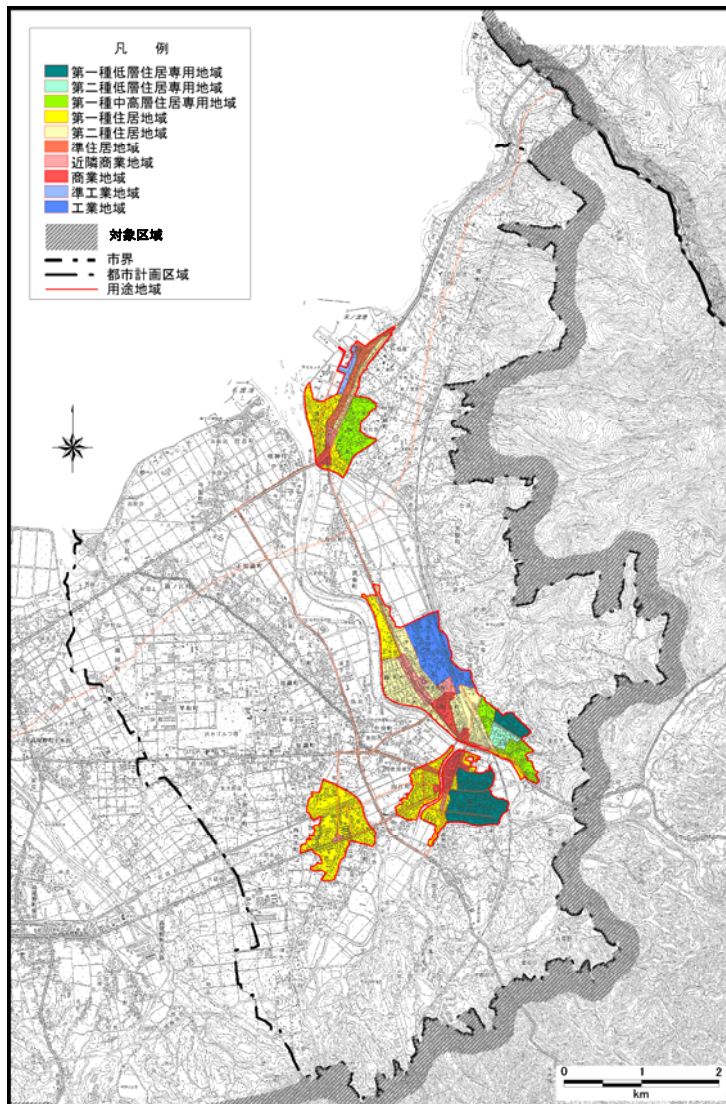
【表 都市計画区域、用途地域別人口の推移】

		用途地域	用途無指定地域	都市計画区域合計	都市計画区域外合計	行政区域合計
平成7年	面積(ha)	439.0 (-)	3,751.0 (-)	4,190.0 (-)	28,816.0 (-)	33,006.0 (-)
	人口(人)	11,886	24,182	36,068	22,587	58,655
	人口密度(人/ha)	27.1 (-)	6.4 (-)	8.6 (-)	0.8 (-)	1.8 (-)
平成12年	面積(ha)	439.0 (-)	3,751.0 (-)	4,190.0 (-)	28,816.0 (-)	33,006.0 (-)
	人口(人)	11,325	24,486	35,811	22,829	58,640
	人口密度(人/ha)	25.8 (-)	6.5 (-)	8.5 (-)	0.8 (-)	1.8 (-)
平成17年	面積(ha)	439.0 (284.2)	3,751.0 (3,215.2)	4,190.0 (3,499.4)	28,816.0 (-)	33,006.0 (-)
	人口(人)	11,166	23,991	35,157	22,750	57,907
	人口密度(人/ha)	25.4 (39.3)	6.4 (7.5)	8.4 (10.0)	0.8 (-)	1.8 (-)
平成22年	面積(ha)	439.0 (284.2)	3,751.0 (3,215.2)	4,190.0 (3,499.4)	28,816.0 (-)	33,006.0 (-)
	人口(人)	10,608	23,661	34,269	21,352	55,621
	人口密度(人/ha)	24.2 (37.3)	6.3 (7.4)	8.2 (9.8)	0.7 (-)	1.7 (-)

※ () 内は可住地面積によるもの。

出典：平成 21 年度都市計画基礎調査・国勢調査

【図 用途地域】



3-2市街地開発事業等

(1) 市街地開発事業

市街地開発事業は、これまで出水駅、米ノ津駅周辺の3つの地区で土地区画整理事業が行われており、施行面積は合計で61.6(ha)で用途地域面積の14.0%で実施されました。

【表 土地区画整理事業の状況】

地区名	施行者	都市計画決定 決定当初年月日 最終決定年月日	事業計画決定 決定当初年月日 最終決定年月日	施行年度	面積 (ha)	減歩率		換地処分 年月日
						公共(%)	合算(%)	
米ノ津地区	県	S30.12.24	S31.8.30	S31～S33	7.8	21.0	21.0	S33.9.1
沖田第一地区	市	S33.12.23	S35.3.2	S35～S41	14.3	13.9	18.8	S41.1.10
沖田第二地区	市	S33.12.23	S37.2.12	S37～S43	39.5	15.9	21.5	S43.7.19

出典：庁内資料

(2) 開発行為

平成20年までに68.8(ha)の開発行為が、用途地域の内外で行われています。

過去5年ごとの開発件数と事業面積合計をみると、昭和49年から昭和53年までは、1件で約0.3(ha)しかありませんでしたが、昭和54年以降は、5年当たり10(ha)前後の開発行為が行われています。

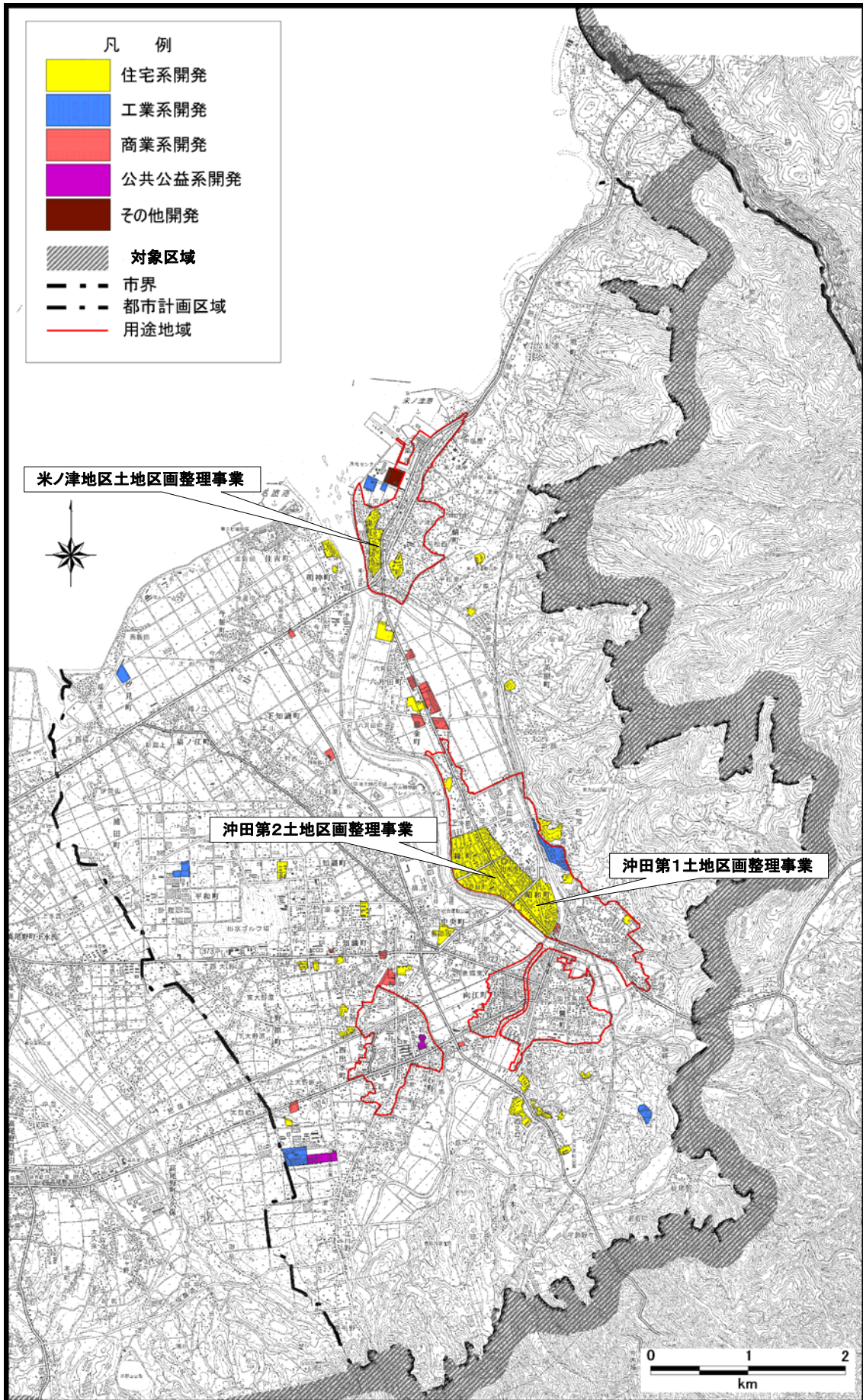
特に、昭和54年から昭和58年にかけては、12件で約12(ha)と最も多くの開発行為が行われました。

【表 開発行為の状況】

事業年	件数 (件)	事業面積合計 (㎡)	備考
不明	5	103,341.23	
昭和48年以前	2	16,222.45	
昭和49年～昭和53年	1	3,438.22	
昭和54年～昭和58年	12	122,659.45	内1件面積不明
昭和59年～昭和63年	6	84,887.45	
平成元年～平成5年	4	96,691.17	
平成6年～平成10年	8	82,051.33	
平成11年～平成15年	7	71,163.93	
平成16年～平成20年	10	107,863.34	
合計	55	688,318.57	

出典：平成21年度都市計画基礎調査

【図 開発行為の状況】



出典：平成 21 年度都市計画基礎調査

3-3 都市施設

(1) 都市計画道路

都市計画道路は 20 路線（自由通路含む。延長 49,400m）、駅前広場は 4 箇所が都市計画決定されています。このうち春日線、出水中央線などの路線の整備が完了し、改良済延長は 22,710m、改良率 46%となっています。駅前広場は、出水駅前広場など 3 箇所が整備済みです。

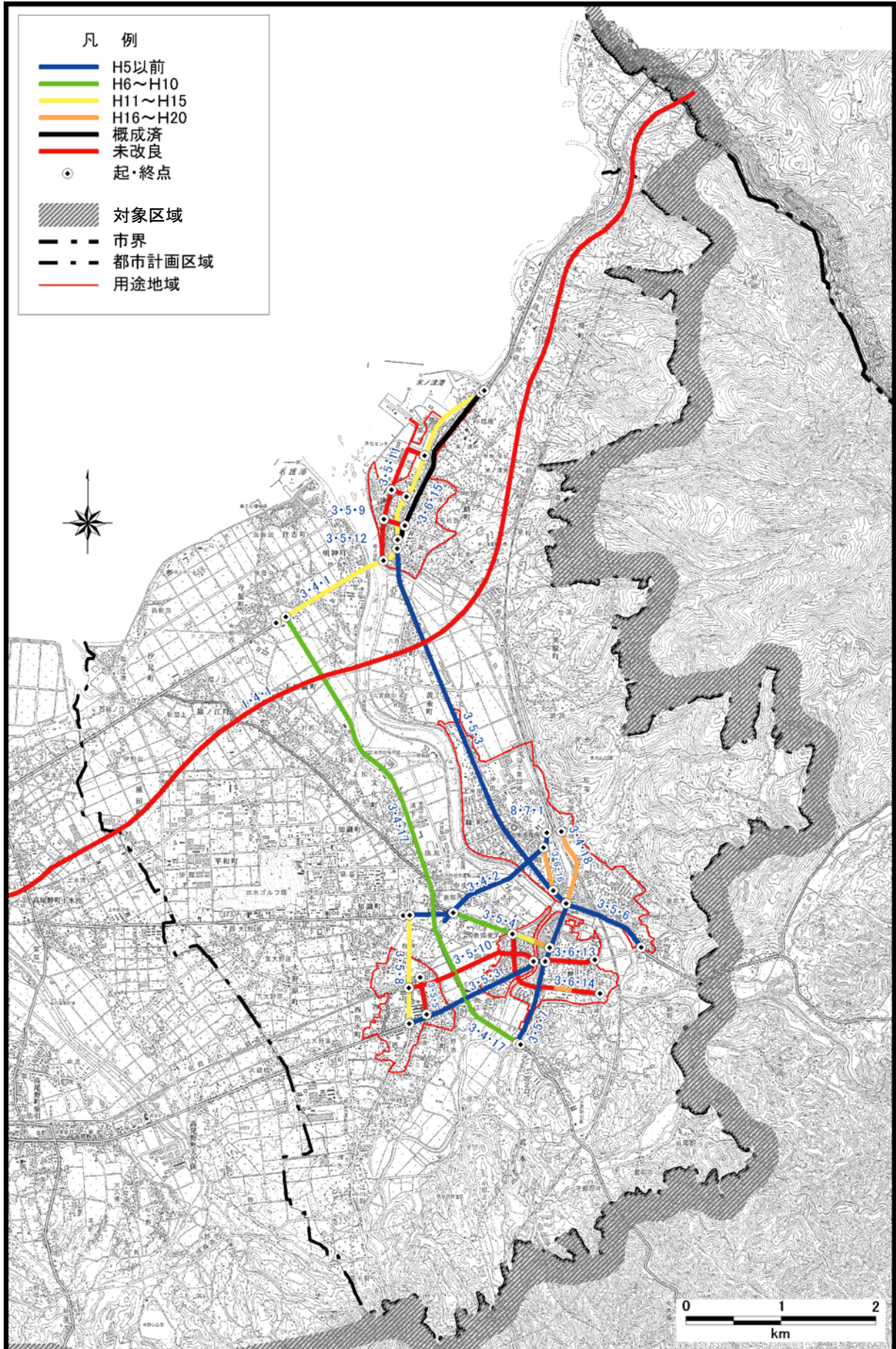
また、出水阿久根線（南九州西回り自動車道）は、平成 20 年度より国土交通省鹿児島国道事務所により整備が進められています。

【表 都市施設の整備状況（道路）】

区分	規模	番号	路線名称	施行者	都市計画決定			整備状況		道路名
					幅員 (m)	延長 (m)	当初決定 最終決定	改良 (m)	率 (%)	
1	4	1	出水阿久根線	鹿児島国道事務所	20.5	17,890	H17.12.9	0	—	国道3号
3	4	1	米ノ津中央線	鹿児島国道事務所	18	3,620	S31.2.16 S62.2.4	3,620	100	国道3号
3	4	2	春日線（県）	鹿児島県	18	1,780	S29.5.8 S62.12.14 H11.12.14	1,880	100	県道沖田新蔵線 県道荘上鯖淵線 県道出水停車場線
3	5	3	米ノ津阿久根線（県）	鹿児島県	15	6,320	S29.5.8 S55.7.4	6,320	100	県道荘上鯖淵線 県道出水高尾野線 国道447号
3	5	4	仲町上知識線（県）	鹿児島県	15	1,040	S29.5.8 S55.7.4	1,040	100	県道荘上鯖淵線
3	5	5	西出水停車場線（市）	鹿児島県	15	410	S29.5.8	0	—	市道西町東線
3	5	6	広瀬やな線（県）	鹿児島県	12 ~15	975	S29.5.8 S45.7.22	975	100	国道447号
3	5	7	仲町花見ヶ城線（市）	鹿児島県	12	890	S29.5.8 S62.2.4	890	100	市道西ノ口上町線
3	5	8	花立八幡線（市）	出水市	15	1,140	S29.5.8 S47.9.6	1,140	100	市道八幡花立線
3	5	9	駅前線（市）	—	15	160	S31.2.16 S40.6.18	0	—	
3	5	10	西町線（市）	—	12	1,370	S29.5.8	0	—	市道平良町西町線
3	5	11	臨海線（市）	—	12	1,400	S31.2.16 S40.6.18	0	—	
3	5	12	平松線（市）	—	12	210	S31.2.16	0	—	
3	6	13	仲町やな線（市）	—	10	540	S29.5.8	0	—	市道麓井上線
3	6	14	古市山崎線（市）	—	10	1,350	S29.5.8	200	15	一部 市道上町銅野線
3	6	15	本通線（市）	—	8	1,780	S31.2.16 S40.6.18	0	—	市道米ノ津停車場線
3	6	16	旭町線（市）	出水市	8	445	S29.5.8 S46.9.6	445	100	市道出水停車場線
3	4	17	出水中央線（県）	鹿児島県	20	5,310	S62.2.4	5,310	100	国道328号
3	4	18	出水駅東口広瀬線（市）	出水市	17	810	36,942	810	100	市道広瀬松尾線 市道出水駅東線
8	7	1	出水駅東西自由通路（市）	出水市	4	80	H13.2.20	80	100	市道出水駅東西線
合計						49,400		22,710	46	

出典：庁内資料

【図 都市施設の整備状況（道路）】



出典：平成 21 年度都市計画基礎調査

(2) 公園・緑地

都市公園は、27箇所の全てが整備済みで、面積は40.75(ha)です。都市公園は、用途地域内やその周辺で整備されており、これらのうち10箇所が都市計画決定されています。

都市計画区域内における平成22年の人口(34,269人)当たりの公園面積は、都市公園で11.9(m²)、都市公園以外を含めて13.1(m²)となっています。

また、都市計画区域外には、主として農村公園が整備され、人口(21,352人)当たり公園面積は、7.3(m²)であり、市全体の人口(55,621人)当たり公園面積は10.9m²となっています。

【表 都市施設の整備状況(都市公園)】

区分	規模	番号	公園名	施行者	種別	都市計画決定		開設面積	
						決定年月日 告示年月日	面積(ha)	開設年月日	面積(ha)
2	2	1	青木公園	出水市	住基(街)	S39.2.24	0.67	S40.3.31	0.67
2	2	2	築港公園	出水市	住基(街)	S40.2.18	0.19	S42.1.24	0.10
2	2	3	昭和公園	出水市	住基(街)	S40.2.18	0.30	S42.2.9	0.30
2	2	4	朝日公園	出水市	住基(街)	S41.12.28	0.12	S43.3.7	0.12
2	2	5	緑公園	出水市	住基(街)	S41.12.28	0.17	S43.10.28	0.17
2	2	6	春日公園	出水市	住基(街)	S41.12.28	0.15	S46.4.1	0.15
2	2	7	沖田公園	出水市	住基(街)	S41.12.28	0.26	S43.3.7	0.26
2	2	8	米ノ津公園	出水市	住基(街)	S49.7.6 S57.3.10	0.61	S51.9.27	0.61
6	5	1	出水市総合運動公園	出水市	都基(運)	S41.2.25 S57.3.8 H4.4.8 H19.11.9	17.20	S44.4.1	17.20
墓		1	城山墓地公園	出水市	特殊(墓)	S28.1.22	2.80	S38.11.30	2.30
			東町公園	—	住基(街)			S37.8.31	0.04
			名護公園	—	住基(街)			S41.3.24	0.61
			イゲノ木公園	—	住基(街)			S42.2.17	0.08
			豎馬場公園	—	住基(街)			S42.4.6	0.22
			特攻碑公園	—	住基(街)			S43.3.11	0.23
			加紫久利公園	—	住基(街)			S45.4.1	0.68
			本町公園	—	住基(街)			S55.4.1	0.20
			海洋公園	—	住基(街)			H3.2.14	0.83
			明神公園	—	住基(街)			H13.3.31	0.40
			東光山公園	—	住基(近)			S62.10.1	3.68
			クレインパークいずみ	—	特殊(風)			H7.4.28	4.34
			西出水運動公園	—	住基(地)			H1.3.24 H7.3.30	1.39
			米ノ津運動公園	—	住基(地)			H8.3.31 H14.3.22	2.20 2.28
			出水運動公園	—	住基(地)			H12.1.23	2.81
			住吉運動公園	—	住基(街)			H16.12.14	0.33
			上畑公園	—	住基(街)			H17.11.30	0.05
			西町ふれいあい公園	—	住基(街)			H18.12.1	0.11

住基・・・住区基幹公園 (運)・・・運動公園
 (街)・・・街区公園 (風)・・・風致公園
 (近)・・・近隣公園 (墓)・・・墓地公園
 (地)・・・地区公園

出典：庁内資料

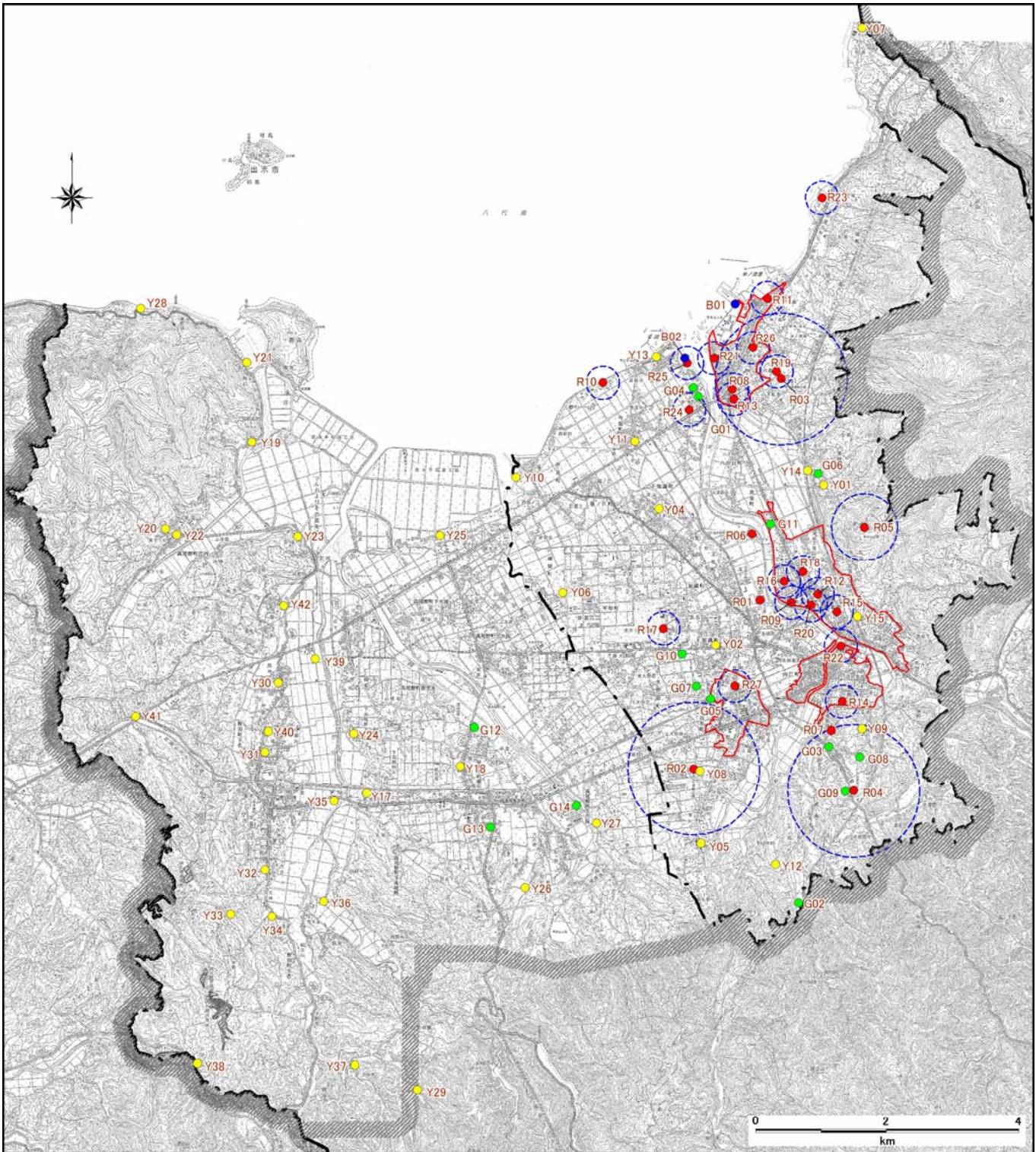
【表 公園一覧（上記都市公園を含む）】

図面対 照番号	公園名	分類	公園面積 (㎡)	都市計画区域 (内・外)
R01	出水市総合運動公園	運動公園	176,715	内
R02	西出水運動公園	地区公園	13,872	内
R03	米ノ津運動公園	地区公園	22,769	内
R04	出水運動公園	地区公園	28,067	内
R05	東光山公園	近隣公園	36,803	内
R06	クレインパークいずみ	風致公園	43,439	内
R07	城山墓地公園	墓地公園	23,000	内
R08	東町公園	街区公園	400	内
R09	青木公園	街区公園	6,700	内
R10	名護公園	街区公園	6,100	内
R11	築港公園	街区公園	962	内
R12	昭和公園	街区公園	3,000	内
R13	イゲノ木公園	街区公園	800	内
R14	堅馬場公園	街区公園	2,200	内
R15	朝日公園	街区公園	1,200	内
R16	沖田公園	街区公園	2,600	内
R17	特攻碑公園	街区公園	3,586	内
R18	緑公園	街区公園	1,700	内
R19	加紫久利公園	街区公園	6,800	内
R20	春日公園	街区公園	1,500	内
R21	米ノ津公園	街区公園	6,100	内
R22	本町公園	街区公園	1,982	内
R23	海洋公園	街区公園	8,291	内
R24	明神公園	街区公園	4,038	内
R25	住吉運動公園	街区公園	3,343	内
R26	上畑公園	街区公園	453	内
R27	西町ふれあい公園	街区公園	1,112	内
都市公園合計			407,532	
			都市計画区域	407,532
G01	早馬住宅公園	一般公園	104	内
G02	みそなめでの碑	一般公園	885	内
G03	城山南公園	一般公園	507	内
G04	明神団地公園	一般公園	697	内
G05	西出水住宅公園	一般公園	347	内
G06	朝熊ニュータウン公園	一般公園	238	内
G07	桜町ニュータウン公園	一般公園	243	内
G08	小松ニュータウン公園	一般公園	357	内
G09	星が丘公園	一般公園	727	内
G10	千本付団地公園	一般公園	160	内
G11	沖田ニュータウン公園	一般公園	240	内
G12	高尾野麓コミュニティー運動公園	一般公園	4,130	外
G13	中部地区運動公園	一般公園	2,360	外
G14	高尾野ふれあい公園	一般公園	4,270	外
一般公園合計			15,265	
			都市計画区域	4,505
B01	みなと公園	その他公園	9,987	外
B02	名古屋児童遊園	その他公園	1,115	内
その他公園合計			11,102	
			都市計画区域	1,115

図面對照番号	公園名	分類	公園面積 (㎡)	都市計画区域 (内・外)
Y01	朝熊農村公園	農村公園	2,391	内
Y02	八幡農村公園	農村公園	3,591	内
Y03	日当農村公園	農村公園	805	外
Y04	津山農村公園	農村公園	2,198	内
Y05	江川野農村公園	農村公園	1,105	内
Y06	掛腰農村公園	農村公園	1,128	内
Y07	切通農村公園	農村公園	1,100	外
Y08	上中農村公園	農村公園	974	内
Y09	城山東農村公園	農村公園	3,587	内
Y10	福ノ江農村公園	農村公園	8,186	内
Y11	今釜農村公園	農村公園	904	内
Y12	小原農村公園	農村公園	3,664	内
Y13	名古屋農村公園	農村公園	815	内
Y14	安原農村公園	農村公園	3,382	内
Y15	太田農村公園	農村公園	4,327	内
Y16	高川ダム周辺公園	農村公園	4,695	外
Y17	西部地区農村公園	農村公園	20,001	外
Y18	高尾野麓地区農村公園	農村公園	1,171	外
Y19	平坊地区農村公園	農村公園	3,500	外
Y20	小山川丘公園	農村公園	6,239	外
Y21	野口公園	農村公園	787	外
Y22	江内中央公園	農村公園	1,015	外
Y23	荒崎展望公園	農村公園	8,781	外
Y24	下高尾野湧水公園	農村公園	3,551	外
Y25	下山木漏れ日公園	農村公園	30,678	外
Y26	本町ため池公園	農村公園	14,016	外
Y27	御岳溜池公園	農村公園	5,064	外
Y28	若宮公園	農村公園	829	外
Y29	嶽ダム公園	農村公園	3,695	外
Y30	屋地農村公園	農村公園	1,322	外
Y31	本町八幡農村公園	農村公園	1,350	外
Y32	熊陳農村公園	農村公園	1,201	外
Y33	大丸農村公園	農村公園	1,201	外
Y34	田の神広場	農村公園	267	外
Y35	竹添農村公園	農村公園	789	外
Y36	青木農村公園	農村公園	736	外
Y37	上特手農村公園	農村公園	1,207	外
Y38	川平農村公園	農村公園	17,532	外
Y39	鏡淵農村公園	農村公園	636	外
Y40	中郡農村公園	農村公園	998	外
Y41	餅井農村公園	農村公園	1,047	外
Y42	旭農村公園	農村公園	1,093	外
農村公園合計			171,558	
			都市計画区域	36,252

	合計面積 (㎡)	人口1人当り 公園面積(㎡)
都市計画区域の公園	449,404	13.1
内都市公園	407,532	11.9
都市計画区域外の公園	156,053	7.3
出水市の公園面積合計	605,457	10.9

出典：庁内資料



【図 都市施設の整備状況(公園)】

- 都市公園
- 一般公園
- 農村公園
- その他公園

- 誘致圏
- 街区公園:半径250m
- 近隣公園:半径500m
- 地区公園:半径1,000m

* 誘致圏…公園の種別毎に定めた概ねの利用範囲

- ▨ 対象区域
- - - 市町村界
- 都市計画区域
- 用途地域

出典：庁内資料

(3) 下水道等

下水道等は、公共下水道（出水処理区）、特定環境保全公共下水道（高尾野処理区）のほか江内中央、野田中央、青木、上特手及び餅井地区では農業集落排水事業による下水処理が行われています。

公共下水道は、全体計画面積 1,052 (ha) のうち 986.3 (ha : 93.8%) が整備済みであり、特定環境保全公共下水道については 441 (ha) のうち 408.0 (ha : 92.5%) が整備済みとなっています（いずれも認可区域による割合）。

農業集落排水事業については整備が完了しており、農業用排水の水質保全やトイレの水洗化などの生活環境の改善を図っています。

これら以外の区域では、生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止し、環境保全を図るため、合併処理浄化槽の設置による汚水処理を行っています。

【表 都市施設の整備状況（公共下水道）】

平成 24 年 3 月 31 日現在

行政区域		全体計画		都市計画決定				
面積 (ha)	人口 (人)	面積 (ha)	人口 (人)	当初決定 最終決定	面積 (ha)	人口 (人)	処理水量 m ³ /日	1人一日 最大汚染量 (ℓ)
22,863	37,571	1,052	25,000	S55.2.9 H20.7.14	1,052	31,500	21,000	590
事業認可								
下水道法 都市計画法	面積 (ha)	人口 (人)	処理水量 m ³ /日	事業費 (百万円)	着工年度	処理開始		
H21.12.7 H22.1.19	1,052	24,660	18,375	32,884 (認可)31,027	S54~H27	S62.3.31		
整備状況								
(整備面積) 処理面積 (ha)	処理人口 (人)	水洗化人口 (人)	普及率 (%)	水洗化率 (%)	整備率 (%)			
(986.3) 986.3	23,698	21,174	63.1	89.3	93.8			

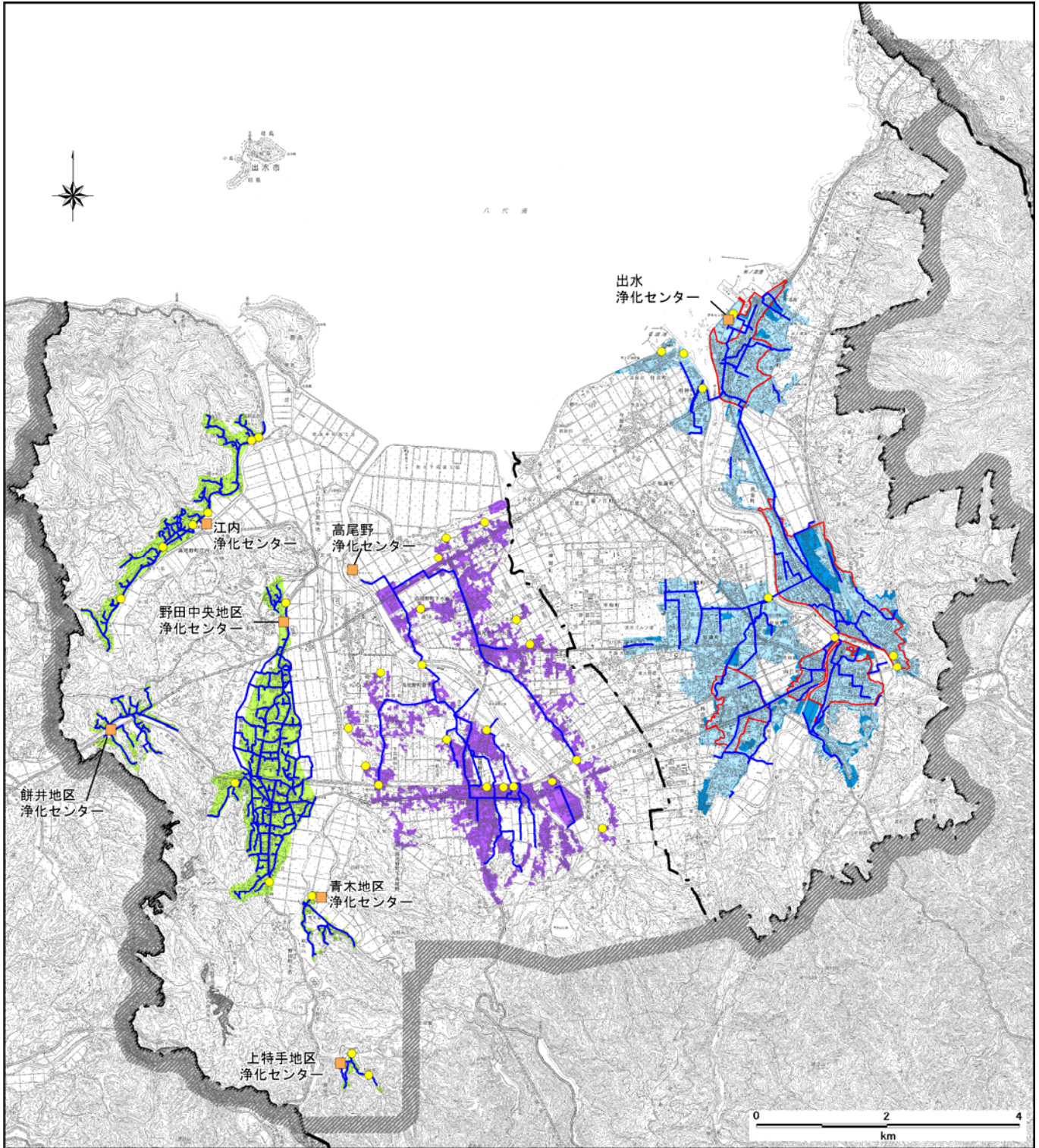
出典：庁内資料

【表 都市施設の整備状況（特定環境保全公共下水道）】

平成 24 年 3 月 31 日現在

区分	処理区名	供用開始年月日	全体計画面積 (ha)	事業認可区域 (ha)	整備面積 (ha)	整備率 (%)
特定環境保全 公共下水道	高尾野	H12.3.31	441.0	441.0	408.0	92.5

出典：庁内資料



【図 都市施設の整備状況（公共下水道等）】

- 幹線
- 処理場
- ポンプ施設
- 公共下水道(供用開始区域)
- 公共下水道(未供用区域)
- 特定環境保全公共下水道区域
- 農業集落排水区域
- ※上記以外(白地)は合併浄化槽区域
- ▨ 対象区域
- - - 市町村界
- - - 都市計画区域
- 用途地域

出典：平成 21 年度都市計画基礎調査

4 土地利用状況の分析

4-1 人口

(1) 区域別人口・人口密度の推移

平成7年から平成22年にかけての区域別人口の構成比の推移を以下に示します。

用途地域内人口は、平成7年以降減少し、平成22年には10,608人となっています。一方、用途無指定地域人口は、平成12年に一時増加したものの、平成17年以降減少に転じ、平成22年には23,661人となっています。

人口密度は、平成22年に用途地域内で24.2(人/ha)、用途無指定地域で6.3(人/ha)です。

都市計画区域内の用途地域内人口の割合は、33.0%(H7)から31.0%(H22)に減少し、用途無指定地域人口は67.0%(H7)から69.0%(H22)に増加しています。

また、都市計画区域外の人口密度は、0.7(人/ha)と区域内と比べ少なくなっています。

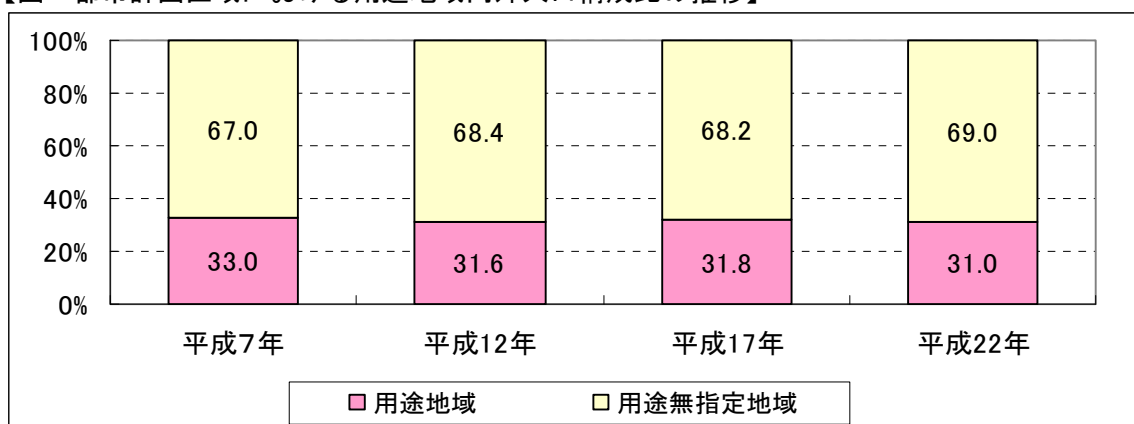
【表 都市計画区域、用途地域別人口密度の推移】

		用途地域	用途無指定地域	都市計画区域合計	都市計画区域外合計	行政区域合計
平成7年	面積(ha)	439.0 ()	3,751.0 ()	4,190.0 ()	28,816.0 ()	33,006.0 ()
	人口(人)	11,886	24,182	36,068	22,587	58,655
	人口密度(人/ha)	27.1 ()	6.4 ()	8.6 ()	0.8 ()	1.8 ()
平成12年	面積(ha)	439.0 ()	3,751.0 ()	4,190.0 ()	28,816.0 ()	33,006.0 ()
	人口(人)	11,325	24,486	35,811	22,829	58,640
	人口密度(人/ha)	25.8 ()	6.5 ()	8.5 ()	0.8 ()	1.8 ()
平成17年	面積(ha)	439.0 (284.2)	3,751.0 (3,215.2)	4,190.0 (3,499.4)	28,816.0 ()	33,006.0 ()
	人口(人)	11,166	23,991	35,157	22,750	57,907
	人口密度(人/ha)	25.4 (39.3)	6.4 (7.5)	8.4 (10.0)	0.8 ()	1.8 ()
平成22年	面積(ha)	439.0 (284.2)	3,751.0 (3,215.2)	4,190.0 (3,499.4)	28,816.0 ()	33,006.0 ()
	人口(人)	10,608	23,661	34,269	21,352	55,621
	人口密度(人/ha)	24.2 (37.3)	6.3 (7.4)	8.2 (9.8)	0.7 ()	1.7 ()

※ () 内は可住地面積によるもの。

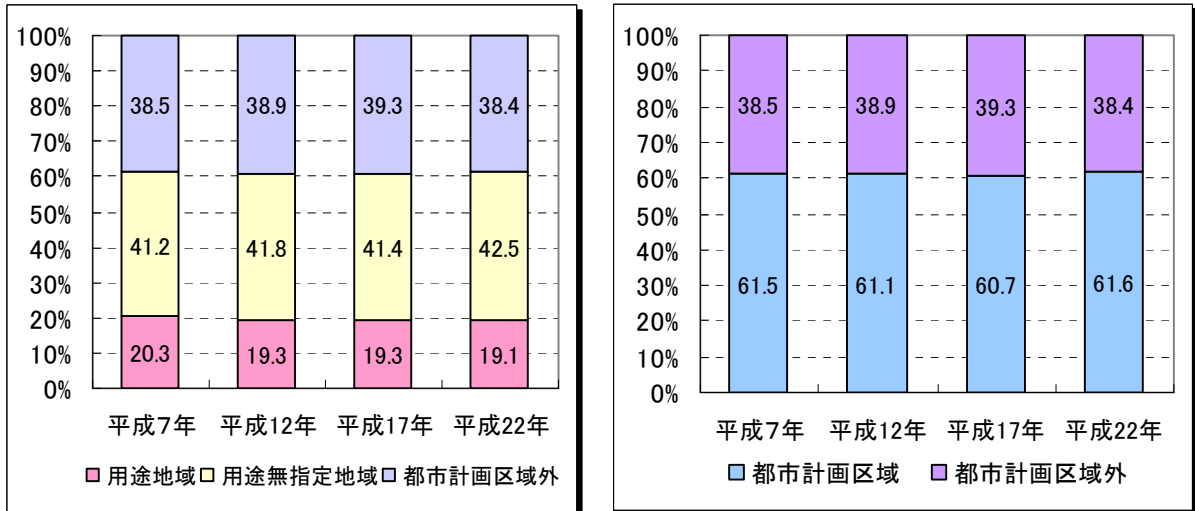
出典：平成21年度都市計画基礎調査・国勢調査

【図 都市計画区域における用途地域内外人口構成比の推移】



出典：平成21年度都市計画基礎調査・国勢調査

【図 行政区域に対する区域別の人口構成比の推移】



出典：国勢調査

(2) 人口密度

①地区別可住地人口密度

地区別可住地人口密度は、出水駅、米ノ津駅、西出水駅周辺及び本町商店街周辺などの用途地域やその周辺部で、40（人/ha）と比較的高くなっています。

また、上知識町、麓町、住吉町、明神町、上鯖淵の一部及び高尾野駅周辺では人口密度が20（人/ha）以上、高尾野市街地から野田市街地間の国道504号沿道などでは、10（人/ha）以上となっています。

その他は、概ね10（人/ha）未満の低密度な地区が多くなっています。

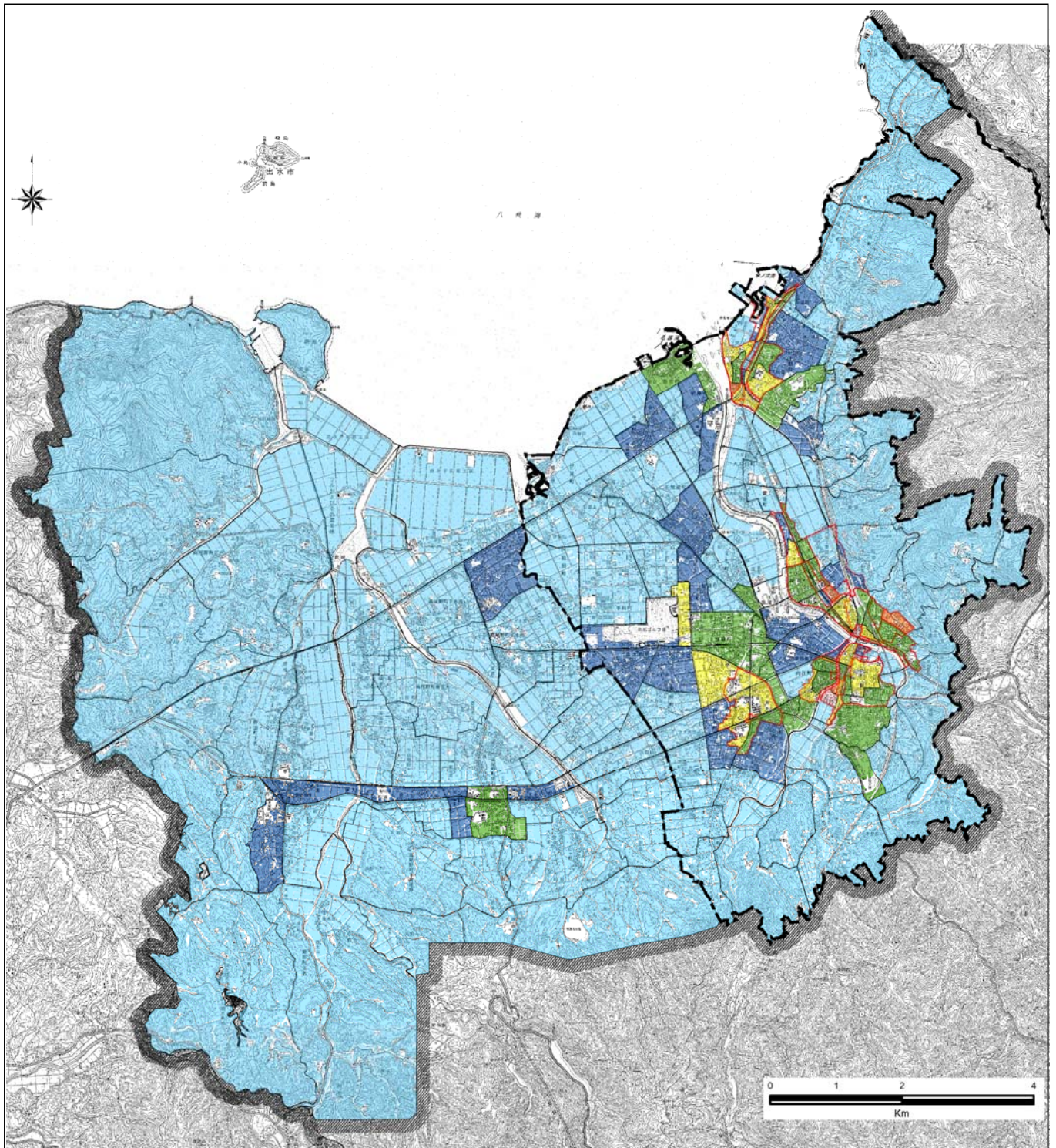
人口密度の増減をみると、用途地域のほかに平成12年から平成17年にかけては、上知識町や西出水町の用途無指定地域及び都市計画区域外の高尾野町柴引（大和地区）、高尾野町大久保（上り立地区）、高尾野町上水流（上水流地区）などで、2（人/ha）以上の人口密度の増加が見られます。

平成17年から平成22年にかけては、中央町や向江町の用途無指定地域及び都市計画区域外の高尾野町柴引（柴引地区）などで、2（人/ha）以上の人口密度の増加が見られます。

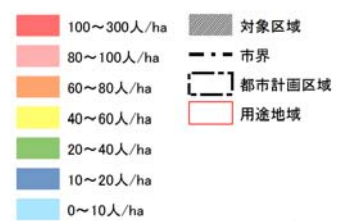
このように、近年、人口密度が増加した地区は、出水駅、米ノ津駅及び西出水駅周辺の用途地域だけでなく、県道荘上鯖淵線、県道出水高尾野線及び国道504号沿道などの用途無指定地域や都市計画区域外にも見受けられます。

②地区別宅地等人口密度

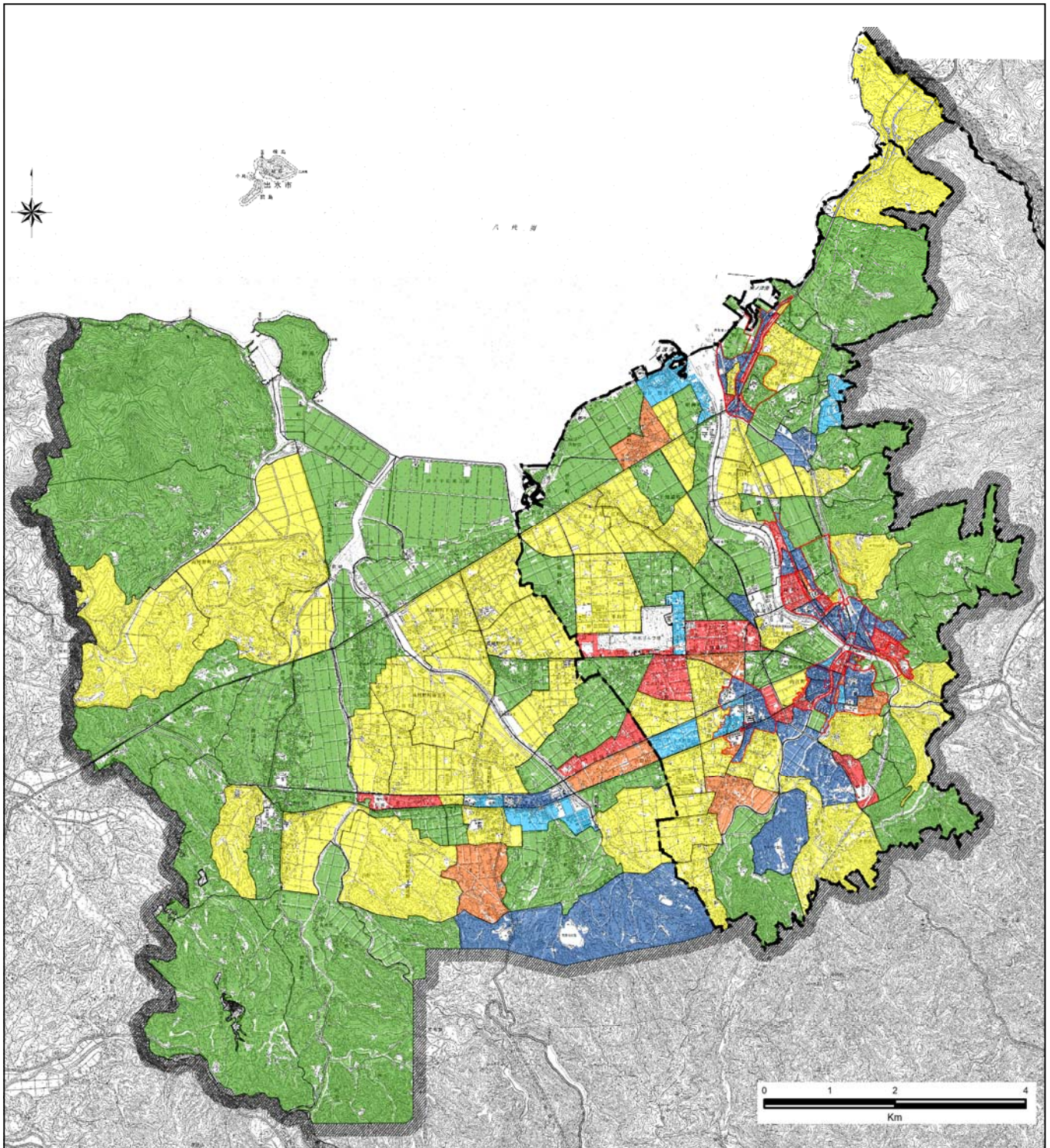
地区別宅地等人口密度は、地区別人口密度とほぼ同様ですが、西出水町、向江町の用途無指定地域や美原町、明神町の一部で、60～80（人/ha）と比較的高い値を示す地区が見受けられます。



【図 地区別可住地人口密度（平成 22 年）】



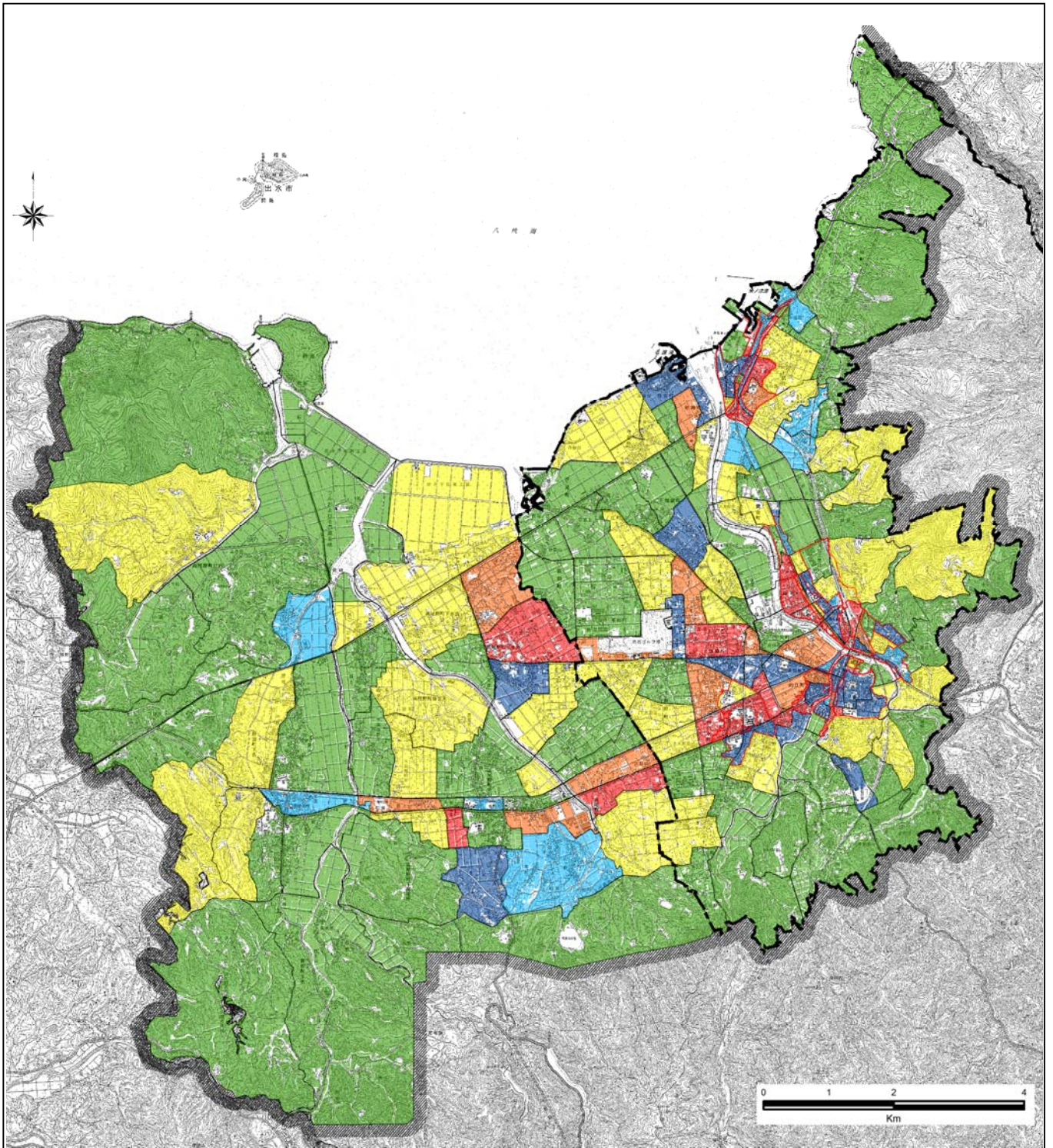
出典：平成 22 年国勢調査



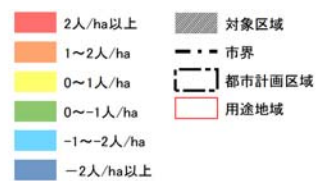
【図 地区別可住地人口密度増減（平成 7～12 年）】



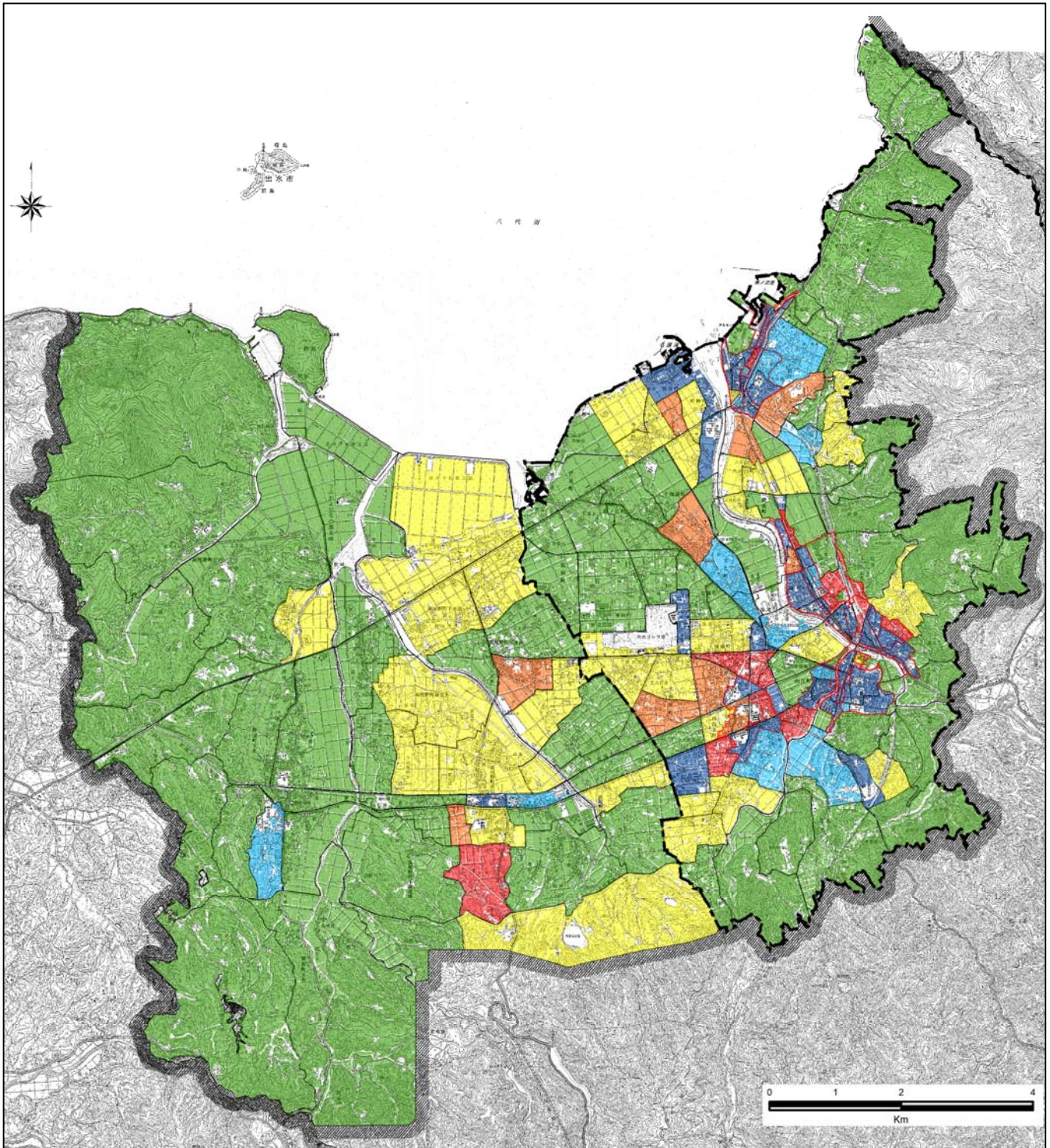
出典：平成 21 年度都市計画基礎調査



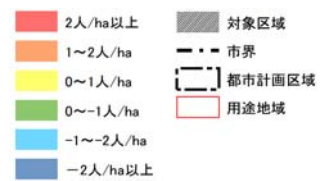
【図 地区別可住地人口密度増減（平成 12～17 年）】



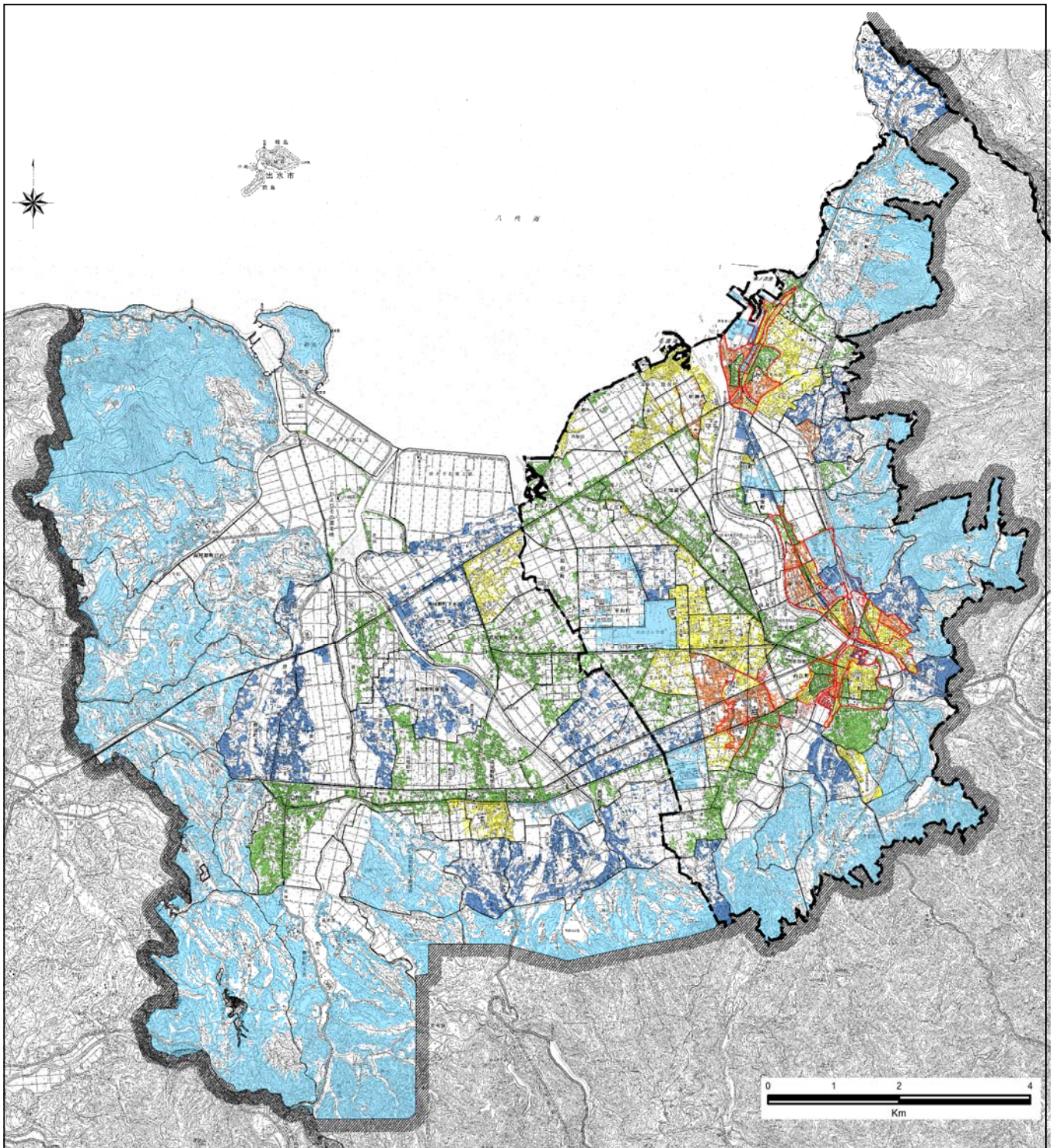
出典：平成 21 年度都市計画基礎調査



【図 地区別可住地人口密度増減（平成 17～22 年）】

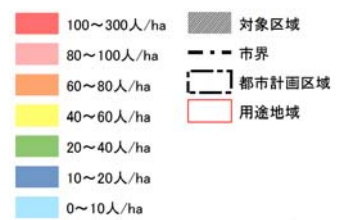


出典：平成 21 年度都市計画基礎調査・平成 22 年国勢調査



【図 地区別宅地等人口密度（平成 22 年）】

※宅地及び山林面積による



出典：平成 22 年国勢調査

4-2 土地利用状況

都市的土地利用の割合は、対象区域全体で 23.4%、用途地域で 83.6%、都市計画区域全体で 33.3%となっています。

宅地の割合は、対象区域全体で 12.6%、用途地域で 49.5%、都市計画区域全体で 17.8%となっています。

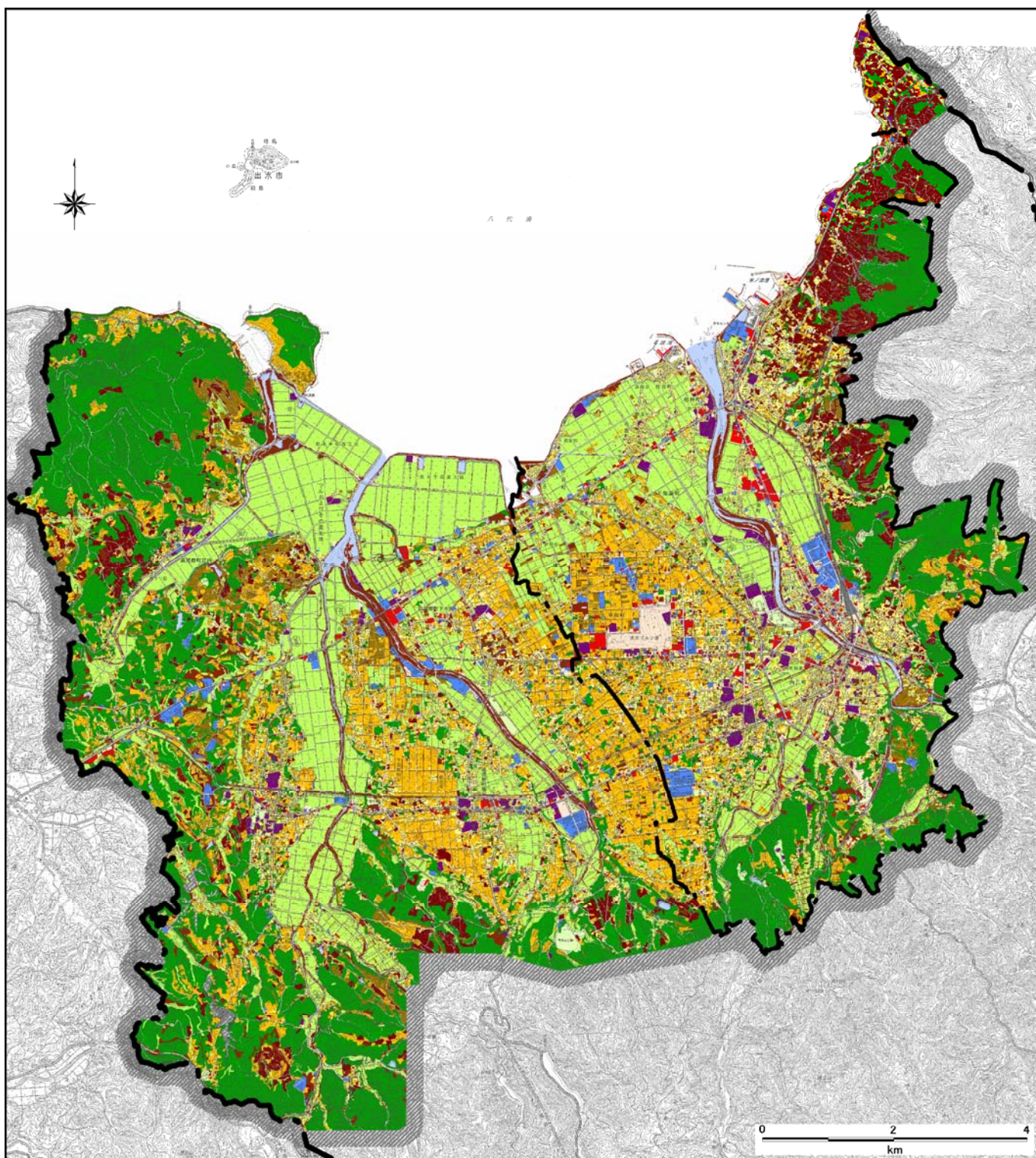
土地利用の現況は、出水駅、米ノ津駅、西出水駅、高尾野駅、野田郷駅周辺及び本町商店街周辺に市街地が形成されています。

また、米之津川、高尾野川及び野田川などの河川沿いは、水田として利用されており、その間に畑や住宅地が広がっています。

【表 土地利用別面積】

	自然的土地利用(ha)					都市的土地利用(ha)					合計	
	農地	山林	水面	その他の 自然地		宅地	公共・公益 施設用地	道路 用地	交通施設 用地	その他		
用途地域	39.6	9.4	3.2	19.7	71.9	217.2	38.8	65.7	13.8	31.6	367.1	439.0
	9.0%	2.1%	0.7%	4.5%	16.4%	49.5%	8.8%	15.0%	3.1%	7.2%	83.6%	100.0%
用途無指定地域	1,534.2	783.8	99.0	304.5	2,721.5	528.9	91.0	261.4	14.9	133.3	1,029.5	3,751.0
	40.9%	20.9%	2.6%	8.1%	72.6%	14.1%	2.4%	7.0%	0.4%	3.6%	27.4%	100.0%
都市計画区域 合計	1,573.8	793.2	102.2	324.2	2,793.4	746.1	129.8	327.1	28.7	164.9	1,396.6	4,190.0
	37.6%	18.9%	2.4%	7.7%	66.7%	17.8%	3.1%	7.8%	0.7%	3.9%	33.3%	100.0%
旧出水市 対象区域	2,129.7	943.5	164.0	405.9	3,643.1	892.7	149.5	395.1	31.5	140.4	1,609.2	5,252.4
	40.5%	18.0%	3.1%	7.7%	69.4%	17.0%	2.8%	7.5%	0.6%	2.7%	30.6%	100.0%
旧高尾野町 対象区域	1,912.9	1,172.8	55.2	247.2	3,388.1	410.5	56.0	277.4	3.0	53.3	800.2	4,188.3
	45.7%	28.0%	1.3%	5.9%	80.9%	9.8%	1.3%	6.6%	0.1%	1.3%	19.1%	100.0%
旧野田町 対象区域	906.3	888.5	24.8	143.3	1,962.9	174.0	25.4	122.3	3.0	10.1	334.8	2,297.7
	39.4%	38.7%	1.1%	6.2%	85.4%	7.6%	1.1%	5.3%	0.1%	0.4%	14.6%	100.0%
対象区域 合計	4,948.9	3,004.8	244.0	796.4	8,994.1	1,477.2	230.9	794.8	37.5	203.8	2,744.2	11,738.4
	42.2%	25.6%	2.1%	6.8%	76.6%	12.6%	2.0%	6.8%	0.3%	1.7%	23.4%	100.0%

出典：平成 21 年度都市計画基礎調査



【図 土地利用現況】

- | | | |
|--|---|---|
| 田 | 公共公益施設用地 | 対象区域 |
| 畑 | 道路用地 | 市界 |
| 山林 | 交通施設用地 | 都市計画区域 |
| 水面 | 公共空地 | |
| その他の自然地 | その他の公共施設用地 | |
| 住宅用地 | その他の空地 | |
| 併用住宅用地 | | |
| 商業用地 | | |
| 工業用地 | | |

出典：平成 21 年度都市計画基礎調査

4-3 市街化動向

(1) 法規制区分別農地転用状況

農地転用は、平成16年度から20年度まで年当たり60～75件、面積は7～11(ha)程度となっています。農地転用が行われた場所は、対象区域の山麓部、水田地帯を除き、平野部に広く分布しています。

【表 農地転用状況の推移】

	平成16年度			平成17年度			平成18年度		
	件数 (件)	面積 (㎡)	(%)	件数 (件)	面積 (㎡)	(%)	件数 (件)	面積 (㎡)	(%)
用途地域	4	2,484	2.7%	4	2,997	2.7%	3	7,517	10.6%
用途無指定地域	28	54,513	58.2%	41	74,600	67.1%	25	29,281	41.4%
都市計画区域	32	56,997	60.9%	45	77,597	69.8%	28	36,798	52.0%
都市計画区域外小計	0	0	0.0%	0	0	0.0%	1	504	0.7%
出水調査区域合計	32	56,997	60.9%	45	77,597	69.8%	29	37,302	52.7%
高尾野調査区域合計	19	25,544	27.3%	18	16,360	14.7%	25	25,797	36.5%
野田調査区域合計	9	11,073	11.8%	12	17,184	15.5%	8	7,661	10.8%
調査対象地域計	60	93,614	100.0%	75	111,141	100.0%	62	70,760	100.0%

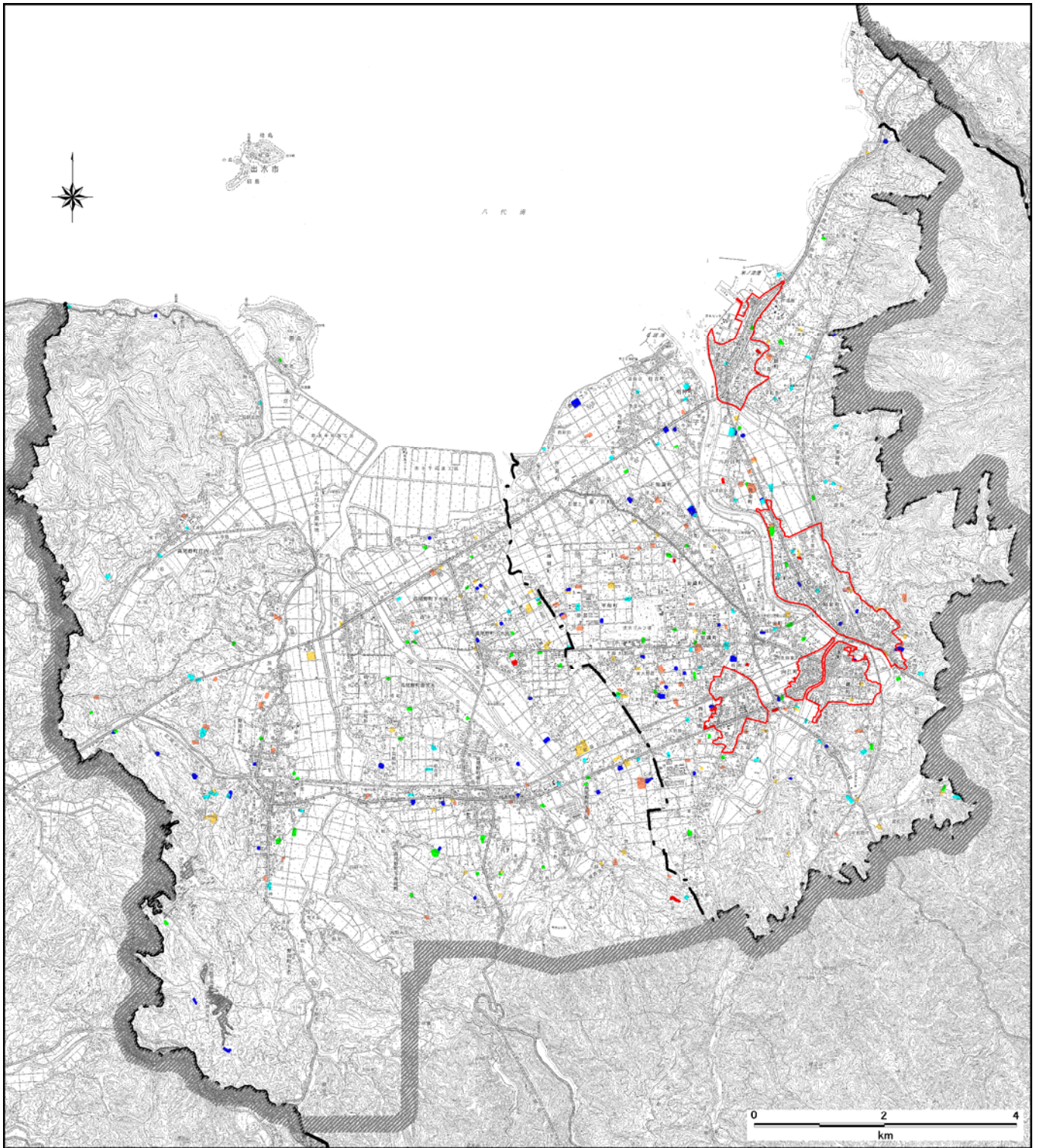
	平成19年度			平成20年度		
	件数 (件)	面積 (㎡)	(%)	件数 (件)	面積 (㎡)	(%)
用途地域	5	5,501	6.6%	4	2,531	2.3%
用途無指定地域	32	34,377	41.1%	39	67,164	60.6%
都市計画区域	37	39,878	47.7%	43	69,695	62.8%
都市計画区域外小計	1	753	0.9%	1	997	0.9%
出水調査区域合計	38	40,631	48.6%	44	70,692	63.7%
高尾野調査区域合計	26	25,902	31.0%	13	27,232	24.6%
野田調査区域合計	7	17,055	20.4%	10	12,975	11.7%
調査対象地域計	71	83,588	100.0%	67	110,899	100.0%

資料：平成21年度都市計画基礎調査

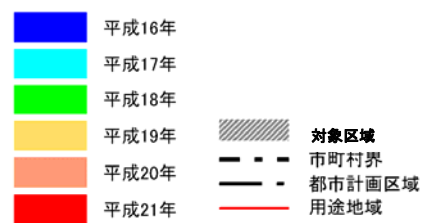
(2) 地区別農地転用密度

平成16年度から20年度における地区別農地転用密度では、都市計画区域の用途無指定地域や高尾野町大久保などで、その割合が2%以上の農地転用が行われています。

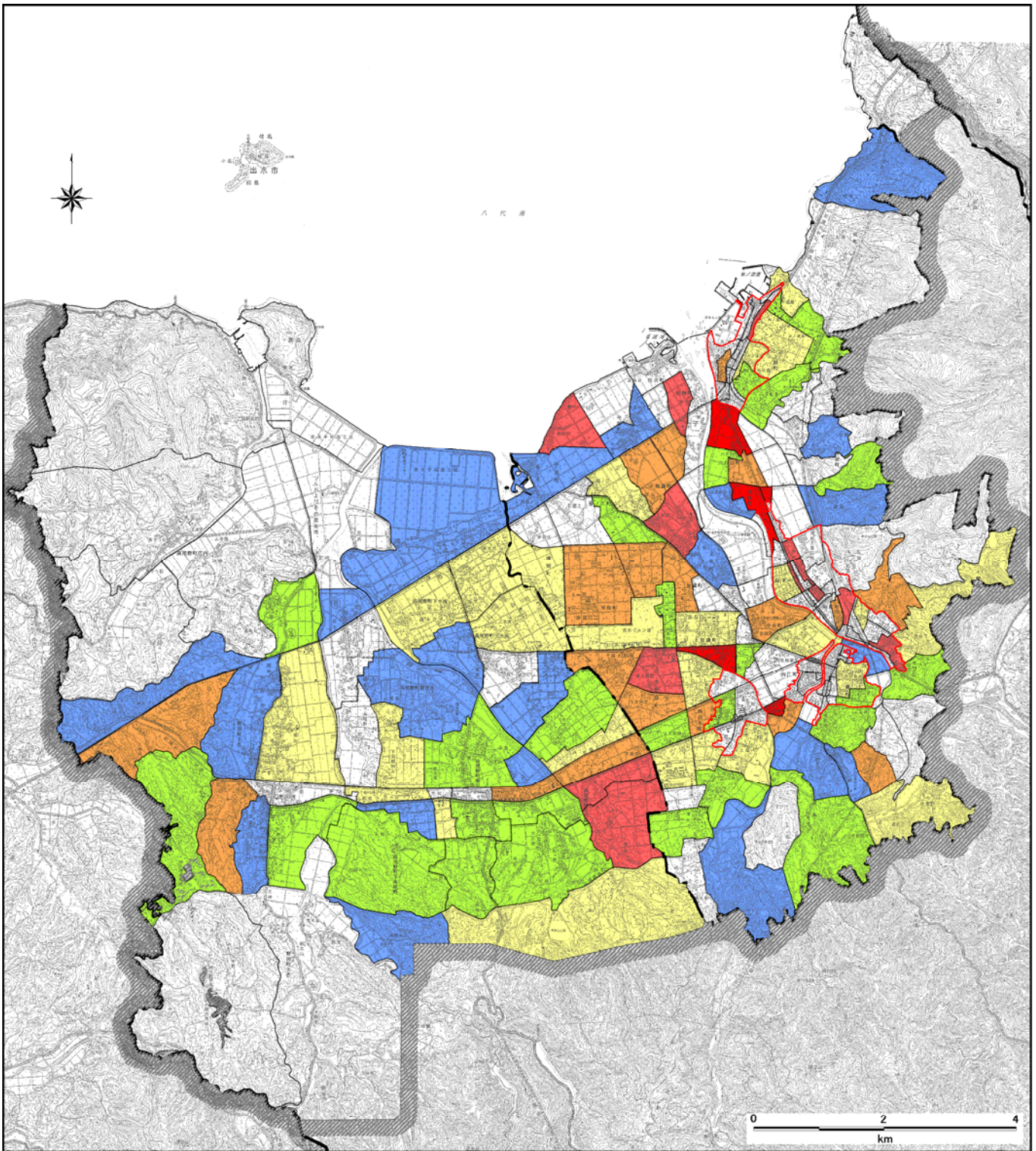
特に、国道447号沿道（六月田町、黄金町）の商業施設や県道荘上鯖淵線沿道（上知識町、大野原町）の住宅の建設に伴い、農地転用密度割合が5%以上と高くなっています。



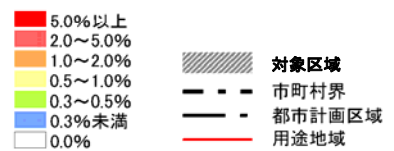
【図 農地転用位置】



出典：平成 21 年度都市計画基礎調査



【図 地区別農地転用密度】



出典：平成 21 年度都市計画基礎調査

4-4 建築物の状況

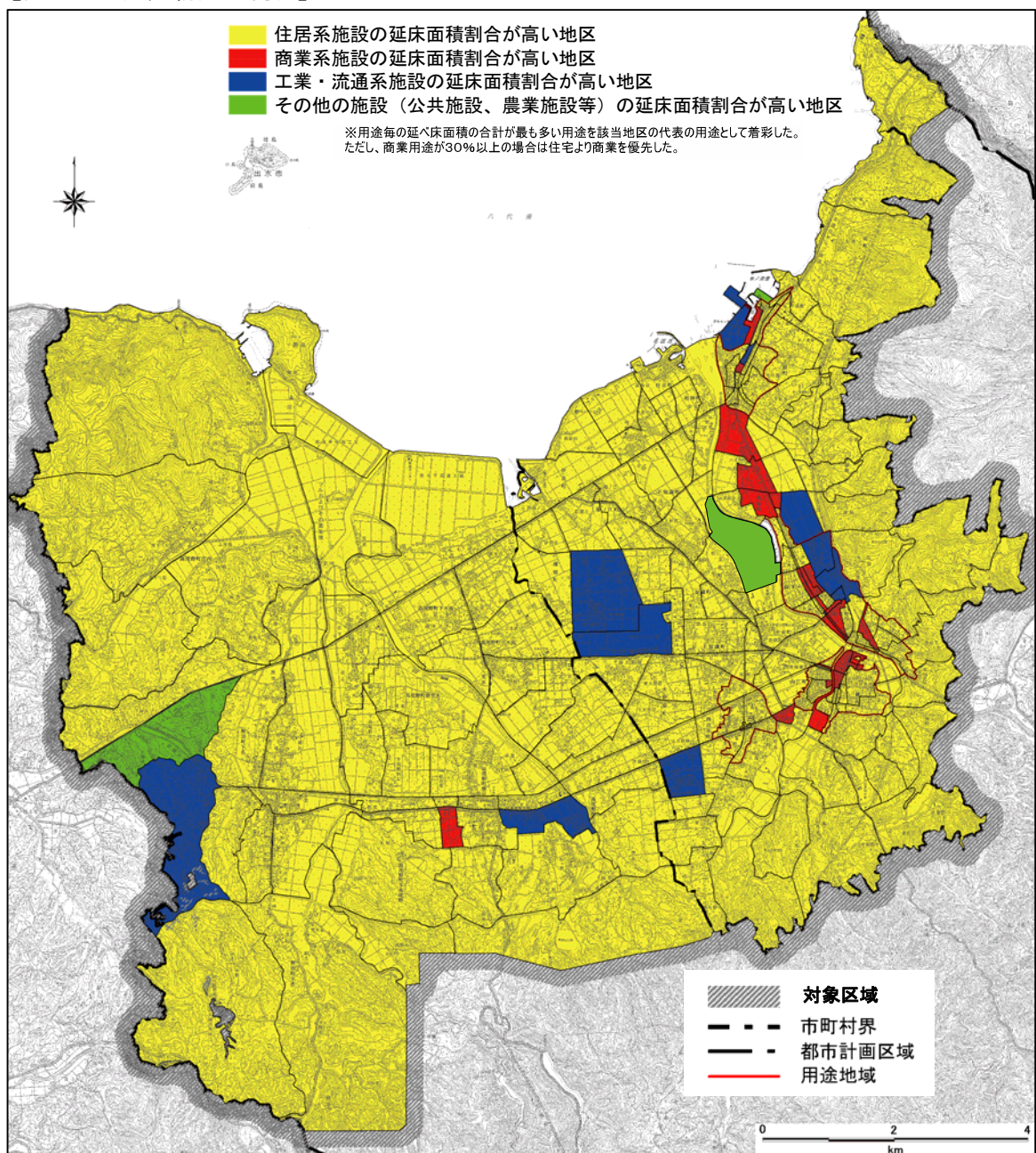
(1) 用途別構成比

地区別の建物用途別延床面積構成比から、住居系施設、商業系施設、工業・流通系施設及びその他の施設（公共施設、農業施設等）面積割合が高い地区を図のとおり示します。

商業系施設の延床面積割合が30%以上の地区は、本町商店街周辺（本町）、出水駅周辺（緑町、昭和町）、国道3号沿道（米ノ津町）、国道447号沿道（六月田町、黄金町）及び高尾野駅西側（高尾野町柴引）などです。

また、工業・流通系施設の延床面積割合が高いのは、沖田工業団地（緑町）、出水駅周辺、平和町工業地、大野原工業地、米之津港工業・流通業務地、高尾野工業団地（高尾野町大久保）及び野田工業地（野田町上名）などです。

【図 地区別建物用途現況】



出典：平成21年度都市計画基礎調査

(2) 地区別建物建ぺい率

地区別の建物敷地における建ぺい率は、用途地域内で 20.2%、用途無指定地域で 16.3%、都市計画区域で 17.4%となっています。都市計画区域外は 15.0%、対象区域全体で 16.3%となっており、用途地域内が比較的高くなっています。

用途地域別にみると、商業地域で 29.5%、第二種低層住居専用地域で 27.0%、第一種中高層住居専用地域で 26.6%と比較的高く、工業地域や準工業地域では低くなっています。

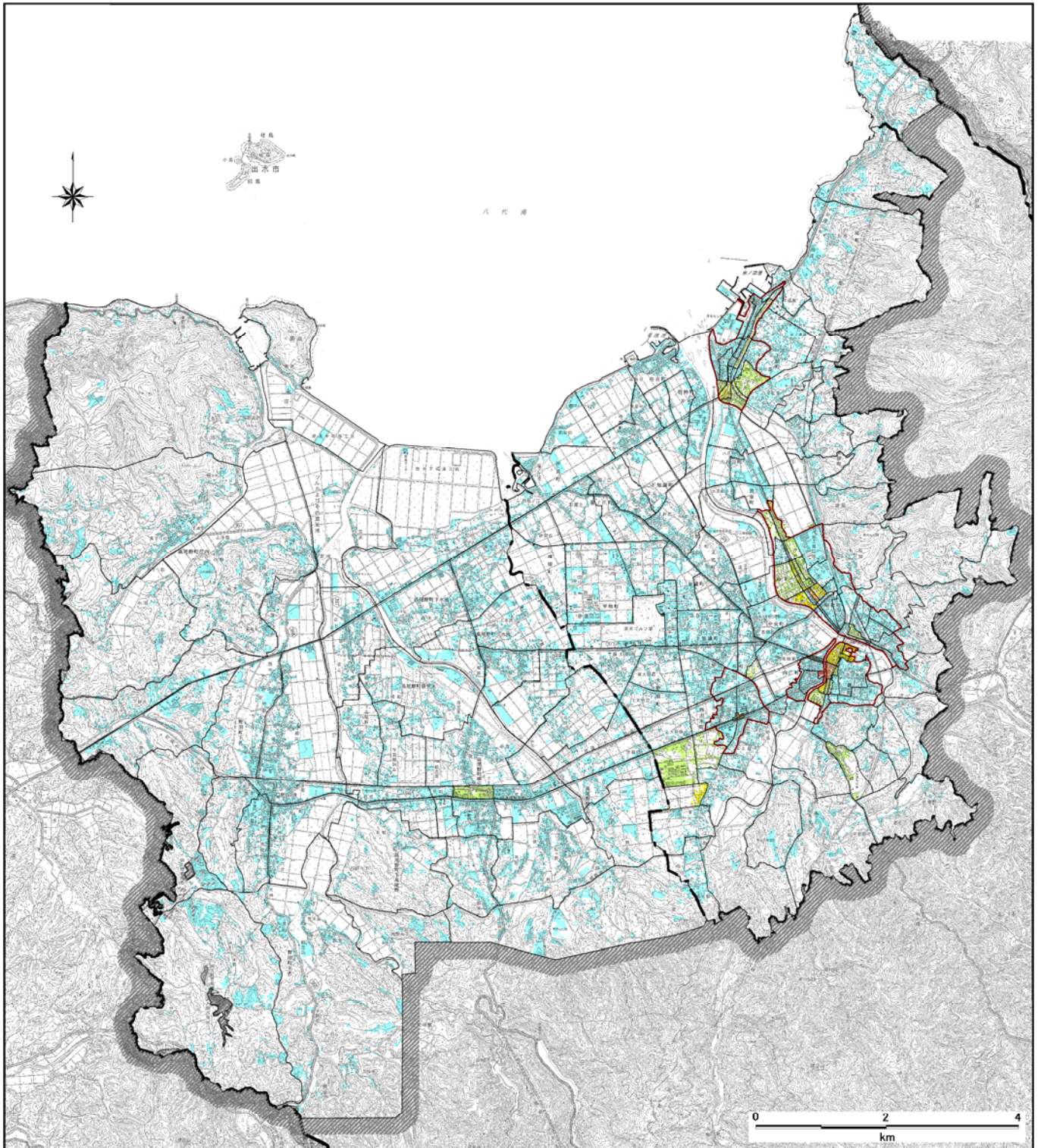
ほとんどの地区で建ぺい率は 30%未満であり、土地利用密度は低くなっています。建ぺい率が 30%以上の地区は、市役所周辺、本町商店街周辺、出水駅、米ノ津駅周辺、大野原工業地周辺及び高尾野駅周辺などです。

また、本町商店街周辺では、一部が 50%以上となっています。

【表 地区別建ぺい率状況】

	敷地面積 (㎡)	建築面積 (㎡)	建ぺい率 (%)
第一種低層住居専用地域	450,393	74,129	16.5
第二種低層住居専用地域	51,534	13,926	27.0
第一種中高層住居専用地域	324,358	86,397	26.6
第二種中高層住居専用地域	-	-	-
第一種住居地域	1,195,608	280,888	23.5
第二種住居地域	757,981	154,405	20.4
準住居地域	114,851	23,337	20.3
近隣商業地域	377,265	61,856	16.4
商業地域	320,698	94,753	29.5
準工業地域	100,767	15,415	15.3
工業地域	564,213	56,986	10.1
工業専用地域	-	-	-
用途地域計	4,257,668	862,092	20.2
用途無指定地域	11,354,382	1,851,589	16.3
都市計画区域	15,612,049	2,713,681	17.4
都市計画区域外（出水）	924,231	125,308	13.6
都市計画区域外（高尾野）	8,099,306	1,338,682	16.5
都市計画区域外（野田）	4,007,979	487,107	12.2
都市計画区域外	13,031,516	1,951,097	15.0
合計	28,643,565	4,664,778	16.3

出典：平成 21 年度都市計画基礎調査



【図 地区別建ぺい率現況】



出典：平成 21 年度都市計画基礎調査

(3) 地区別建物容積率

地区別の建物敷地における容積率は、用途地域内で 24.7%、用途無指定地域で 18.0%、都市計画区域で 19.9%となっています。

また、都市計画区域外で 16.8%、対象区域全体で 18.4%となっています。

用途地域別にみると、商業地域で 43.0%、第一種中高層住居専用地域 31.5%と比較的高く、工業地域や準工業地域では低くなっています。

地区別の容積率をみると、ほとんどの地区で容積率は 50%未満であり、容積率が 40%以上の地区は、市役所周辺、本町商店街周辺、米ノ津駅周辺、大野原工業地周辺及び高尾野駅周辺ですが、全体からするとそれほど多くありません。

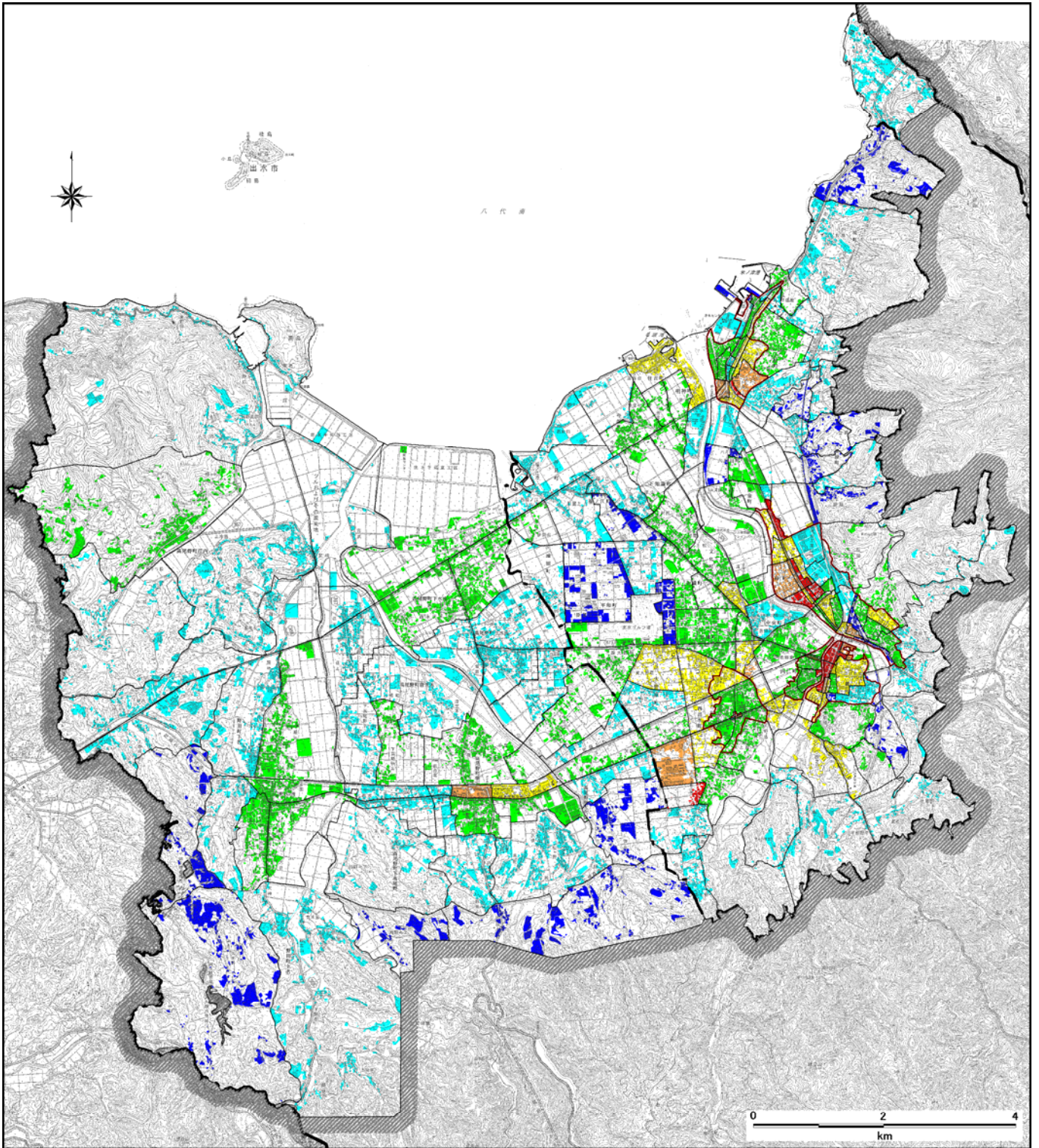
建物の延べ床面積と建築面積から平均階数を算出したところ、商業地域で 1.5 階、近隣商業地域で 1.4 階であるのを除き、1.0~1.2 階程度となっています。

このことから、全体的にゆとりをもった土地利用が行われていることが分かります。

【表 地区別容積率状況】

	敷地面積 (㎡)	延べ床面積 (㎡)	容積率 (%)	建築面積 (㎡)	平均階数
第一種低層住居専用地域	450,393	91,780	20.4	74,129	1.2
第二種低層住居専用地域	51,534	14,263	27.7	13,926	1.0
第一種中高層住居専用地域	324,358	102,289	31.5	86,397	1.2
第二種中高層住居専用地域	-	-	-	-	-
第一種住居地域	1,195,608	307,922	25.8	280,888	1.1
第二種住居地域	757,981	198,206	26.1	154,405	1.3
準住居地域	114,851	24,991	21.8	23,337	1.1
近隣商業地域	377,265	89,257	23.7	61,856	1.4
商業地域	320,698	137,840	43.0	94,753	1.5
準工業地域	100,767	16,570	16.4	15,415	1.1
工業地域	564,213	70,099	12.4	56,986	1.2
工業専用地域	-	-	-	-	-
用途地域計	4,257,668	1,053,217	24.7	862,092	1.2
用途無指定地域	11,354,382	2,046,772	18.0	1,851,589	1.1
都市計画区域	15,612,049	3,099,989	19.9	2,713,681	1.1
都市計画区域外（出水）	924,231	129,738	14.0	125,308	1.0
都市計画区域外（高尾野）	8,099,306	1,490,849	18.4	1,338,682	1.1
都市計画区域外（野田）	4,007,979	563,698	14.1	487,107	1.2
都市計画区域外	13,031,516	2,184,284	16.8	1,951,097	1.1
合計	28,643,565	5,284,273	18.4	4,664,778	1.1

出典：平成 21 年度都市計画基礎調査



【図 地区別容積率現況】



出典：平成 21 年度都市計画基礎調査